

AK2  
311  
2



0008170-000

AK2-311-2

朝鮮警察の概要

朝鮮総督府警務局

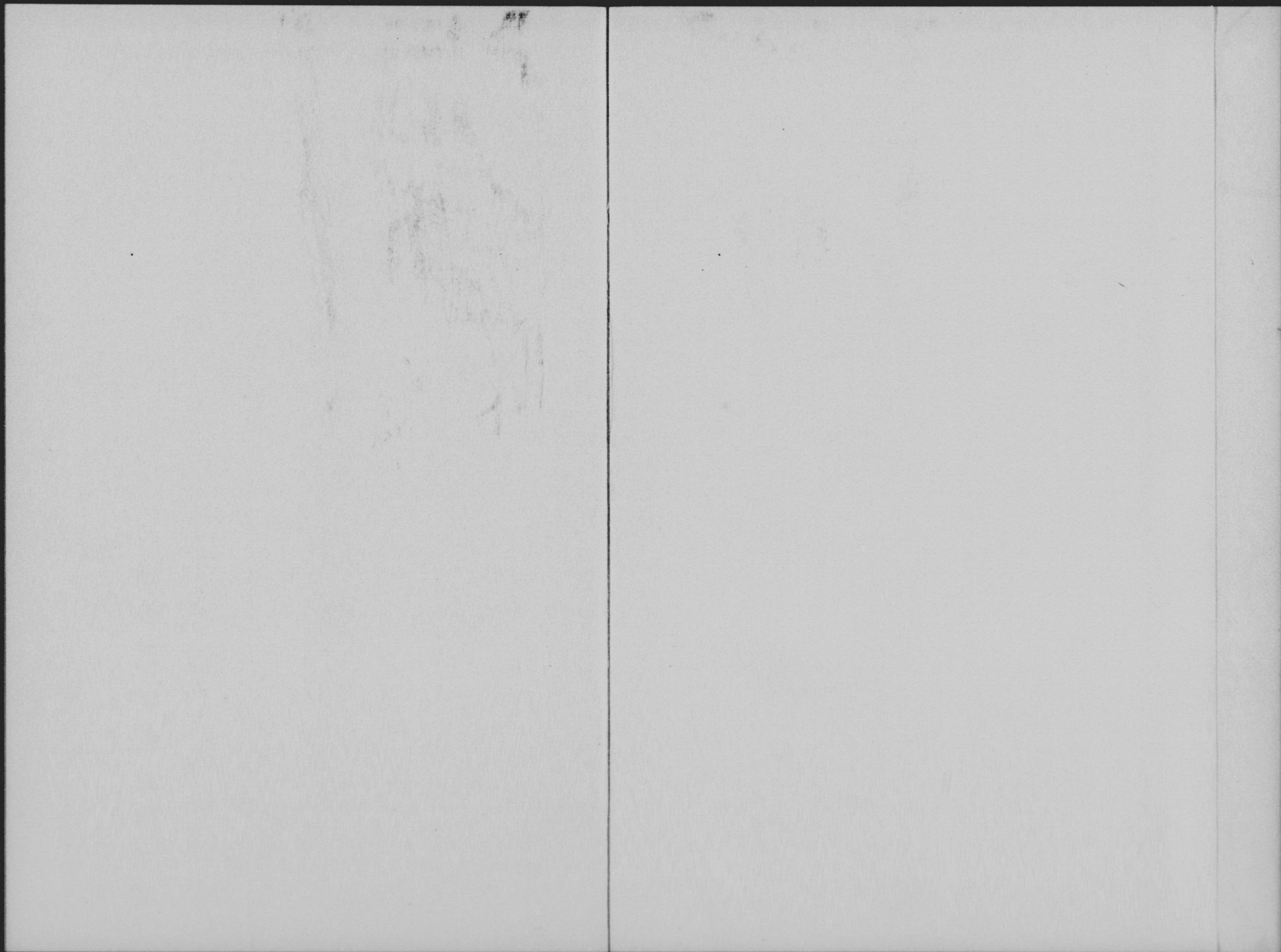
1927

ABH





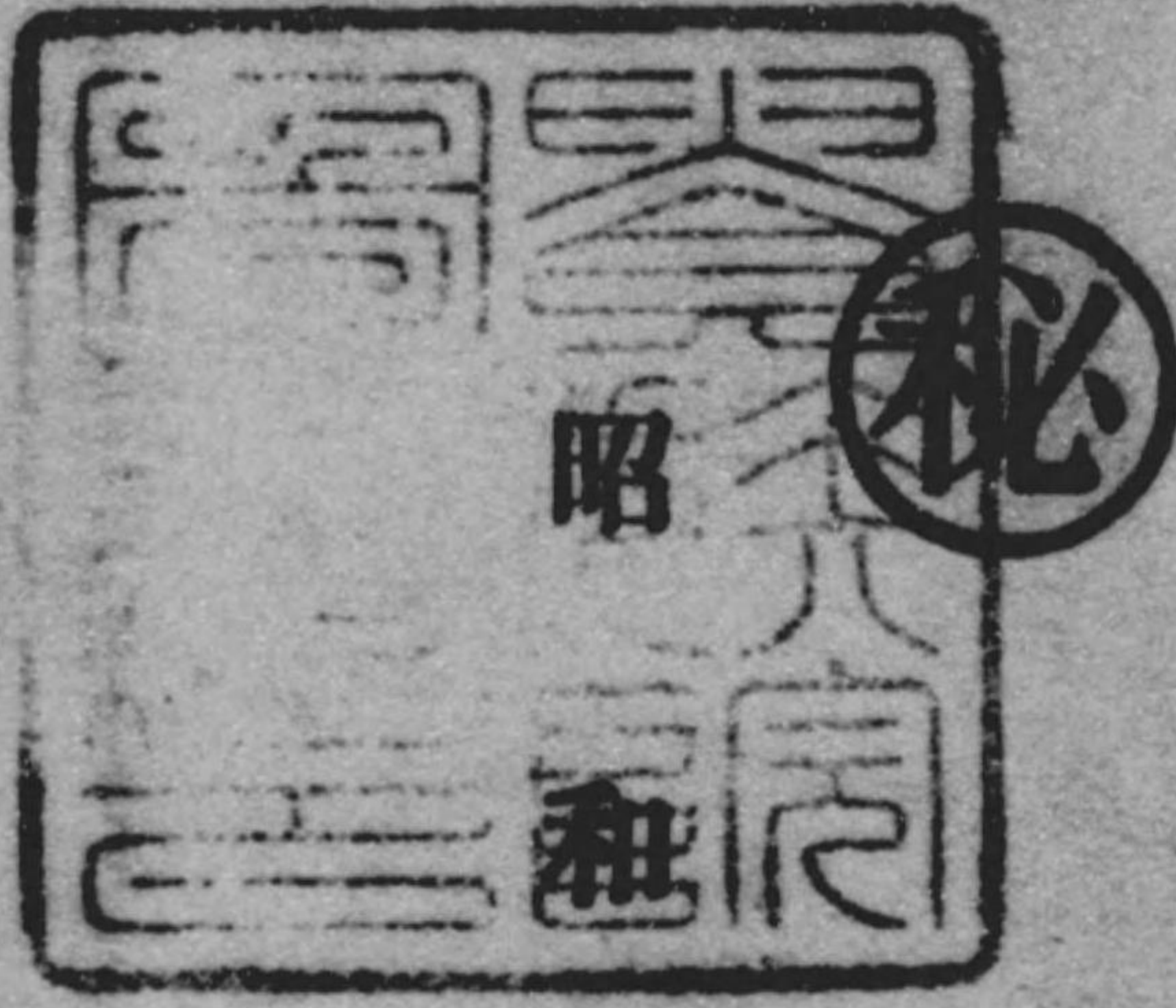






汎 170.

朝鮮警察の概要



二年

朝鮮總督府警務局

貴族院  
函  
号  
冊



貴族院  
函  
号  
册

AK2  
311  
2



○  
昭和二年十二月廿三日  
山本書局  
寄贈

780562

朝鮮の果樹面積人口密度對比表

人口密度

山本書局

二二五

州

龍岩浦



# 朝鮮警察配置圖



日本書局發行  
二十二年





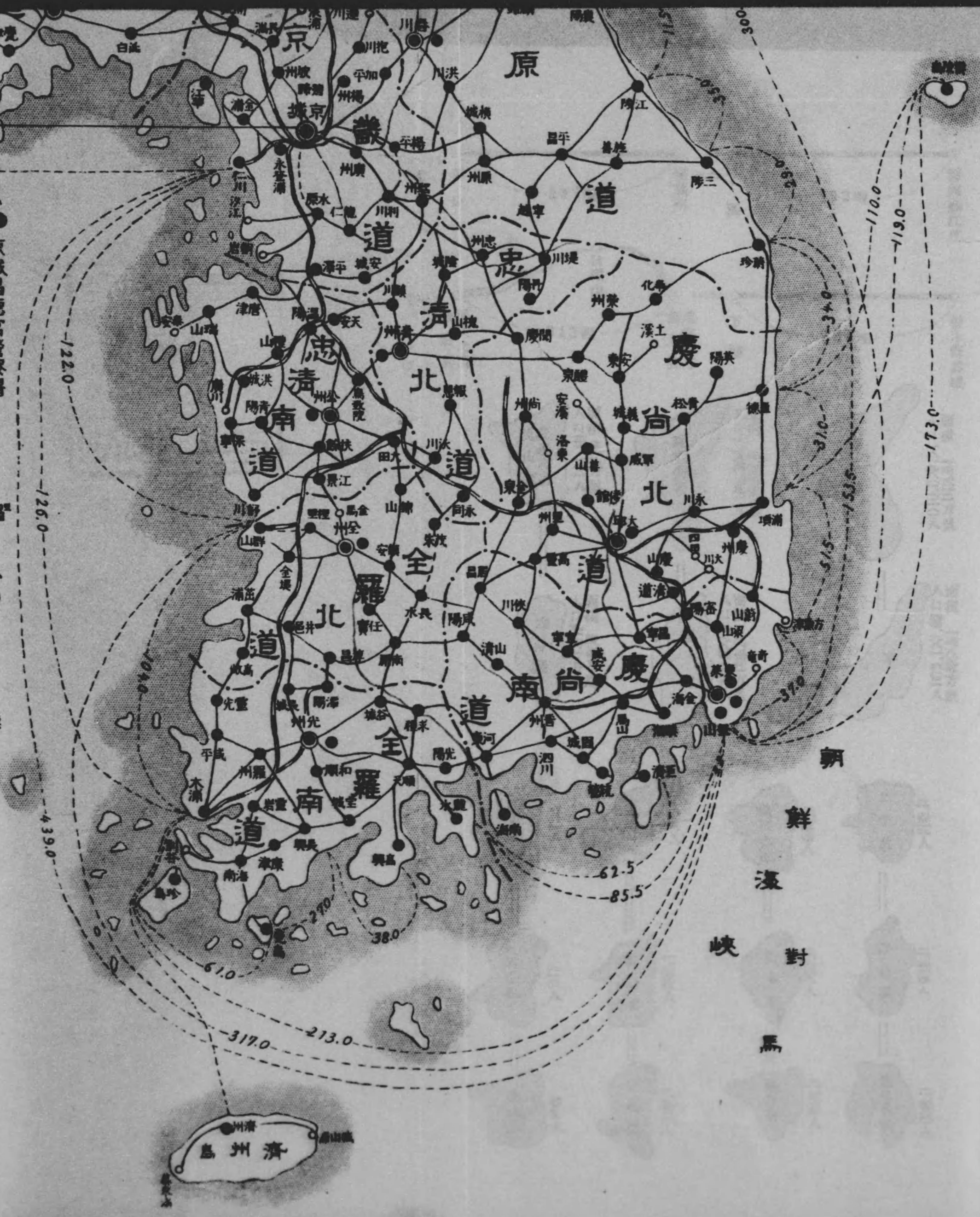


- 京城昌德宮警察署
- 京城本町警察署
- 京城鐘路警察署
- 京城東大門警察署
- 京城西大門警察署
- 龍山警察署



例九

鐵河 同 自 道 道 國 警 道  
 道 川 路 路 路 路 界 界 界 界 署 廳

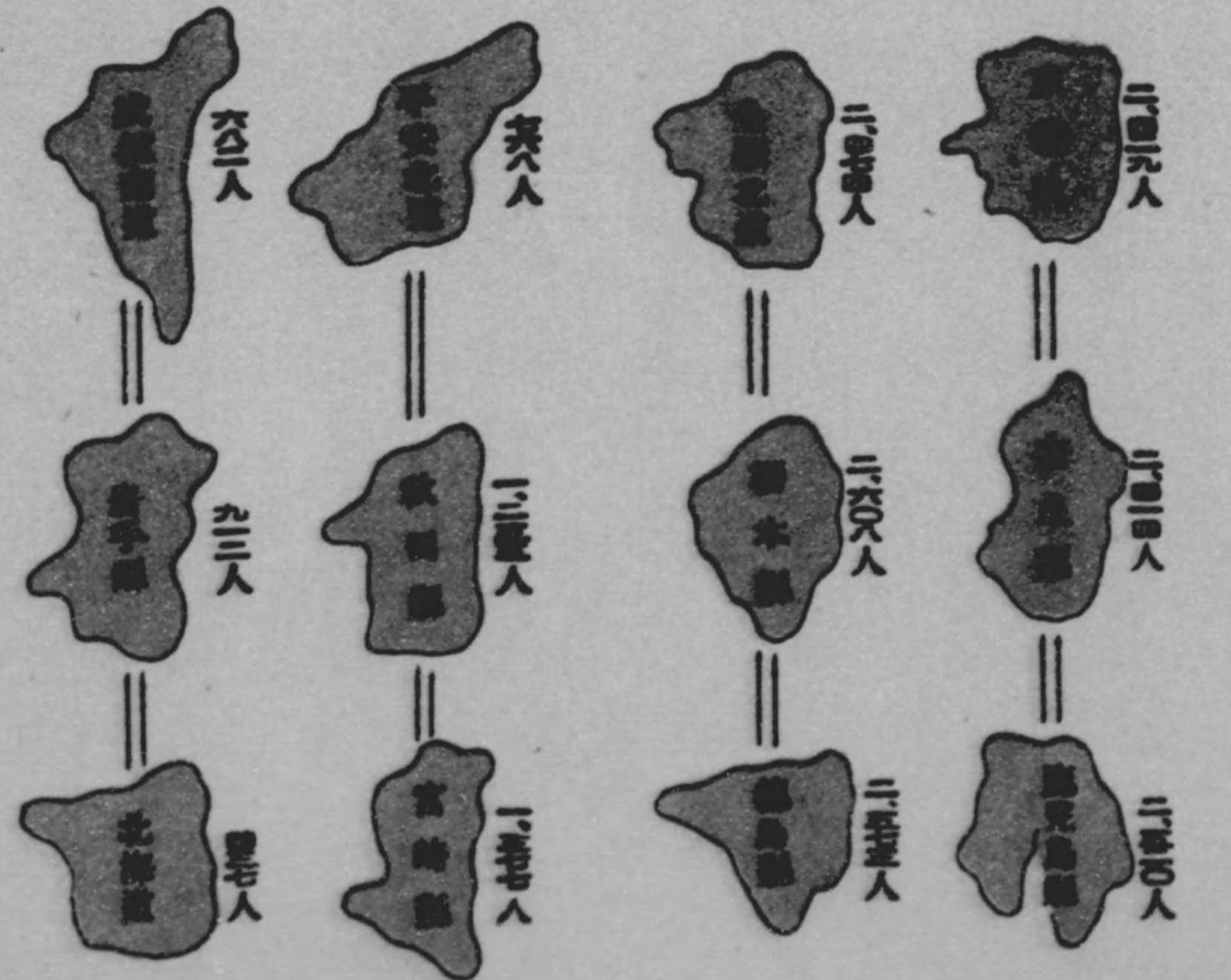
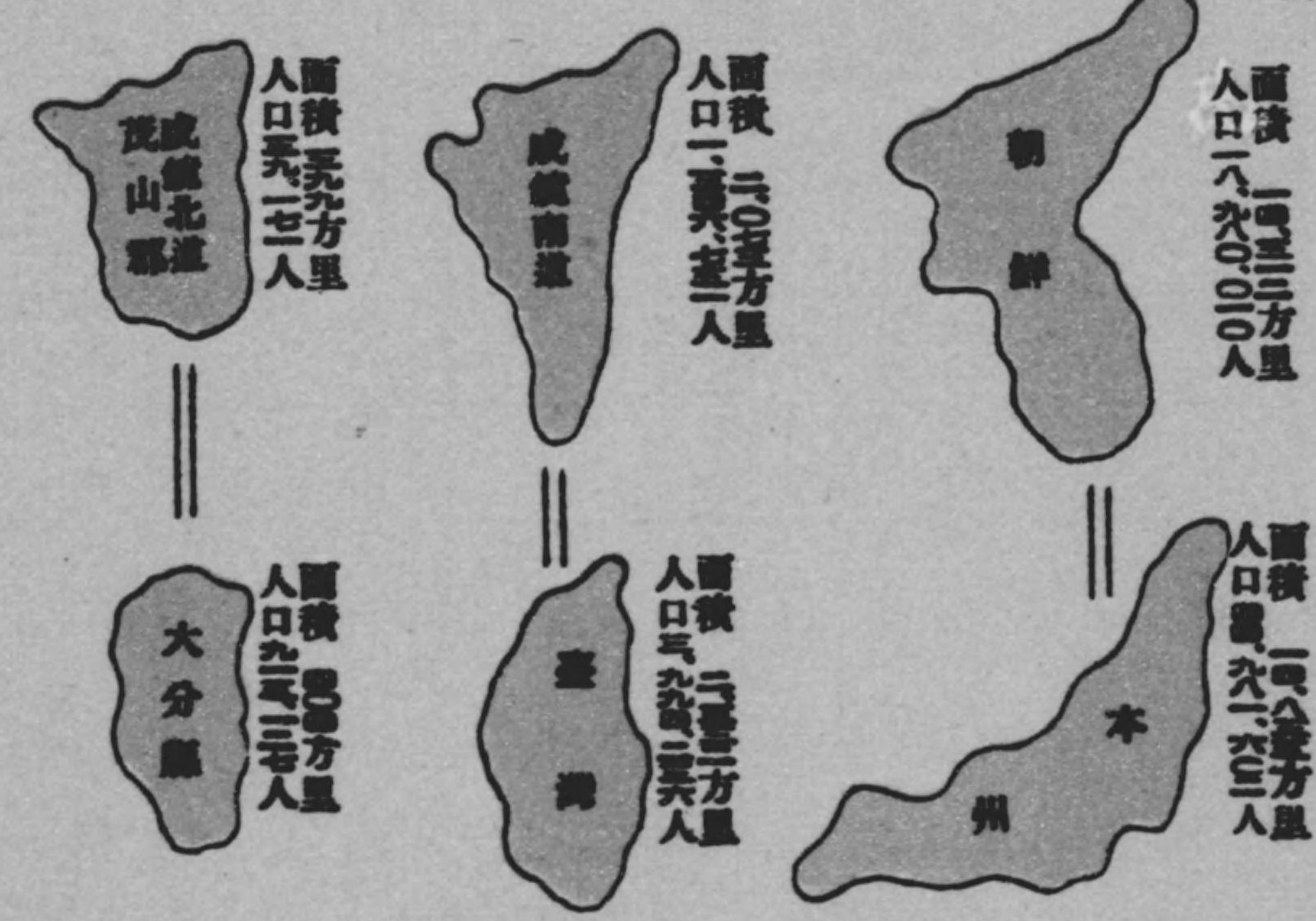
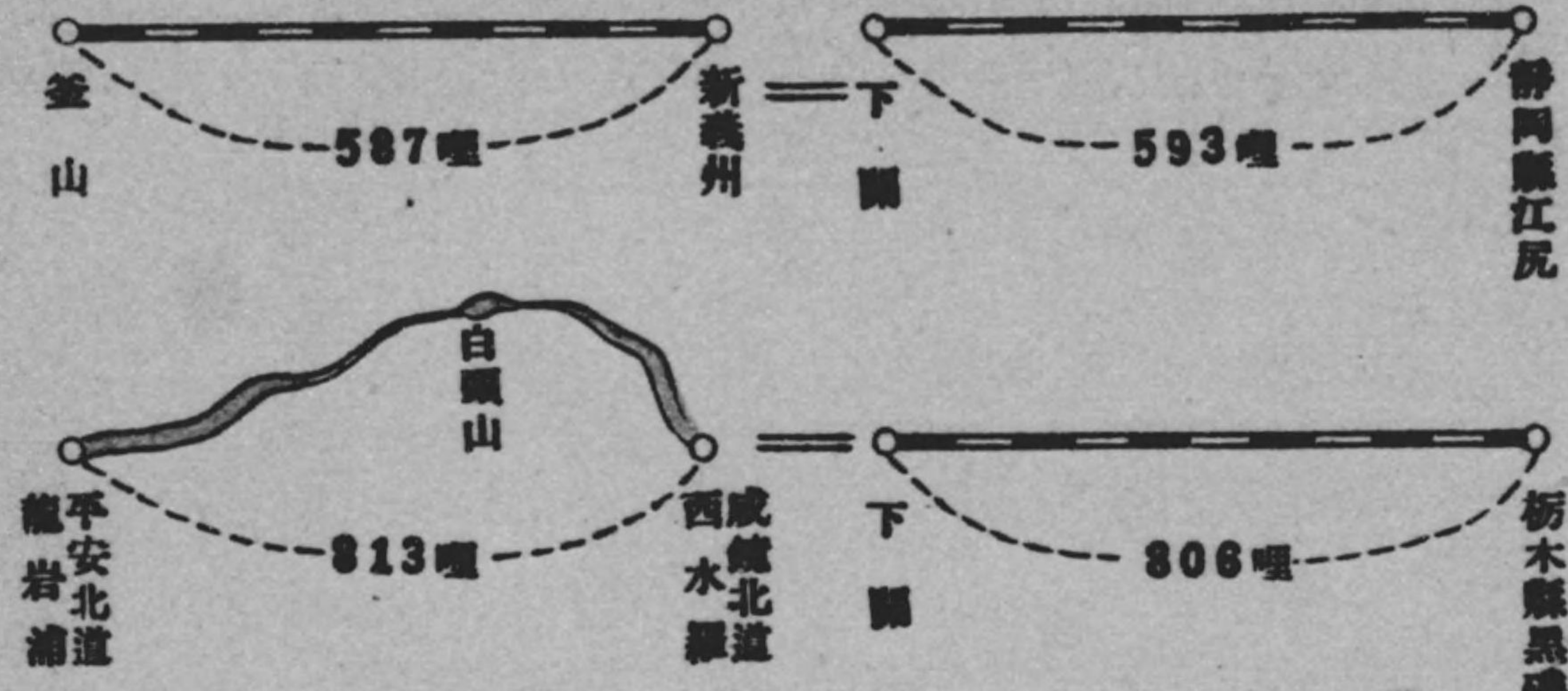


濟州島

朝鮮  
 漢  
 峽  
 對  
 馬

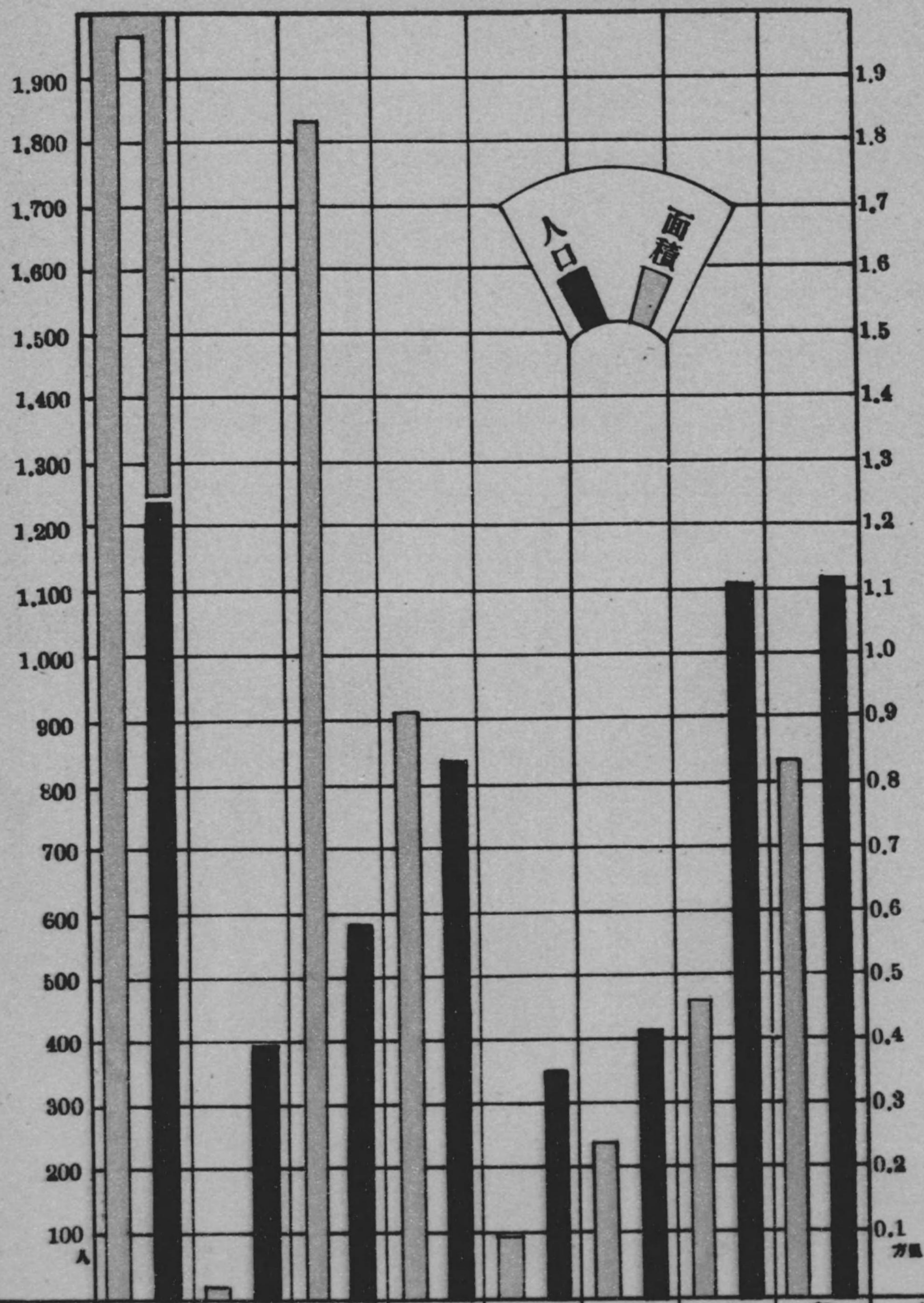


朝鮮の里程面積人口密度對比表





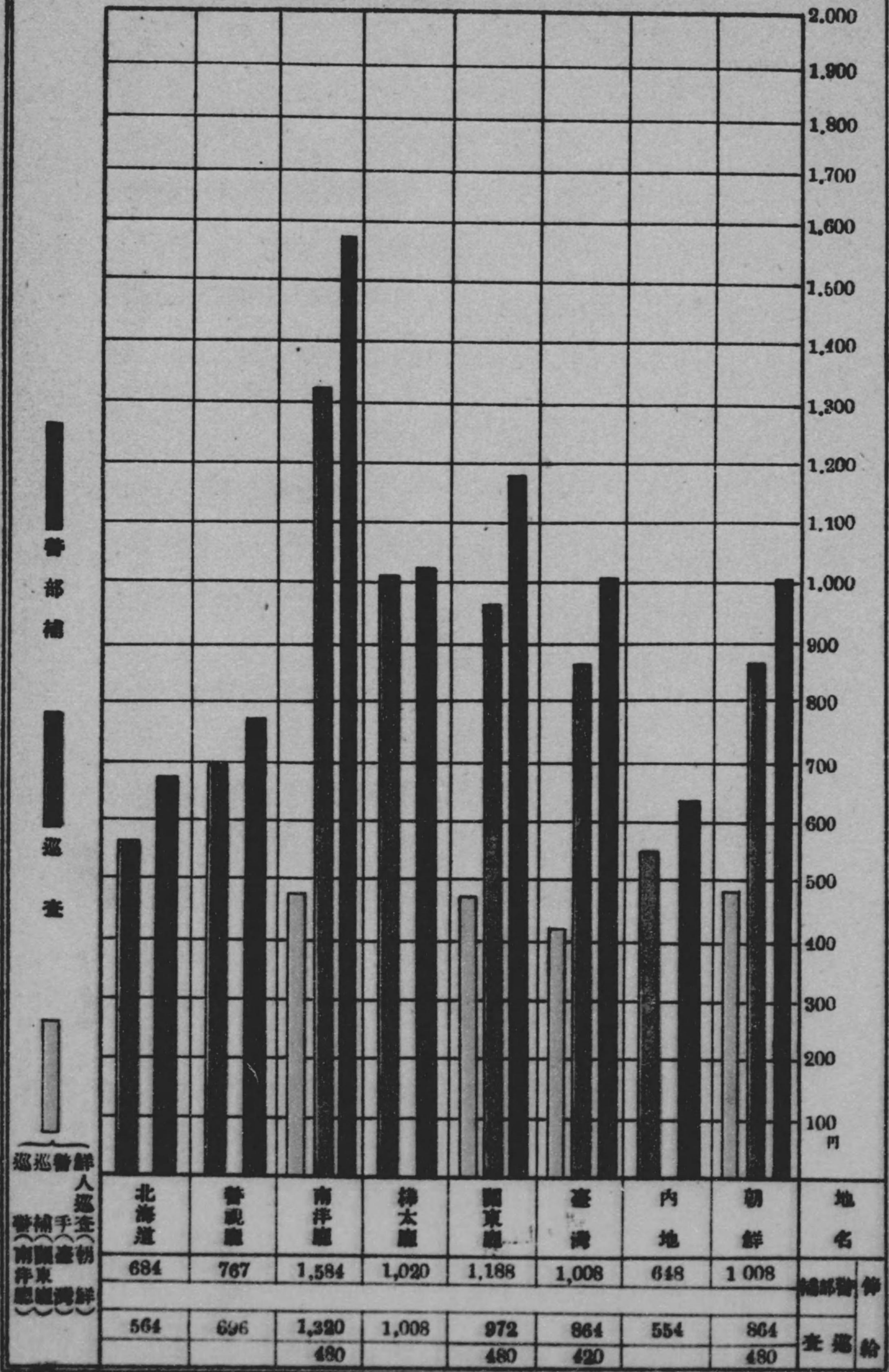
較比口人積面擔負り當人一查巡



地名	面積	人口
北海道	0.83	1,240
青森	0.02	893
南洋	1.83	587
樺太	9.17	844
關東	0.09	352
臺灣	0.23	404
内地	0.46	1,119
朝鮮	0.83	1,135

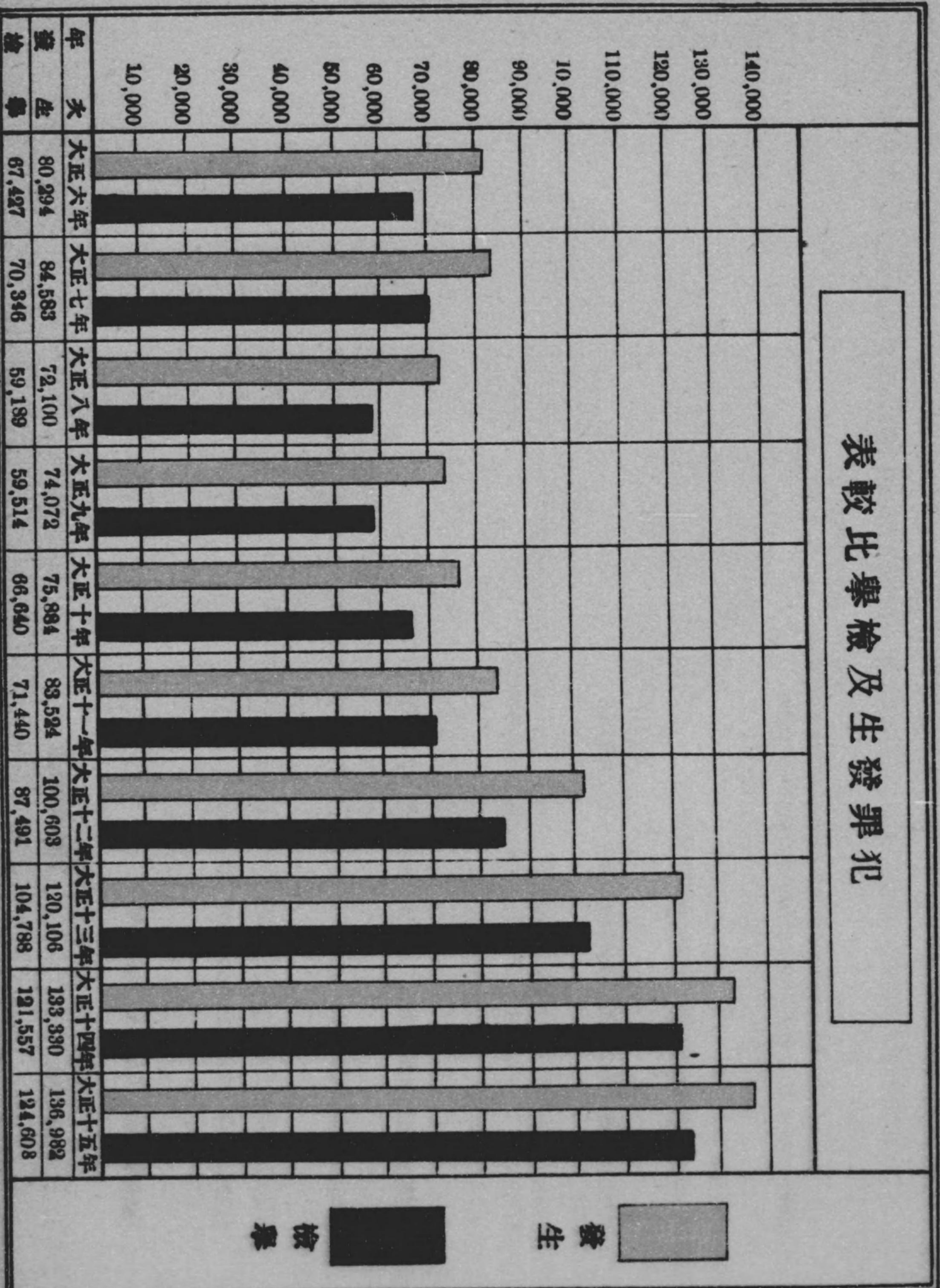


### 警部補及巡查給俸比較



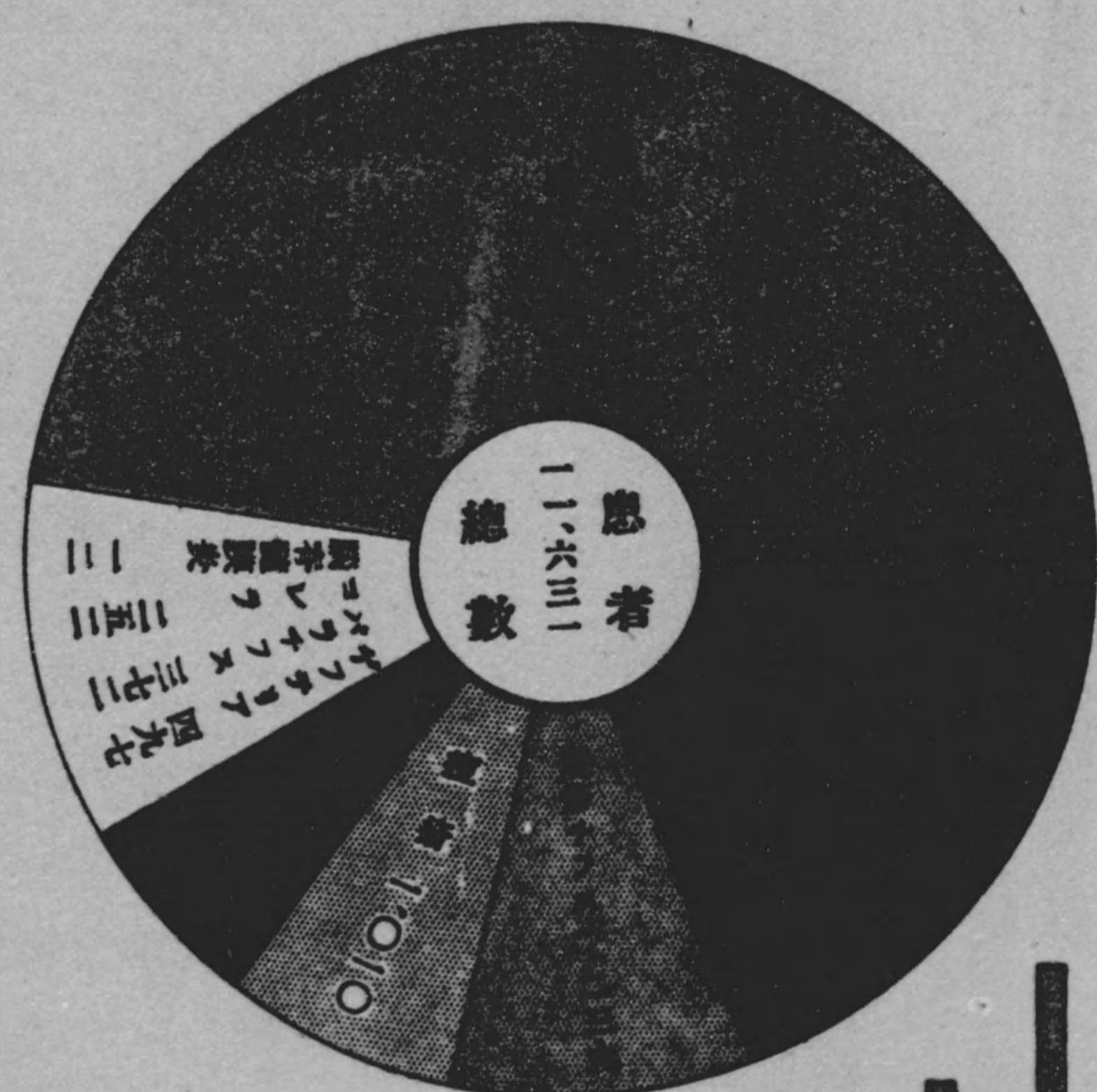


比較比舉檢及生發罪犯

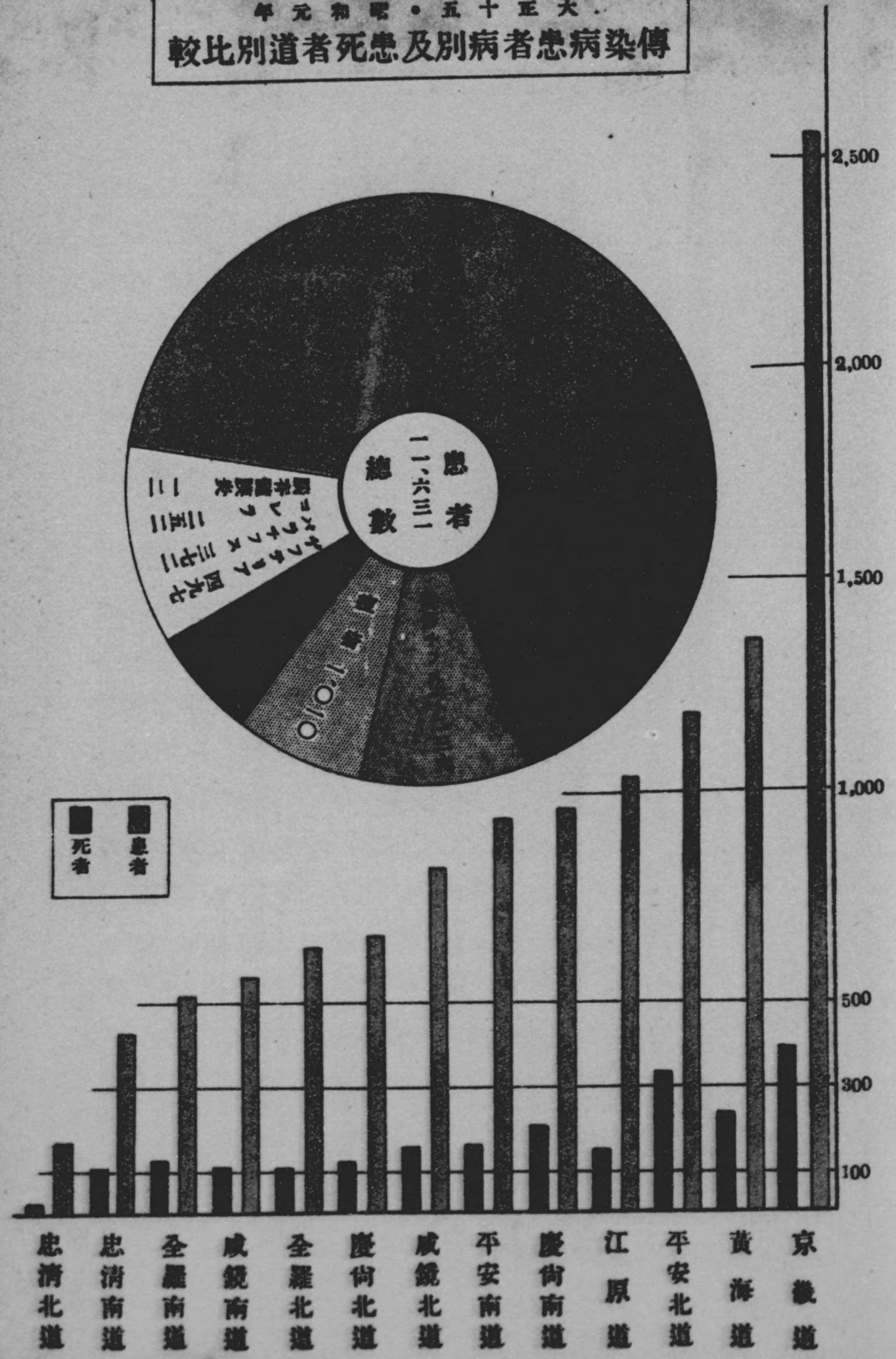




年元和昭・五十五大  
較比別道者死患及別病者患病染傳

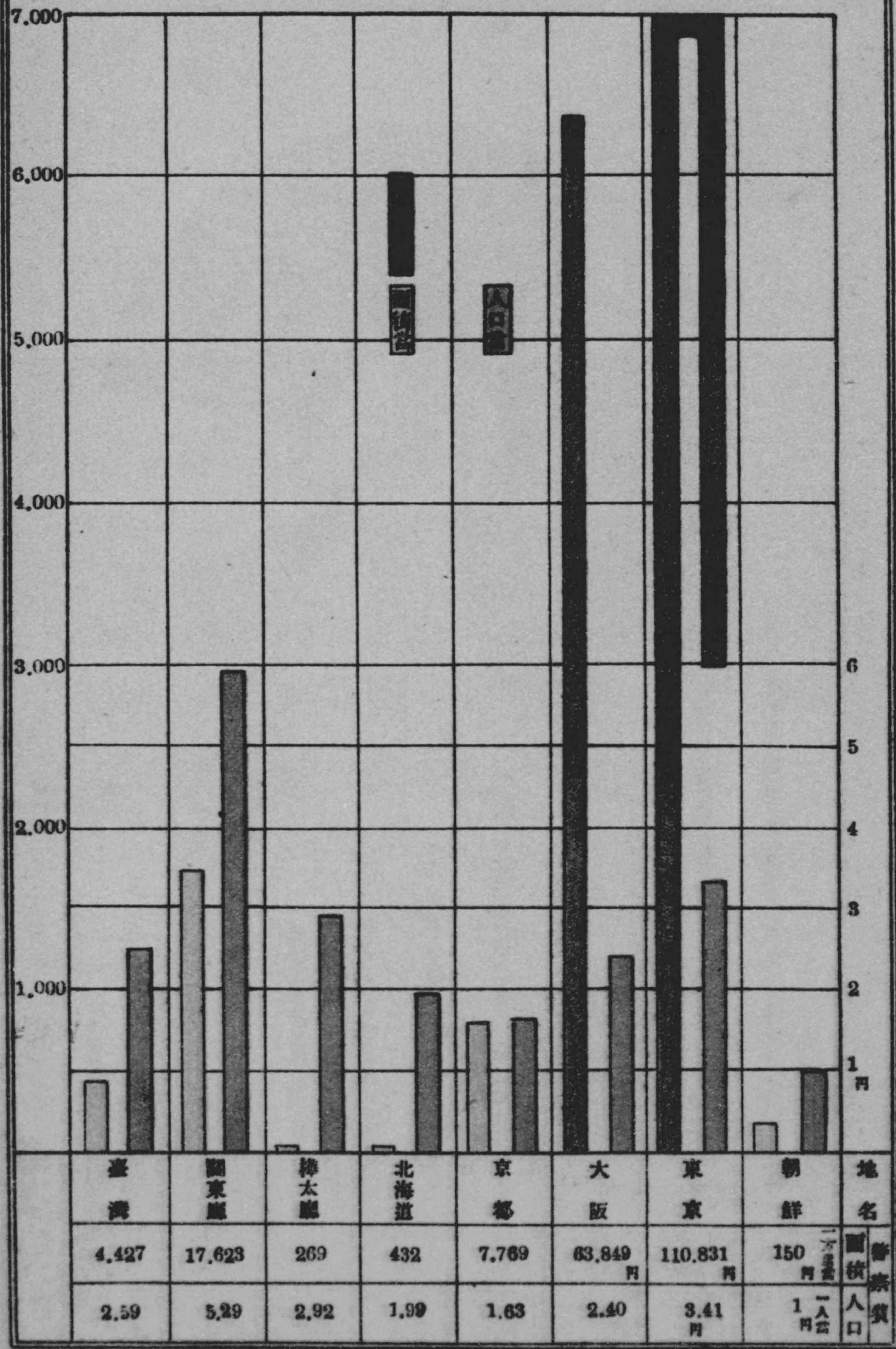


死者 患者





較比費察警當 人口一人  
風方一積面

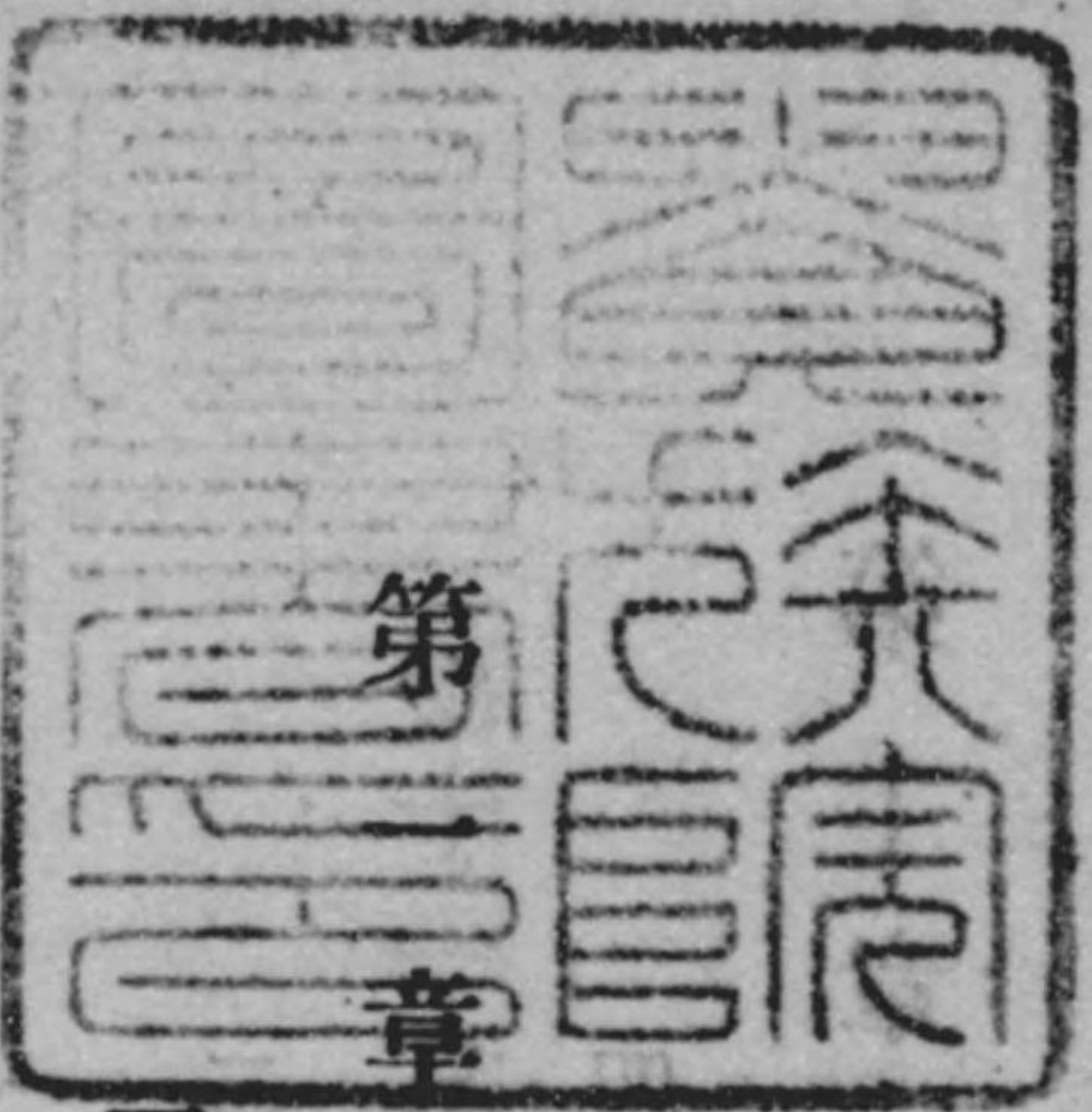




# 朝鮮警察の概要目次

## 緒言

### 朝鮮警察制度の沿革



### 第一章 警察創始時代

#### 一 警察権の委託

#### 二 併合と列國居留地警察の撤去

#### 三 警察制度の改正

#### 四 現在の警察力

## 第二章 警察機關

## 第三章 警察管轄

#### 一 管轄の概要

#### 二 巡査の負擔率



第四章 水上警察……………二九

第五章 警備電話……………三一

第六章 警察法令……………三三

第七章 警察文書……………三五

第八章 警察費……………三七

第九章 警察職員……………四〇

一 職員の配置……………四〇

二 勤続年数……………四四

三 年 齡……………四七

四 本 籍……………四九

第十章 警察官の教養……………五一

一 巡査の募集……………五一

二 教養機關及方法……………五四

三 教育程度……………五五

四 語學の能率……………五八

第十一章 警察官の進退及紀律……………六〇

一 進 退……………六〇

二 職務上の死傷……………六五

三 懲 罰……………六六

四 賞 與……………六八

五 精勤者……………七〇

第十二章 警察官の服務狀態……………七二

一 服務の概況……………七二

二 特種勤務……………七三

三 巡査の休暇……………七七



第十三章 警察官の給與……………八一

第十四章 警察官の生活状態……………八六

第十五章 犯罪状況……………九三

一 概況……………九三

二 犯罪即決……………九七

第十六章 治安状況……………九九

一 併合前の状況……………九九

二 併合後の状況……………一〇〇

三 騒擾事件後の状況……………一〇一

四 最近の状況……………一〇二

第十七章 國境警備……………一〇六

一 國境地方の地勢……………一〇六

第十八章 在外鮮人の状況……………一一六

一 分布の状況……………一一六

二 移住の沿革……………一一六

三 最近の状況……………一一七

第十九章 保安状況……………一二四

一 労働争議……………一二四

二 小作争議……………一二七

三 衡平運動……………一三〇

四 集會結社取締……………一三三

五 新聞雜誌取締……………一三三



六 活動寫眞「フィルム」檢閲……………一三五

第二十章 行政警察……………一三七

- 一 銃砲火藥類取締……………一三八
- 二 煙火、引火質物貯藏所其他危險物取締……………一四〇
- 三 狩獵取締……………一四二
- 四 電氣事業取締……………一四二
- 五 原動機取締……………一四三
- 六 交通取締……………一四四
- 七 宿屋取締……………一四八
- 八 料理屋、飲食店、藝妓置屋、貸座敷、藝妓、娼妓、酌婦取締……………一五〇
- 九 私娼取締……………一五二
- 十 質屋取締……………一五三
- 十一 古物商取締……………一五四
- 十二 古墳遺物保存に關する取締……………一五五

- 十三 代書業者取締……………一五六
- 十四 朝鮮勞働者募集取締……………一五六

第二十一章 内地に於ける朝鮮人勞働者の狀況……………一五八

- 一 内地渡航の狀況……………一五八
- 二 分布の狀況……………一六〇
- 三 就職の狀況……………一六二
- 四 收入及生活の狀況……………一六三
- 五 思想傾向……………一六四

第二十二章 消防……………一六五

- 一 消防機關……………一六五
- 二 消防機械機具……………一六七
- 三 火災發生及損害……………一六八

第二十三章 衛生施設……………一七〇



一 概況……………一七〇

二 醫療機關……………一七三

第二十四章 賣藥及阿片取締……………一七八

一 賣藥取締……………一七八

二 阿片取締……………一八一

三 モルヒネ、コカイン及其の鹽類並中毒者の取締……………一八三

第二十五章 傳染病及地方病……………一八四

一 傳染病……………一八四

二 地方病……………一九一

第二十六章 獸疫……………一九三

第二十七章 移出牛檢疫……………一九八

第二十八章 屠場及屠畜取締……………二〇〇

第二十九章 警察協會……………二〇三



緒言

朝鮮の面積は一萬四千三百二十方里にして内地の本州より滋賀縣を除きたると略其の面積を等ふるも人口は内地本州の四千六百十四萬餘人に對し千九百五十二萬餘人にして約五分の二に過ぎず、然れども之を南北に別ちて觀るときは北鮮は著しく稀薄なるも南鮮は内地の密度と著しき懸隔なく、全羅北道は大分縣より忠清北道は宮崎縣より濃密なり。

行政區劃は十三道を置き之を十二府二島二百十八郡に分つ、而して其の面積概して廣大にして咸鏡南道の如きは二千七十三方里、恰も内地に於ける關東地方一府六縣に匹敵し、郡に於ても咸鏡北道茂山郡の如きは四百餘方里を管轄し大分縣と略等しく、面(内地の町村に該當す)に於ても咸鏡南道茂山郡三社面の如く百四十六方里に徑り神奈川縣と略等しきものあり。

地勢は高山峻嶺の著しきものに乏しきも到る處山岳重疊し巒々として相連り、其の間に一團の茅屋點在して小邑をなし、隣邑互に十數里を距るもの珍からず、従つて交通未だ不便の域を脱するに至らず、殊に降雪出水の爲めその杜絶を來すことありと雖、鐵道は歐亞に通する釜山、新義州間の半島縱貫線を幹線とし幾多の支線、私營鐵道敷設せられ、其の延長一千八百二十二哩餘に達し、加之近時各都邑間を連絡する乗合自動車線著しく發達し定期不定期を合して其の延長三千六百四十四里餘に達し



尙益々發達の狀勢にあり。

氣候亦南北に依りて寒暑の差著しく、從つて住民の生活上にも自ら相異なるものあり、即ち朝鮮は概して平溫内地の本州中部と渝らす、土地拓け、民情穩健なるに反し、北鮮は常に大陸的氣候の影響を受け、加之地味礪确不毛交通開けず、其の民情は素朴剽悍なるものあり。

斯の如く管轄面積廣大にして僻遠未開の地多く、又國境の西北部は支那及露西亞と相接壤し、露西亞は共產黨に依り、支那は馬賊及不逞輩に依り蠢動熄まず、時に國交上の交渉を生し易く從つて朝鮮警察は平時は普通警察行政に従事するも一朝事あるに當つては銃劍を把つて立ち、捜査、攻撃、殺撫の三者を兼ねたる活動を必要とし、加之内地人警察官は朝鮮語に、朝鮮人警察官は國語に熟達せざるへからざる等、自ら内地其の他の警察とその趣を異にするものあり、以下章を逐ふて之か概要を述べむ。

## 第一章 朝鮮警察制度の沿革

### 一 警察創始時代

舊韓國政府時代に於ける警察制度は名あるも實なく常に權門の手足となり誅求を擅にするに過ぎずして弊害百出混沌の狀態なりき、之を以て民生塗炭の苦を救ふは警察の改善より最なるものなきより明治二十七年帝國政府より警察顧問を推薦せしも外交上の消長に伴ひ施設半途にして了り爾後露國、佛國等より顧問を聘せしも徒らに政争の爪牙となるに過ぎざりき。

明治三十七年帝國政府より推薦せる警察顧問によりて刷新改善を圖り漸く其の體を爲すに至りたるを始とす。

帝國は領事裁判權を有するを以て外務省警察官を置きて領事に隸屬せしめ在留帝國臣民の保護取締に任せしめたりしも明治三十八年十一月の協約により公使館領事館を撤廢して新に統監府理事廳を設置し統監府警察官を配置したり。

先之帝國は其の架設せる電信保護の目的を以て各地に憲兵を駐屯せしめありしか明治三十九年二月憲兵をして韓國に於て軍事警察の外、行政警察及司法警察を掌らしめ、行政警察及司法警察に付ては



二  
統監の指揮を承けしむることに定め、越えて明治四十年十月憲兵は主として治安維持に關する警察を掌り、其の職務の執行に付統監に隸屬し、兼て軍司令官の指揮を承け軍事警察を掌ること、なれり、斯くて憲兵、統監府警察官何れも統監の下に統轄せられ警備機關は漸次整備の緒に着けりと雖、當時は匪徒草賊各地に出沒し、所在に良民を剽掠し剿滅容易ならざるものありしなり。

## 二 警察權の委託

明治四十年十月帝國政府は統監府警察官を廢し日本人及外國人に對する警察は韓國政府に備聘せられたる日本人たる警察官をして執行せしむることに改め次て。明治四十三年六月舊韓國政府は公安維持、内外人の生命財産の保證を完全ならしむるべく一層警察機關の統一敏活の要あるを認め、之か制度を完全に改良するの目的を以て、警察事務の一切を舉げて帝國政府に委託し、舊韓國内部大臣の補助機關たる警務局及觀察使の補助機關たる警察部は勿論、其の統轄に屬したる警視廳、警察署、同分署等は之を廢止せり。茲に於て明治四十三年六月二十九日帝國政府は統監府警察官署官制を發布し警務總監部、警務部及警察者の官制を設け警務總長、警務官、警務部長、警視、警部、技師、通譯官、技手、通譯生、警察醫、巡查、巡查補を以て之を組織し、統監の直屬として地方行政機關の外に特立

せしめ、中央に警務總監部を各道に警務部を置き、警務總長には韓國駐節の憲兵の長たる陸軍將官を以て之に充て警務總監部の長となり、統監の命を承け部務を總理し、警務部長は各道の憲兵隊長たる佐官を以て之に充て警務總長の命を承け部務を掌理す、然れども京城は舊韓國の首都たり、且特殊の事情あり、之を他の地方と同一に律し難きに依り警務部長を置かず直接警務總長に於て警察事務を掌理せり。

斯くて韓國駐節憲兵の長たる司令官及憲兵隊長は一面統監府警察官として一般警察官を指揮すると共に、憲兵も亦統監府警察官の指揮を受けて普通警察及衛生警察事務を掌ること、なれり、警察署長には警視、警部を以て充て、警察署を置かざる地に於ける警察事務は憲兵分隊分遣所をして警察官署として之を取扱ふことに定めらる、仍つて憲兵隊長、同分遣所長たる憲兵將校下士は勿論、其の他の憲兵將校下士をして必要に應じ警視又は警部に任すること、せり。

爾後軍事警察を除く外警察と憲兵は各其の任務を均しくし命令亦一途に出で、從來の憲兵と警察との重複配置なきに至れり、而して各道内に於ける警察管轄區域は地方の狀況に適應する如く整理し、其の統一と保護の普及とを圖り、大體に於て鐵道沿線及開港地地方には警察機關に充つるに警察官を以てし、軍事警察上主要の地及僻遠の地並に國境地方には憲兵を配置し、事情止むなきもの、外彼此重複することを避け警察事務の能率増進を圖りたり。



### 三 併合ニ列國居留地警察の撤去

明治四十三年八月締結せられたる韓國併合條約の同年十月一日を以て實施せられ統監府を廢止して新に朝鮮總督府を設置し、統監府警察官署は朝鮮總督府警察官署に改正せられ、從來各國居留地に存在せる居留地警察官は韓國と列國との條約が當然無効に歸したる結果として之を撤去せり、而して憲兵警察の統合制は當時の現狀に鑑み已むを得ざる權宜の施設として依然其の制度を踏襲せられたり。

總督府設置以降は一層制度施設の整備に努め、明治四十三年十二月憲兵及警察の管轄區域及職員配置を改正し、集團配置の制なりしを可成分散配置とするの制を採り、數次に亘りて散在制度を實施し從來一駐在所に巡查、巡查補を通して多きは十餘名、最少五六名を下らざりしを改め内地人巡查一名或は二名の外巡查補二名乃至四名とせり。

大正四年三月警察官署官制を改正し、從來警務總監部に於て直接掌理せし京城に於ける警察及び衛生事務を京畿道警務部長の權限に移し、尙各道警務部長の部令を發布するに當りては先づ道長官の承認を要することゝなれり。

爾後職員を増減、管轄區域の整理及時代に伴ふ諸法規の發布施設改善を加ふる所ありしも警察憲兵の合一制度には著しき消長を見ざりき。

### 四 警察制度の改正

警察憲兵の統合制度を實施すること十年の久しきに及ひしも社會の狀態年と共に變遷し、特に歐洲大戰以來時勢の進運急劇を極め警察憲兵統合制度廢止の議盛に起り、廟議も亦總督政治の根本的革新と共に憲兵を警察執行機關より除き全く普通警察に更改するの必要を認め、大正八年八月十九日總督府官制を改正し總督府に警務局を置き警察及衛生事務を分掌せしめ、同時に警察官署官制を廢止し地方官制を改正して警察權を道知事に移屬し各道に第三部を置き（第三部は後に警察部と改む）道事務官を警察部長と爲し、各府郡島に警察署を設け、警視、警部を警察署長に充て、是等地方官をして警察衛生事務執行の任に當らしめ、以て民衆的警察制度の確立を期し又警視、警部の下に新に警部補を設け、從來朝鮮人に限り任命したる巡查補の階級を廢して一律に巡查となし以て警察官吏の待遇を改善せり。

朝鮮の警察は斯の如く根本的に革新せられ内地と同様の制度に面目を一新し制度上茲に全く憲兵と分離することゝなりしも、之に代るべき警察官吏の要員は固より直ちに全部を補充し得ざるを以て、新に警察署を設置したるも遽に要員の配置を爲す能はざる地方に在りては一時權宜の處置として其の地駐在の憲兵分隊又は分遣所職員をして當分の間引繼ぎ警察事務を執行せしめ、其の間着々警察官の







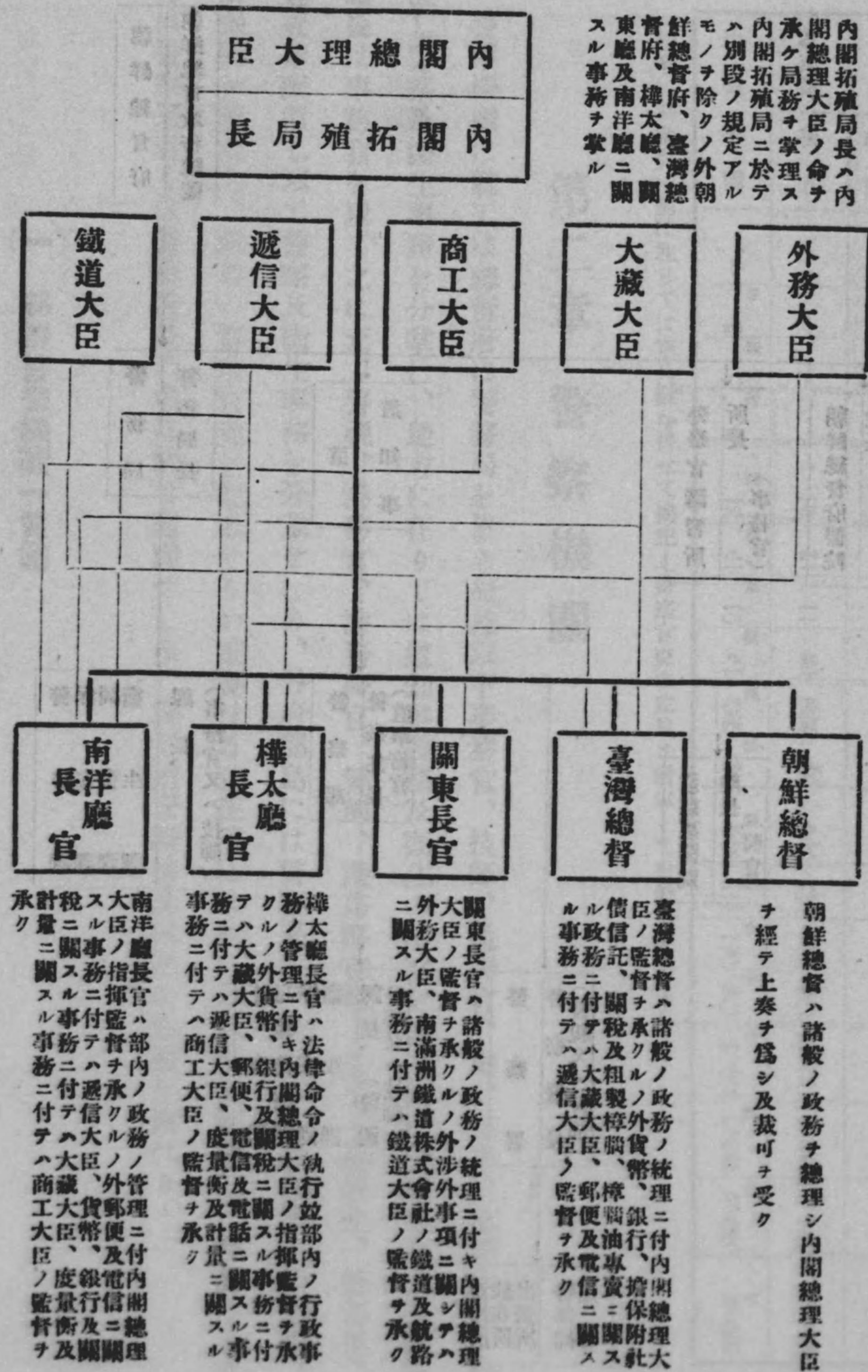








(二) 官署系統



(三) 朝鮮總督府官制抄録

- 第一條 朝鮮總督府ニ朝鮮總督ヲ置ク
  - 第二條 總督ハ親任トス
  - 第三條 總督ハ諸般ノ政務ヲ統轄シ内閣總理大臣ヲ經テ上奏ヲ爲シ及裁可ヲ受ク
  - 第四條 總督ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ朝鮮總督府令ヲ發シ之ニ一年以下ノ懲役若ハ禁錮、拘留、二百圓以下ノ罰金又ハ料科ノ罰則ヲ附スルコトヲ得
  - 第五條 總督ハ所轄官廳ノ命令又ハ處分ニシテ制規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得
  - 第八條 總督府ニ政務總監ヲ置ク政務總監ハ親任トス  
政務總監ハ總督ヲ輔佐シ府務ヲ總理シ各部局ノ事務ヲ監督ス
  - 第十二條 局長ハ各局ノ長トナリ總督及政務總監ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス
  - 第十七條 事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ府務ヲ掌ル
  - 第十八條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
  - 第十九條 通譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ通譯ヲ掌ル
  - 第二十條 屬、編修書記、技手又ハ通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務、教科用圖書ノ編修及檢定ニ關スル事務技術又ハ通譯ニ從事ス
- (四) 朝鮮總督府地方官制抄録
- 第五條 道知事ハ朝鮮總督ニ請シ法令ヲ執行シ管内ノ行政事務ヲ管理シ所屬官吏ヲ指揮監督ス
  - 第六條 道知事ハ管内ノ行政事務ニ關シ職權又ハ委任ノ範圍内ニ於テ道令ヲ發スルコトヲ得



- 第十二條 各道ニ知事官房、内務部、財務部及警察部ヲ置ク官房及各部ノ事務分掌ハ朝鮮總督之ヲ定ム
- 第十三條 部長ハ事務官ヲ以テ之ニ充ツ道知事ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス
- 警察部長ハ警察及衛生事務ノ執行ニ關シ知事ノ命ヲ承ケ部下ノ警視、警部、警部補、巡查及消防手ヲ指揮監督ス
- 第十五條ノ二 警視ハ知事ノ命ヲ承ケ警察及衛生事務ヲ分掌シ部下ノ警部警部補巡查及消防手ヲ指揮監督ス
- 第十五條ノ四 港務警官ハ上官ノ命ヲ承ケ海港檢疫及醫務ヲ掌ル
- 第十五條ノ五 獸醫官ハ上官ノ命ヲ承ケ獸畜ニ關スル檢疫、検査及醫務ヲ掌ル
- 第十五條ノ六 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
- 第十六條 警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衛生事務ニ從事シ部下ノ警部補巡查及消防手ヲ指揮監督ス
- 港務警官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ海港檢疫及醫務ニ從事ス
- 獸醫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ獸畜ニ關スル檢疫検査及醫務ニ從事ス
- 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス
- 警部補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衛生事務ニ從事シ部下ノ巡查及消防手ヲ指揮監督ス
- 第十六條ノ二 各府郡島ニ警察署京城府ニ消防署ヲ置ク但シ朝鮮總督ハ地方ノ必要ニ應ジ別ニ區域ヲ定メテ警察署ヲ置クコトヲ得警察署及消防署ノ位置及管轄區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム
- 第十六條ノ三 警察署長及消防署長ハ警視又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ
- 警察署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ管内ノ警察及衛生事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス
- 消防署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ管内ノ消防事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス
- 第十六條ノ四 各道ニ巡查ヲ置ク判任官ノ待遇トス
- 京鐵道ニ消防手ヲ置ク判任官ノ待遇トス
- 消防手ハ消防署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ消防事務ニ從事ス

巡查及消防手ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

(五) 朝鮮總督府事務分掌規程抄録

- 第十一條 警務局ニ警務課、保安課、圖書課及衛生課ヲ置ク
- 警務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 行政警察ニ關スル事項
  - 二 警事區別並警察職員ノ配置及服務ニ關スル事項
  - 三 警衛及警備ニ關スル事項
  - 四 警察ノ被服及銃器彈藥並附屬品ニ關スル事項
  - 五 警察官吏及消防官吏ノ功勞記章ニ關スル事項
  - 六 國境警備警察職員及遺族一時金ニ關スル事項
  - 七 兵事ニ關スル事項
  - 八 局内他課ノ主管ニ屬セサル事項
- 保安課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 高等警察ニ關スル事項
  - 二 勞働者募集取締ニ關スル事項
  - 三 外事警察ニ關スル事項
- 圖書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 新聞紙、雜誌及出版物ニ關スル事項
  - 二 著作權ニ關スル事項







- 第十二條 各道ニ知事官房、内務部、財務部及警察部ヲ置ク官房及各部ノ事務分掌ハ朝鮮總督之ヲ定ム
- 第十三條 部長ハ事務官ヲ以テ之ニ充ツ道知事ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス
- 警察部長ハ警察及衛生事務ノ執行ニ關シ知事ノ命ヲ承ケ部下ノ警視、警部、警部補、巡查及消防手ヲ指揮監督ス
- 第十五條ノ二 警視ハ知事ノ命ヲ承ケ警察及衛生事務ヲ分掌シ部下ノ警部警部補巡查及消防手ヲ指揮監督ス
- 第十五條ノ四 港務警官ハ上官ノ命ヲ承ケ海港檢疫及醫務ヲ掌ル
- 第十五條ノ五 獸醫官ハ上官ノ命ヲ承ケ獸畜ニ關スル檢疫、検査及醫務ヲ掌ル
- 第十五條ノ六 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
- 第十六條 警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衛生事務ニ從事シ部下ノ警部補巡查及消防手ヲ指揮監督ス
- 港務警官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ海港檢疫及醫務ニ從事ス
- 獸醫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ獸畜ニ關スル檢疫検査及醫務ニ從事ス
- 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス
- 警部補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衛生事務ニ從事シ部下ノ巡查及消防手ヲ指揮監督ス
- 第十六條ノ二 各府郡島ニ警察署京城府ニ消防署ヲ置ク但シ朝鮮總督ハ地方ノ必要ニ應ジ別ニ區域ヲ定メテ警察署ヲ置クコトヲ得警察署及消防署ノ位置及管轄區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム
- 第十六條ノ三 警察署長及消防署長ハ警視又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ
- 警察署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ管内ノ警察及衛生事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス
- 消防署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ管内ノ消防事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス
- 第十六條ノ四 各道ニ巡查ヲ置ク判任官ノ待遇トス
- 京鐵道ニ消防手ヲ置ク判任官ノ待遇トス
- 消防手ハ消防署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ消防事務ニ從事ス

巡查及消防手ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

(五) 朝鮮總督府事務分掌規程抄録

第十一條 警務局ニ警務課、保安課、圖書課及衛生課ヲ置ク

警務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 行政警察ニ關スル事項
  - 二 警事區別並警察職員ノ配置及服務ニ關スル事項
  - 三 警衛及警備ニ關スル事項
  - 四 警察ノ被服及銃器彈藥並附屬品ニ關スル事項
  - 五 警察官吏及消防官吏ノ功勞記章ニ關スル事項
  - 六 國境警備警察職員及遺族一時金ニ關スル事項
  - 七 兵事ニ關スル事項
  - 八 局内他課ノ主管ニ屬セサル事項
- 保安課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 高等警察ニ關スル事項
  - 二 勞働者募集取締ニ關スル事項
  - 三 外事警察ニ關スル事項

圖書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 新聞紙、雜誌及出版物ニ關スル事項
- 二 著作權ニ關スル事項



- 三 檢閱ノ新聞紙、雜誌及出版物保存ニ關スル事項
  - 四 活動寫眞、フィルムノ檢閱ニ關スル事項
- 衛生課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 公衆衛生ニ關スル事項
- 二 醫師、齒科醫師、藥劑師、醫生、産婆、看護婦及種痘認許員ニ關スル事項
- 三 藥品及賣藥ニ關スル事項
- 四 阿片專賣ニ關スル事項
- 五 病院ニ關スル事項
- 六 入商、理髮、按摩及針灸術營業ニ關スル事項
- 七 墓地及埋火葬ニ關スル事項
- 八 獸疫豫防ニ關スル事項
- 九 移出牛檢疫ニ關スル事項

(六) 朝鮮總督府道事務分掌規程抄録

第四條 警察部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 警察ニ關スル事項
- 二 衛生ニ關スル事項
- 三 警察文書ノ往復記録、編纂及保管ニ關スル事項
- 四 警察職員ノ進退賞罰其ノ他身分ニ關スル事項但シ判任官以上ノモノヲ除ク
- 五 兵事ニ關スル事項

(七) 朝鮮總督府委任事項規程抄録

第二條 各局長、各部長、官房各課長、及會議室首席事務官ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ

- 一 部下職員勤務ノ指定但シ課長及之ニ準スヘキ者ヲ除ク
- 二 部下職員ノ請假ノ許否
- 三 部下職員ノ除服出仕命令
- 四 部下職員ノ官吏服務紀律ニ依ル願出ノ許否
- 五 部下職員ノ出張命令但シ外國出張ノ場合ヲ除ク
- 六 部下職員ノ進退及賞與
- 七 事業費所屬傭人ノ進退及賞與
- 八 別ニ決裁ヲ受ケ内示シタル國庫補助ノ執行(補助金額等ニ變更アル場合ヲ除ク)
- 九 補助工事設計ノ變更但シ之カ爲補助金總額一萬圓ヲ超ユル場合ヲ除ク
- 十 報告及届書ノ處理但シ重要ナルモノハ即時總督ノ閱覽ニ供スヘシ
- 十一 事務上定例アルカ又ハ輕易ナル事項ニ關スル照會、回答、通知並請訓及具申ニ對スル措置

第八條 警務局長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ

- 一 出版物取締ニ關スル事項(新聞紙ノ發行ノ認可停止及認可取消ヲ除ク)
- 二 醫師、醫生、齒科醫師及藥劑師ノ免許(再免許及禁止ノ解除ヲ除ク)
- 三 朝鮮總督府道憲醫院醫員委任規則ニ依ル處分但シ委託生ノ決定ヲ除ク
- 四 警察職員定員變更ノ認可



- 五 警察官吏ノ道外應援派遣
- 六 警察官吏ノ被服及帶具ノ調製、給與及貸與
- 七 銃器彈藥ノ配備
- 八 勞働者募集取締規則第七條ノ規定ニ依ル處分並同取扱手續第二條、第十條及第十四條ノ規定ニ依ル指令
- 九 銃砲火藥類及取締令第一條ノ許可及第十四條ノ規定ニ依ル處分
- 十 引火質物貯藏所取締規則取扱手續第七條ノ規定ニ依ル指令
- 十一 汽罐汽機發動機取締規則取扱手續第四條ノ二ノ規定ニ依ル指令
- 十二 藝妓酌婦藝妓置屋營業取締規則第十八條ノ地域ノ制限及貸座敷娼妓取締規則第三條ノ指定ニ對スル指揮
- 十三 自動車取締規則取扱手續第八條第二項ノ指揮
- 十四 寄附金品募集取締規則第一條ノ許可
- 十五 市街地建築取締規則取扱手續第三條ノ規定ニ依ル指令
- 十六 狩獵免狀及特別許可ニ關スル取扱手續第十一條ノ規定ニ依ル指令
- 十七 行政執行令及同施行規則取扱心得第四條及第五條ノ指揮
- 十八 阿片取締法令取扱手續第二條ノ指定
- 十九 大正三年府令第六十三號第一條ノ寄港地ノ指定
- 二十 大正九年府令第九十四號第一條及第二條ノ許可
- 二十一 一件ノ金額千圓以下ノ國庫補助
- 二十二 大正八年告示第九十三號ノ許可

(八) 朝鮮總督府所屬官署委任事項規程抄錄

- 第一條 各官署ノ長ハ特ニ規定スルモノノ外此ノ規程ニ依リ專行スヘシ
- 第二條 各官署ノ長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ
  - 一 部下職員勤務ノ指定但シ道ニ在リテハ部長(以下省略)ヲ除ク通信官署ニ在リテハ通信局長、通信吏員養成所長、郵便爲替貯金管理所長ヲ除ク
  - 二 部下職員ノ例規請假及休暇中旅行ノ許可
  - 三 部下職員ノ除服仕出
  - 四 部下職員ノ官吏服務紀律ニ依ル願出ノ許可
  - 五 部下職員ノ出張但シ鴨綠江、豆滿江對岸以外ノ外國出張ヲ除ク
- 第十二條 道知事ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ
  - 一 部下及所轄職員ノ死亡賜金、手當及諸給與
  - 二 所轄職員ニ係ル第二條ノ事項但シ道廳廳長、府尹、郡守、島司及高等官タル警察署長ニ係ル向條第一號ノ事項ヲ除ク
  - 三 部下並所轄職員警察用務ノ爲滿洲ヘノ出張命令
  - 四 褒賞條例第八條第二項ノ千圓未満ノ寄附ニ對スル褒狀ノ賜與
  - 七 建物ノ増築、改築、移轉、取拂、模倣替及用途ノ變更並不用中ノ官有財産ノ國ニ於ケル使用
  - 八 建坪百坪以下ノ建物及二千坪以下ノ土地ノ期間三月ヲ超エサル貸付又ハ使用ノ許可
  - 九 官有財産ニ屬スル土地以外ノ鑑定價格千圓ヲ超エサル不用物件ノ處分



- 十五 見積價格千五百圓以下ノ土地、工作物又ハ物件ノ寄附ニ關スル處分但シ本府直轄施行ノ工事ニ係ルモノヲ除ク
- 二十 警察官派出所及警察官駐在所受持區域ノ設定
- 二十一 巡査定員配置
- 二十二 産婆免許證ノ下附
- 二十三 檢疫委員ノ命免
- 第十三條 前各條ノ規程ニ依リ委任シタル事項ト雖重要ナルモノハ意見ヲ具シ豫メ總督ノ承認ヲ受クヘシ
- 第十四條 專行事項ニシテ總督名又ハ總督府名ヲ以テ施行スヘキモノハ豫メ定例ヲ作り總督ノ承認ヲ受クヘシ

### 第三章 警察管轄

#### 一 管轄の概要

警察管轄は行政區域を基礎として一府郡に一警察署の設置を原則とせるも地方の事情に依り二警察署以上を配置せる處ありて（即ち京城府に六警察署又咸鏡北道茂山郡及平安北道江界郡に各三警察署を設置しある等）現在二百三十二府郡島に對し二百五十の警察署を設置し府郡島數を超過すること十八箇所なり。而して各署共管轄面積概して廣大にして面積五十方里以上のもの百十九箇所あり、其の最大なるものとして咸鏡南道豊山署の如きは管轄面積二百五十四方里餘に涉れるものあるも、又二十方里以下に過ぎざるもの十七箇所ありて其の最少なるものに至りては（府所在の警察署を除く）咸鏡北道訓戎署の如く十方里に過ぎざるものなきに非ず、而して一警察署の管轄區域の平均面積は六十方里

に當る、前述の如く豊山署と訓戎署との管轄に甚しき差等あるは一見奇異の感なきにあらざるも、前者は山岳重疊の地にあり後者は支那琿春と相對峙せるに依るものにして警察署の配置は何れも地勢警備關係其の他各種の事情を考慮して最も適當と認むる範圍に於て定めたるものとす。人口戸數は一般に稀薄にして一警察署の平均人口七萬八千餘人にして、十五萬人以上を管轄する警察署は全鮮十六箇所に過ぎず而して僅々二萬人以下に過ぎざるもの十六箇所あり。

警察署管内に派出所、駐在所を設置す、派出所は警察署所在地に駐在所は警察署所在地外に置く、而して駐在所は一面（面は内地の町村に該當す）一駐在所主義に據れるも地方の事情に依りては一面に二箇所以上を設置せるものあり、出張所は國境方面の如き又鐵道工事等の爲無賴者又は工夫等多數集合し特に警戒を要する地點、其の他特種の事情に依り其の必要を認めたる場合道知事に於て臨時設置す、現在駐在所は全鮮全面數二千五百四に對し二千三百三箇所なるも市街地警察署約三十八箇所を除く他の警察署は所在地面を直轄するを以て殆んど一面一駐在所となれり、派出所は百六十四箇所なり、出張所は主として國境地方に設置せられ其の數百四十五箇所なり。

一駐在所の負擔の平均は面積六方里強、人口八千五百五十五人なるか、一般に面積廣大にして著しきものを示さは咸鏡北道三長警察署農事洞駐在所は七十六方里、同延社警察署水祐駐在所は四十二方里三社駐在所は四十八方里、平安北道前川警察署化京駐在所は四十三方里を受け持ち居れり、尙江原道



の如き一駐在所にして面積三十方里以上に亘るもの十二箇所あり、威鏡南道及平安北道に於ても亦同様多數あり、而して面積二十方里以上のもの全道に於て六十一箇所あり。  
 警察署管轄面積及人口は別表の通にして一見面積の廣大に比し人口稀薄なるを知り得へきも、朝鮮と略同様の面積を有する内地本州（滋賀縣を除く）に於ては警察署九百二十四箇所、駐在所一萬二千四百四十四箇所、派出所二千九百十二箇所の設置ありて之を朝鮮の警察署二百五十箇所、駐在所二千三百三箇所、派出所百六十四箇所に對比するときは警察署は百分の三十七、駐在所は百分の四十四、派出所は百分の六に過ぎざる状態にあり。

警察官署調 (昭和元年十二月末日現在)

道名	警察部	警察署	警察官駐在所	警察官派出所	警察官出張所	計
京畿道	—	10	16	3	4	24
忠清北道	—	1	9	1	—	11
忠清南道	—	1	15	5	—	21
全羅北道	—	1	15	9	—	25
全羅南道	—	1	10	7	—	18
慶尙北道	—	1	14	3	—	18
總計	—	3	69	28	4	104

警察管轄

道名	警察官	警察署	派出所	戸数	男	女	計	面積
慶尙南道	—	—	3	37	—	—	37	25
黃海道	—	—	8	24	—	—	24	27
平安南道	—	—	6	18	—	—	18	19
平安北道	—	—	4	12	—	—	12	14
江原道	—	—	3	9	—	—	9	11
咸鏡南道	—	—	0	0	—	—	0	1
咸鏡北道	—	—	9	27	—	—	27	33
總計	—	—	33	100	—	—	100	117

道名	警察官	警察署	派出所	戸数	男	女	計	面積
京畿道	25	10	16	37	1,043,509	975,333	2,018,842	412
忠清北道	10	1	9	15	477,761	409,725	887,486	41
忠清南道	14	1	15	20	622,997	619,043	1,242,040	56
全羅北道	14	1	15	20	709,123	659,100	1,368,223	53
全羅南道	14	1	10	15	1,090,189	1,067,723	2,157,912	90
慶尙北道	14	1	14	18	1,192,000	1,140,533	2,332,533	133
慶尙南道	14	1	14	18	1,101,133	990,743	2,091,876	146



道名	面積						管轄人口
	二十方里以下	二十方里以上五十方里以下	五十方里以上八十方里以下	八十方里以上百方里以下	百方里以上二百方里以下	二百方里以上	
黃海道	一八	二七	三六	二,〇六七	三七,七七八	七二,一三五	一,〇八五
平安南道	二六	二四	一九	一,九三一	三三,五五三	六二,〇四四	一,二〇八
平安北道	二四	二二	一九	一,四七八	二四,九六四	六八,七五〇	一,一八九
江原道	三三	三二	二七	一,九七一	二四,四八二	六八,七五〇	一,四〇四
咸鏡南道	三〇	二六	二二	二,九四〇	三七,四三三	六八,〇七二	一,七〇三
咸鏡北道	一九	一一	八	七〇九	九,五五五	三〇,〇四三	二,〇七五
總計	二五〇	二四八	二二八	二八,二九九	三五,四九七	一〇,〇八七	二四,三二二

備考 △印は府島を示す

警察管轄面積及人口調 (昭和元年十二月末日現在)

道名	面積						管轄人口
	二十方里以下	二十方里以上五十方里以下	五十方里以上八十方里以下	八十方里以上百方里以下	百方里以上二百方里以下	二百方里以上	
京畿道	五	一五	一	一	一	一	二五
忠清南道	一	三	一	一	一	一	一〇
忠清北道	一	三	一	一	一	一	七
全羅南道	一	三	一	一	一	一	六
全羅北道	一	三	一	一	一	一	四
慶尙南道	一	二	一	一	一	一	三
慶尙北道	一	二	一	一	一	一	三
總計	四	二四	五	六	六	六	二五

朝鮮其の他各地 警察官数並に捕率比較

道名	警察官数	捕率
黃海道	一	一
平安南道	一	一
平安北道	一	一
江原道	一	一
咸鏡南道	一	一
咸鏡北道	一	一
總計	七	一

地方	警察官数						面積	人口	一警察官當人口
	警察署	派出所	駐在所	出張所	計	計			
朝鮮	二,〇〇〇	一,六四一	二,〇〇〇	一	二,〇〇二	一四,三三〇,〇〇〇	一九,五九九,九三七	五七,二四八	
内地	一,三三八	三,八七二	一四,〇〇〇	?	一九,一〇〇	二四,六三二,一三四	五九,七三六,八三三	一九,八六六	
臺灣	八	六六九	五七五	—	一,六〇二	二,三三三,〇〇〇	三,九九四,三三六	四〇,〇〇七	
關東	六	三五四	九	—	四六	三,四四,四九三	七六五,八八五	八,〇〇七	
樺太	二	二七	七	—	八	二,〇九,〇〇〇	二〇三,五〇四	二〇〇,八八八	
南洋	七	七四	二	—	八	一,〇〇,〇〇〇	五,二三三	二七,一六七	
東京	七	七四	三	—	一〇	一,八,〇〇〇	四,四八五,一四四	一,八〇四	
北海道	七	七四	三	—	一〇	五,七三三,六六四	二,四九八,六七九	八五,四二八	
總計	六七	二,〇〇〇	二八,〇〇〇	—	二八,〇六七	一〇〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇,〇〇〇	二七,二九四	



### 二 巡查の負擔率

制度改正前に於ては憲兵上等兵及憲兵補助員を巡查と見做し面積、戸數、人口に對する巡查一人當りの負擔は面積一〇〇八方里、戸數二百四十二戸、人口一千二百九十五人にして之を内地のそれに比し、將又當時の朝鮮の狀況より見て其の警備力極めて薄弱の感ありしか、大正八年騷擾事件以後時局の影響と制度改正と相俟つて極力充實を圖りたる爲、大正十二年十二月末に於ては面積〇・七一方里、戸數百六十九戸、人口九百十九人となれり、然るに大正十二年の行政整理に依り巡查二千人の減員ありたる爲、現在に於ては面積〇・八三方里、人口一千百三十五人の負擔となれり、而して之を内地に於ける巡查一人當り負擔標準面積〇・四六方里、人口一千百十四人、臺灣の面積〇・二四方里、人口四百四人、關東州の面積〇・〇九方里、人口三百十五人、東京府の面積〇・〇一方里人口三百九十二人に對比する時は面積に於て内地の二倍、臺灣の三・五倍、關東州の八倍、東京府の八十三倍、人口に於ては内地と略同じきも臺灣の二・八倍、關東州の三倍、南洋の二倍、東京府の二・九倍に當れり、以て如何に朝鮮警察官の負擔の過重なるかを知り得へし。

殊に之等より國境に於ける特殊警備勤務に服する巡查を除外する時は一層其の負擔を増大し。加之内地人巡查は鮮語未熟、朝鮮人巡查は法律智識に疎き者等ありて單獨にて完全に職務を遂行する能はず内鮮人併せて漸く職務の執行を爲し居るもあり、而も内鮮人巡查の素質は各徑庭ありて職務執行上適不適の場合尠からず、殊に警察署と駐在所間及各駐在所間交通不便、其の受持區域廣大なるを以て些少の事故に對しても多大の勞力と時間とを要し處理上困難なる場合多し、其の他日常の勤務に於ても國境警備、沿岸警備、關稅事務、郵便護衛、執達吏事務、民事訴訟調停、林野保護、專賣事務等警察事務以外の事務尠からざる爲め勤務繁雜を極め、尙施政諸般の整理するの道程として助長行政の援助、思想善導其の他警察施設を要する者頗る多く、實際の負擔率は倍加せらるゝものにして常に職員の不足を懸へつゝあり。

巡查一人當面積戸數及人口 (昭和元年十二月末日現在)

道名	面積		戸數		人口	
	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人
京畿道	0.33	0.26	3,370	4,140	1,733	2,090
忠清北道	1.64	1.27	5,330	6,370	2,733	3,170
忠清南道	1.14	0.87	5,090	6,130	2,644	3,180
全羅北道	1.06	0.81	5,080	6,120	2,644	3,175
全羅南道	1.33	1.01	5,440	6,580	2,800	3,333
慶尙北道	1.57	1.20	5,440	6,580	2,800	3,333



道	均	北	南	原	安	安	海	南
平	成	成	江	平	平	黃	慶	慶
均	鏡	鏡	原	安	安	海	南	南
	北	南	道	北	南	道	道	道
一・四二	一・六〇	二・四一	三・一六	〇・五五	一・五五	一・八〇	一・〇三	一・〇三
二・〇三	二・四七	三・五	三・五	二・元	二・〇〇	二・元	一・〇〇	一・〇〇
〇・八三	〇・九七	一・〇三	一・七	〇・七	〇・七	一・〇一	〇・七	〇・七
三五五	一三三	二六八	四四	二五	三三	四六	四六	四六
五二〇	一八九	三九二	五	三三	四七	五八	六六	六六
二〇九	七	一五	二〇〇	九〇	二〇五	二九	二七	二七
一八五四	七三	一、八八	二、七三	七〇五	一、九〇	二、二二	二、五三	二、五三
二、六六一	一、一三〇	二、二九〇	二、九九	一、八八	二、四六	二、九六	三、一三	三、一三
一、〇三	四四	九三	一、八四	五〇	一、〇〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇

朝鮮其の他各地 警察官定員並一人當額擔率比較

地方別	定員				監督者一人當		巡査一人當	
	警視	警部	警部補	巡査部長	警視	警部	警部補	面積
朝鮮	五三	四二六	六八	二、九四	三〇・五	四〇・一六	三三・〇	〇・八三
内地	二七五	一、五八三	二、七三	五、五五	一四、〇七	三三・八七	一九・六九	〇・四九
臺灣	一五	三三〇	二七〇	六四七	九、三三	四四・九三	三六・六〇	〇・三六
關東	二二	六二	一一	一〇	二、二九	三九・七	二二・二七	〇・〇九
關西	二二	六二	一一	一〇	二、二九	三九・七	二二・二七	〇・〇九
南洋	一	七	四	一	八、〇〇	二二・二	二二・三	一・八二
東京府	六二	一、六四	五八	九六	一〇、四四	一八七・三	一九・一〇	三九・三
北海道	二四	八三	一〇	三二	一、六七	二四・二七	一九・〇〇	二・八三

### 第四章 水上警察

水上警察は明治四十二年九月木浦、麗水に水上警備所を苗浦に其の派出所を置きたるを以て嚆矢とす、即ち全羅南北道に於ては同年春暴徒大討伐の當時其の掃蕩に漏れたる匪徒竊に島嶼に逃れ大小數千の島嶼の間に出没して漁業者を迫害し島村の財物を掠奪すること甚しきに依り警備船十隻、巡邏船六隻を急造配置して警備に當らしめたり、而して之等海賊は數年を出すして其の跡を斷つに至りしか其の間偶々明治四十三年十二月南滿洲に黒死病猖獗を極め檢疫警戒は一日も忽諾に附すへからざるに至りしより陸軍省より數次船舶を借入れ、又海軍省所管船の保管轉換を得、或は汽船の新造等に依りて其の隻數を増加し、目下汽船五隻、發動機船十七隻を沿岸要地に配置しつゝあるか、交通其の他の變化に伴ひ釜山に水上警察署を置くの外は總て所在の陸上警察署をして管掌せしめつゝあり。

如斯初め警備船は主として海賊及暴徒の掃蕩に使用したりしか近時海運の發達、漁業の振興に伴ひ水上警務倍々煩雜となり出動を要すること多く、殊に國外不逞の徒は國境の警備嚴重綿密なる爲め、戎克船を利用して鮮内に侵入を企つる者等あり、之か警戒に關しても至大の注意を要するものあるも







一千六百四十七里となりしか、大正九、十年度に於て京城を中心とする釜山、新義州、咸興、公州、清州に通ずる長距離警備電話を架設し、爾來漸次増加現在に於ては其の延長三千八十九里となり、各道中咸鏡北道、全羅南道を除くの外は直接警務局と通話し得るに至れり。

然れども警備電話の架設なき警察署は二百五十署中三十九箇署あり、又駐在所、派出所に至りては架設済みのもの僅に二千六百箇所の中六百四十八箇所に過ぎざるの状態にあり。

電話架設所 (昭和元年十二月末日現在)

道名	部			駐在所			派出所			出張所		
	部署数	電話	警備	駐在数	電話	警備	派出所数	電話	警備	出張所数	電話	警備
京畿道	△	一六	〇	一六	〇	△	一六	〇	〇	一	〇	〇
忠清北道	〇	一三	〇	九	〇	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇
忠清南道	〇	九	〇	一六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
全羅北道	〇	二	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
全羅南道	〇	三	〇	二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
慶尙北道	〇	二	〇	二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
慶尙南道	〇	二	〇	二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
黄海道	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
平安南道	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

道名	部			駐在所			派出所			出張所		
	部署数	電話	警備	駐在数	電話	警備	派出所数	電話	警備	出張所数	電話	警備
平安北道	〇	一〇	〇	一七	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
江原道	〇	五	〇	一七	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
咸鏡南道	〇	三	〇	一八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
咸鏡北道	〇	八	〇	一四	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
總計	△	三〇	〇	一〇〇	〇	〇	一六	〇	〇	一	〇	〇

備考 ○印は警察専用電話、△印は消防署所、×印は本年度新規架設を示す

第六章 警察法令

大正八年八月朝鮮總督府警察署官制廢止せられ之と同時に總督府令第一三二號を以て元朝鮮總督府警務總長の命令を以て定めたる事項は朝鮮總督府令を以て定めたるものとせられ依然効力を存續する事となり、元警務總監部の訓令、内訓、通牒等は當然失效せしものなるか斯くては事務の取扱上甚しき支障を生ずるか故に其の内容に於て失效の取扱を爲すべき事項の外は凡て該訓令通牒等に準據することとし漸次之か改廢をなし大正十二年三月に至り警務總監部訓令又は内訓を以て定めし取扱手續及心得は準據規定と認めざることを決定し取締上其の必要を認むる場合は道知事に於て規定することとせり。



今左に大正十五年中發布されたる警察關係法規の主なるものを擧ぐれば

- 一、警務沿革史ニ關スル件 (訓令第三號)
- 二、朝鮮總督府官制中改正ノ件 (勅令第六十二號)
- 三、朝鮮總督府事務分掌規程中改正ノ件 (訓令第十三號)
- 四、朝鮮總督府地方官々制中改正ノ件 (勅令第六十五號)
- 五、朝鮮總督府道事務分掌規程中改正ノ件 (訓令第三十二號)
- 六、活動寫真フィルム檢閲規則制定ノ件 (府令第五十七號)
- 七、朝鮮總督府道巡查休暇規程制定ノ件 (訓令第二十五號)
- 八、捕繩術ニ關スル件 (訓令第二十九號)
- 九、朝鮮總督府警察官操典中改正ノ件 (府令第三十三號)
- 十、警察官駐在所ニ警部補配置ノ件中改正ノ件 (訓令第二號)
- 十一、看護婦規則中改正ノ件 (府令第六十九號)
- 十二、產婆規則中改正ノ件 (府令第七十號)
- 十三、牛羊等輸入停止ノ告示中改正ノ件 (告示第二百四十號)
- 十四、「モルヒネ」、「コカイン」及其ノ鹽類ノ取締ニ關スル件 (府令第八十六號、告示第二百四十七號、告示第三百五十七號)
- 十五、朝鮮總督府阿片取締令中改正ノ件 (訓令第十三號)
- 同施行規則中改正ノ件 (府令第七十九號)
- 同取扱手續中改正ノ件 (訓令第三十四號)
- 十六、阿片ノ賠償金ノ額及「モルヒネ」含量ノ度ニ關スル件 (告示第三百七十八號)

### 第七章 警察文書

警察事務は本來の性質上文書に依らざるもの多く、加之警察署に於ては特に形式上書類を以てするを必要とするものに非ざる限り可成口頭受付を獎勵し、且處理方法に於ても可成簡捷を旨とせる關係上事務に比し文書數少し、然れども近年警察事務の膨脹は逐年文書件數の増加を來し即ち大正十五年中の件數は收受七百八十四萬三千六十二件、發送七百九十萬一千七百四十四件、計一千六百三十三萬八千九百七十三件にして、之を大正十四年中の一千五百二十四萬九千六百六十六件に比すれば百八萬九千八百七十七件の激増を示し、之を制度改正前大正八年中に比すれば實に五百八十八萬餘件の増加となり。

而して之か處理に從事する内勤巡查、警部補の大正十五年の定員は合して三千百四十九人にしてその一日一人當平均取扱件數は十四件なり。



道名	件數		件數		合計	一日平均		警部警 部補内 の取扱 件數
	文書	口頭	文書	口頭		收受	發送	
京畿道	1,521,077	2,047,767	1,855,732	1,577,058	3,232,812	5,077	3,755	37
忠清北道	221,035	7,379	228,414	4,696	233,110	599	621	12
忠清南道	553,873	33,921	587,794	35,621	623,415	1,583	1,907	19
全羅北道	599,268	9,466	608,734	6,334	615,068	1,600	1,934	20
全羅南道	431,088	8,932	440,020	2,633	442,653	1,205	1,673	17
慶尙北道	299,733	1,633	301,366	8,998	310,364	1,529	1,668	20
慶尙南道	462,972	17,733	480,705	10,265	490,970	1,364	1,697	20
黃海道	488,226	6,184	494,410	5,309	500,719	1,354	1,665	16
平安南道	589,666	1,077	590,743	8,937	600,680	1,656	1,997	21
平安北道	559,558	22,559	582,117	17,826	599,943	1,661	1,977	21
江原道	462,465	18,555	481,020	9,718	490,738	1,338	1,435	23
咸鏡南道	579,533	21,104	600,637	8,800	609,437	1,663	1,799	23
咸鏡北道	329,559	11,210	340,769	8,483	349,252	1,193	1,205	9
總計	7,843,620	668,959	8,512,579	24,650	8,537,229	23,326	27,753	31

### 第八章 警察費

大正八年八月朝鮮警察制度の改革並大正九年一月第二次警務機關の擴張に伴ひ警察費豫算は頓に膨漲したるか併合當時即ち明治四十三年には警察費二百八十九萬六千餘圓、憲兵補助員費十六萬三千餘圓、計三百五萬九千餘圓に過ぎざりき、憲兵補助員費は憲兵警察制度の爲鮮人を憲兵補助員に採用し警察事務を執行せしめたるに依る、而して明治四十四年一月朝鮮駐劄憲兵にして普通警察事務を行ふ爲に要する經費支出方に付て當局間に協定あり、特別會計として明治四十四年度所要額たる三萬九百餘圓を警察費の負擔とせり、斯くて大正元年度以降制度改正迄は三萬三千餘圓乃至五萬二千餘圓の憲兵費及百十萬餘圓の憲兵補助員費を警察費として負擔し來れり、而して警察費は年々増加し大正七年度には警察費四百三十五萬七千餘圓、憲兵補助員費百十七萬七千餘圓、憲兵費二百四十六萬九千餘圓、計八百萬七千餘圓となりしか、大正八年度には警察制度の改正に依る警察官の増員諸物價騰貴、傳染病豫防、騷擾事件等の爲、豫算總額一千六百七十五萬四千餘圓に上り、前年度に比し實に八百七十四萬七千餘圓の増額となり、大正九年度には更に七百二十萬餘圓を増額し其の總額實に二千三百九十四萬八千餘圓となり、蓋し此の著しき増額は當時の狀況として已むを得ざりしものたり、爾來世態の變遷に伴ひ警察施設の必要に迫られ、諸經費も増額を要したる次第なるか、豫算の關係は増額を容れ



す、大正十年度は主として初度調辨費及コレラ豫防費より百八十九萬四千餘圓を減額し大正十一年度は國境警察官六百二十一人の増員に要する經費として二十五萬餘圓増額となれり、大正十二年度は行政整理の爲十八萬圓、大正十三年度は九百萬圓餘、大正十四年度は更に二百二十三萬圓餘を減額したりしか、大正十五年度は國境警察官警視四人、獸疫豫防道技手八人の増員並衛生費等九萬二千餘圓の増額を見一千九百七十六萬八千餘圓となれり。

大正七年度以降警察費

年 度 別	警 察 費	前年度に比し	増 減 の 主 な る 理 由
大 正 七 年 度	八、〇〇三、九六七		
大 正 八 年 度	一七、七四、九四	△	憲兵費二、四六九、七四九圓及同補助員費一、一七七、一〇四圓を含む 又本年度經費は大正八年度に至りては物價騰貴に依り當然約五割を増加せらるべきものとす
大 正 九 年 度	三三、九四八、四四五	△	主として傳染病豫防費、騷擾事件費、物價騰貴及警察制度改正に依る警察官一〇、五六一人増員の經費とす
大 正 十 年 度	三二、九四、九七七	△	主として前年度増員に對する差増、騷擾事件に伴ふ留置人費、虎列刺豫防費及第二次警察官三、二五一一人増員に要したる經費とす
大 正 十 一 年 度	三三、三六、二二	△	主として前年度初度調辨費及虎列刺豫防費の減少とす
大 正 十 二 年 度	三三、〇七、五三三	△	主として國境警察官六二一人増員に要したる經費とす
			一八八、五九（行政整理に伴ふ減とす）

大 正 十 三 年 度	三二、九五、六九	△	主として前年度限りの防寒被服費の減少とす
大 正 十 四 年 度	一九、六七、〇七〇	△	主として行政整理の爲警視以下二、二六六人減員に伴ふ減とす
大 正 十 五 年 度	一九、六八、四四	△	主として補充費途及衛生費の増額及國境警察官四人並獸疫豫防道技手八人増員に要したる經費とす

備考 △印は減とす

昭和二年度警察費決算

款 項	金 額	款 項	金 額
總 計	二〇、二三、五八三	留 置 人 費	五五、五〇
俸 給	一、六三、六九八	器 具 費	一三、六〇八
俸 任 給	一、六〇、二二四	食 費	三六、二六
俸 務 給	一、〇〇、二二四	雜 費	三二、五〇四
應 費	一六、九二、〇三七	衛 生 及 防 疫 費	七八、一〇
修 繕 費	七、九、〇三	衛 生 費	五三、三九七
巡 査 俸 給	一四、六、一〇	傳 染 病 豫 防 費	五七、二四
旅 費	一、一三、〇〇	檢 疫 及 患 者 費	三六、三三七
給 與 費	一、一三、〇〇	獸 疫 豫 防 費	二四、六〇九
		移 出 牛 檢 疫 費	九三、〇五七



履員給	七、〇〇〇	傳染病地方	六、一五五
備人料	三六、五三三	病院費	五六、六三三
宿舍料	七九、九九九	接待費	一〇
渡切費	二一、三〇〇	請願巡査費	六、八九七
被服及帶具費	五〇、九七七	請願巡査費	六、八九七
銃器彈藥費	一六、三〇〇	執行及送達事務費	三、四二二
馬匹費	二六、七五五	執行事務及送達事務費	三、四二二
船舶諸費	九、三三三	機密費	一八〇、〇〇〇
雜費	二八、五五五	機密費	一八〇、〇〇〇
			一八〇、〇〇〇

四〇

## 第九章 警察職員

### 一 職員の配置

警察職員は大正八年八月制度改正と同時に警視内地人八人、鮮人五人、警部内地人百二十一人（鮮人警部は十二人減す）警部補内地人五百九十六人、鮮人二百六十五人、巡査内地人四千八百二十八人（鮮人四千六百四十九人、計一萬五百六十一人を増員したるか、制度改正前の警察力即ち憲兵を警察官と看做したる總員一萬四千四百八十八人なりしを以て事實上二千三百九十五人を増加したるも尙治安維持上警察官署の増設並に職員増加の必要に迫り大正九年二月警視内地人三人、警部内地人六十一人、

鮮人八人、警部補内地人百二十三人、鮮人二人、巡査内地人二千九百八十三人、鮮人七十二人、計三千二百五十一人を又大正十一年國境憲兵減員に依り警視内地人一人、警部内地人八人、警部補内地人十二人、巡査内地人六百人を増員し總計二萬七百五十八人となりしか、大正十二年四月行政整理の爲大正十一年増員したる警視内地人一人、警部内地人八人、警部補内地人十二人、鮮人六人を減員し、更に大正十三年十二月の行政整理に於て警視内鮮人各三人、警部内地人三十六人、鮮人十人、警部補内地人百七人、鮮人三十人、巡査内地人八百九十七人、鮮人千百三人、計二千八百八十九人を減員したりしか大正十五年五月國境地方に警視内地人四名を増員したるを以て現在に於ては警視内地人四十一人鮮人十一人、警部内地人三百三十三人、鮮人九十五人、警部補内地人六百十一人、鮮人百七十七人、巡査内地人一萬百三十一人、鮮人七千五十七人、計一萬八千四百四十九人なり。

此の外警察官にあらすして警察事務に従事する者警務局に警務局長以下事務官、技師、通譯官、屬技手、通譯生、囑託、雇員を合して百四十七人及各道に於ける事務官、技師、港務醫官、獸醫官、港務醫官補、獸醫官補、技手、囑託、雇員を合して二百二十四人あり。

### 警察職員（定員）

（昭和元年十二月末日現在）







道名	内 鮮	
	内 鮮	内 鮮
慶尚南道	11	11
慶尚北道	11	11
全羅南道	11	11
全羅北道	11	11
忠清南道	11	11
忠清北道	11	11
京畿道	11	11
江原道	11	11
平安北道	11	11
平安南道	11	11
黃海道	11	11
咸鏡南道	11	11
咸鏡北道	11	11
總計	11	11

二 勤 績 年 數

警察官中には大正八年制度改正前(少數なるも領事館時代よりの勤績者あり)より勤績せる者及制度改正の際内地各府縣より出向に依るものあるも其の數比較的少く多くは制度改正の際に於ける増員及其の退職補充の爲新規採用したる者大部分にして、殊に警部補の如きは其の制なかりしを以て何れも其の在職期間短く、故に一般に朝鮮警察官の勤績年數の短き者多數を占め居る狀況にあり。

警察官勤績年數

(昭和元年十二月末日現在)

道名	内 鮮	
	内 鮮	内 鮮
慶尚南道	11	11
慶尚北道	11	11
全羅南道	11	11
全羅北道	11	11
忠清南道	11	11
忠清北道	11	11
京畿道	11	11
江原道	11	11
平安北道	11	11
平安南道	11	11
黃海道	11	11
咸鏡南道	11	11
咸鏡北道	11	11
總計	11	11











種別	警視	警部	警部補	巡査	計
山梨縣	1	1	2	14	18
滋賀縣	1	1	2	14	18
岐阜縣	1	1	2	14	18
長野縣	1	1	2	14	18
宮城縣	1	1	2	14	18
岩手縣	1	1	2	14	18
福島縣	1	1	2	14	18
青森縣	1	1	2	14	18
山形縣	1	1	2	14	18
秋田縣	1	1	2	14	18
福井縣	1	1	2	14	18
石川縣	1	1	2	14	18
富山縣	1	1	2	14	18
鳥取縣	1	1	2	14	18
島根縣	1	1	2	14	18
岡山縣	1	1	2	14	18
廣島縣	3	1	2	14	20
山口縣	1	1	2	14	18
和歌山縣	1	1	2	14	18
徳島縣	1	1	2	14	18
香川縣	1	1	2	14	18
愛媛縣	1	1	2	14	18
高知縣	1	1	2	14	18
福岡縣	1	1	2	14	18
大分縣	1	1	2	14	18
佐賀縣	1	1	2	14	18
熊本縣	1	1	2	14	18
宮崎縣	1	1	2	14	18
鹿兒島縣	1	1	2	14	18
沖縄縣	1	1	2	14	18
北海道	3	1	2	14	20
總計	30	30	60	420	540

(口) 朝鮮人巡査

種別	警視	警部	警部補	巡査	計
京畿道	1	1	2	14	18
忠清北道	1	1	2	14	18
忠清南道	1	1	2	14	18
全羅北道	1	1	2	14	18
全羅南道	1	1	2	14	18
慶尙北道	1	1	2	14	18
慶尙南道	1	1	2	14	18
黃海道	1	1	2	14	18
平安南道	1	1	2	14	18
平安北道	1	1	2	14	18
江原道	1	1	2	14	18
咸鏡南道	1	1	2	14	18
咸鏡北道	1	1	2	14	18
總計	20	20	40	280	360

### 第十章 警察官の教養

#### 一 巡査の募集

巡査の募集は内地人に在りては警察官講習所長に於て鮮人巡査に在りては各道知事に於て行ひつゝ、あり、内地人巡査の募集は之を各道に委するも經費尠むのみにて到底要員を補充する能はず、又鮮内の募集のみにては不足なるに付内地に於ても募集す、即ち三縣乃至四縣を一募集區域に定め、樞要の都市を試験場所に選定し、募集官一名乃至二名を派遣し約一箇月間滞在の豫定にて一區域百名乃至二



百名を採用す、鮮内に於ては毎月一回(第三日曜日)警察官講習所に於て採用試験を行ひ、採否決定の上時期を定めて之を入所せしむ、鮮内募集一期の入所人員は概ね五十名位に過ぎざるも内地、鮮内共に近來應募者増加し常に採用人員に六、七倍するの状況にあり、従つて採用に選擇の餘裕ありて缺員補充上些の支障なく其の素質も益向上しつゝあり、鮮人巡査の募集に於ても常に應募者過剰し採用人員に對し十倍すること尠からず、之を採用試験は各道警察部に於て行ふの外志願者の便宜を圖り管下警察署に試験を委託して行ふも他道に於て募集する等のことなし。

巡査採用

(大正十五年 中)  
(昭和元年 中)

道名	種類	採用		不採用	
		計	特別	計	特別
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0
忠清北道		28	0	28	0
京畿道		95	0	95	0
全羅北道		45	0	45	0
忠清南道		97	0	97	0</



備考 一、内地人巡査は△外記せり

二、試験欄ノ△ハ印は警察官講習所よりの配置人員を示す

三、×印は他道及内地より出向を示す

四、警察官講習所欄に於て志願人員と採用不採用計との差一八人は試験者にして昭和二年に繰越たる人員なり

## 二 教養機關及方法

警察官吏の教養機關としては京城に警察官講習所あり、各道に巡査教習所あり、制度改正前の教養機關は警務總監部の一分課として警察官練習所を設け所長以下少數の兼務兼官を以て一期定員五十名の内地人巡査の教習及警部以上に對する短期間の教養を實施したるに過ぎざりしか、大正八年八月警察制度改正と共に警察官講習所官制發布せられ現在所長以下教授四名、助教授四名、書記二名、其の他講師、囑託等の職員を置き教務に大改善を加へたり。

警察官講習所には講習科、教習科の二科を置き、講習科は更に本科及別科に分ち、本科は現に監督者たり又將來監督者たらしむとするもの約百名を選抜し毎年九箇月乃至一箇年を一期とする長期講習をなし、別科は現に各道に配置しある警察官に對し刑事、會計、銃砲火藥等特殊の實務を教養する爲隨時必要の人員を收容して、短期講習を實施しつゝあり。教習科は初任内地人に對し三箇月又は四箇月を一期とし毎期三百名乃至四百名を收容し専ら人格の陶冶と實務の教習に努めつゝあり。

各道に於ける巡査教習所は警察部に之を置き初任朝鮮人巡査の教養機關に充て教習人員は缺員に應じて採用し三箇月乃至四箇月を教習期間とし各道警察部の職員を以て教官に充つ。

初任巡査に對する教習科目は普通訓育、法學大意、警察法、刑事法、衛生大意、執達吏事務、消防、朝鮮事情(内地人に對するのみ)、語學(内地人に在りては朝鮮語、朝鮮人に在りては國語)、警察實務、點檢、禮式及操練、武道等にして、教習中は全部寄宿舎に收容し紀律觀念の養成に努めつゝあり。

現に實務に従事しつゝある警察官に對しては教養規程に依り法令、普通學、語學、實務講習、修身訓話、操練、武術、捕繩術、水泳及操船術等を理論を避け實行を主として各階級に應じ職務執行上必要なるものを一週間四回四時間以上を警察部長又は警察署長をして教養せしむ。

此の外警察協會に於ては毎月警務覺報を發刊し教養の資に充て各道に於ても亦類似の修養冊子を發刊し或は巡回文庫の設置、新聞雜誌の購讀勸誘、自修促進の試験施行等各種の施設を爲し教養の徹底を計れり。

## 三 教育程度

警察官中巡査の教育程度は内地人に在りては高等小學校卒業程度の者大部分にして總員の七割七分に相當せり、卒業せざるもの約二割あるも素養の程度漸次向上しつゝあり、鮮人にありては普通學校卒業者最多數を占め未だ書堂教育に過ぎざる者尙九分あり、即ち其の數六百十四人にして之を昨年に



比すれば二十人の減少を見漸次學校教育を受けたる者増加の傾向にあり。

調査教育程度

(昭和元年十二月末日現在)

(4) 内地人調査

道名	種別	小學校		中學校		中學程度の學校		専門學校		高等程度の學校		計
		卒業	在學	卒業	在學	卒業	在學	卒業	在學	卒業	在學	
京畿道		七五五	一九	四八	三三	二八	二六	一七	二	二	三	一、〇六
忠清道		二〇九	一	三三	三三	二八	二五	一	二	二	三	二二五
忠清南道		三三九	七	三三	三三	二八	二五	一	二	二	三	二二五
全羅道		三三九	七	三三	三三	二八	二五	一	二	二	三	二二五
全羅南道		三三九	七	三三	三三	二八	二五	一	二	二	三	二二五
慶尚道		五七〇	三	二七	二七	二二	二二	一	一	一	一	四八二
慶尚南道		五七〇	三	二七	二七	二二	二二	一	一	一	一	四八二
慶尚北道		五七〇	三	二七	二七	二二	二二	一	一	一	一	四八二
黃海道		四八八	九	二六	二六	二二	二二	一	一	一	一	五七二
平安南道		四八八	九	二六	二六	二二	二二	一	一	一	一	五七二
平安北道		四八八	九	二六	二六	二二	二二	一	一	一	一	五七二
江原道		四八八	九	二六	二六	二二	二二	一	一	一	一	五七二
咸鏡南道		四八八	九	二六	二六	二二	二二	一	一	一	一	五七二
咸鏡北道		四八八	九	二六	二六	二二	二二	一	一	一	一	五七二
總計		七、五九	一六	二七	二七	二二	二二	一	一	一	一	一、八七九
大正十四年		七、五九	一六	二七	二七	二二	二二	一	一	一	一	一、八七九
大正十四、十五年比較増減		七、五九	一六	二七	二七	二二	二二	一	一	一	一	一、八七九
昭和元年比較増減		一、四三	三三	二二	二二	二二	二二	一	一	一	一	九、六六

(口) 朝鮮人調査

道名	種別	學校に通學せざりし者		普通學校		高等普通學校		中學程度の學校		高等程度の學校		計
		卒業	在學	卒業	在學	卒業	在學	卒業	在學	卒業	在學	
京畿道		一、〇八七	六	一〇	一〇	一	一	一	一	一	一	八、〇〇
忠清道		一、〇八七	六	一〇	一〇	一	一	一	一	一	一	八、〇〇
忠清南道		一、〇八七	六	一〇	一〇	一	一	一	一	一	一	八、〇〇
全羅道		一、〇八七	六	一〇	一〇	一	一	一	一	一	一	八、〇〇
全羅南道		一、〇八七	六	一〇	一〇	一	一	一	一	一	一	八、〇〇
慶尚道		一、〇八七	六	一〇	一〇	一	一	一	一	一	一	八、〇〇
慶尚南道		一、〇八七	六	一〇	一〇	一	一	一	一	一	一	八、〇〇
慶尚北道		一、〇八七	六	一〇	一〇	一	一	一	一	一	一	八、〇〇
黃海道		一、〇八七	六	一〇	一〇	一	一	一	一	一	一	八、〇〇
平安南道		一、〇八七	六	一〇	一〇	一	一	一	一	一	一	八、〇〇
平安北道		一、〇八七	六	一〇	一〇	一	一	一	一	一	一	八、〇〇
江原道		一、〇八七	六	一〇	一〇	一	一	一	一	一	一	八、〇〇
咸鏡南道		一、〇八七	六	一〇	一〇	一	一	一	一	一	一	八、〇〇
咸鏡北道		一、〇八七	六	一〇	一〇	一	一	一	一	一	一	八、〇〇
總計		六、四三〇	三三	二二	二二	二二	二二	一	一	一	一	六、四三〇
大正十四年		六、四三〇	三三	二二	二二	二二	二二	一	一	一	一	六、四三〇
大正十四、十五年比較増減		六、四三〇	三三	二二	二二	二二	二二	一	一	一	一	六、四三〇
昭和元年比較増減		六、四三〇	三三	二二	二二	二二	二二	一	一	一	一	六、四三〇



### 四 語 學 の 能 率

内地人警察官の朝鮮語の修得は最も必要の事項なるを以て警務局に於て「鮮語必携」なる小冊子を發刊し常に携帯せしめ以て自修を促し、或は朝鮮語に限り特に教養時間を定めて教育し、或は定期試験を行ひ其の成績を昇給資料に充つる等諸種の方法を設け、又其の成績優秀者には一箇月一圓乃至二十圓の通譯手當又は朝鮮語獎勵規程により五圓乃至五十圓の獎勵手當を給する等極力之を教養に努め成績大いに見るべきものあり、現在に於ては全員の八割は一般朝鮮人と對話を爲し得戸口調査等日常の執務を行ふに支障なき程度迄進めり。

朝鮮人警察官の國語は一般に巧にして會話通譯に支障を感ずる者僅に巡查三人あるのみ然れども内地人の朝鮮語と同じく朝鮮人の國語も亦須要なるものなるか故に内地人巡查と同様試験の上優秀なる者に對しては手當を給しつゝあり。

### 警 察 官 の 朝 鮮 語 能 率

(昭和元年十二月末日現在)

道 名	種 別		人 別	内 鮮	通譯に差支なき者	漸く對話し得る者	上肥の程度に達せざる者	合 計	
	部	補部						部	補部
京 畿 道	部	補部	計	部	補部	計	部	補部	計
忠 清 北 道	部	補部	計	部	補部	計	部	補部	計
忠 清 南 道	部	補部	計	部	補部	計	部	補部	計
全 羅 北 道	部	補部	計	部	補部	計	部	補部	計
全 羅 南 道	部	補部	計	部	補部	計	部	補部	計
慶 尙 北 道	部	補部	計	部	補部	計	部	補部	計
慶 尙 南 道	部	補部	計	部	補部	計	部	補部	計
黃 海 道	部	補部	計	部	補部	計	部	補部	計
平 安 南 道	部	補部	計	部	補部	計	部	補部	計
平 安 北 道	部	補部	計	部	補部	計	部	補部	計
江 原 道	部	補部	計	部	補部	計	部	補部	計

道 名	部	補部	計	部	補部	計	部	補部	計	部	補部	計	部	補部	計	部	補部	計	部	補部	計
京 畿 道	六二	二八	九〇	一〇	一〇	二〇	一〇	一〇	二〇	一〇	一〇	二〇	一〇	一〇	二〇	一〇	一〇	二〇	一〇	一〇	二〇
忠 清 北 道	三	五	八	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二
忠 清 南 道	五二	七三	一二五	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二
全 羅 北 道	四二	九八	一四〇	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二
全 羅 南 道	六二	一〇六	一六八	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二
慶 尙 北 道	五四	二二	七六	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二
慶 尙 南 道	六二	一三一	一九三	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二
黃 海 道	五三	五七	一一〇	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二
平 安 南 道	七五	九六	一七一	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二
平 安 北 道	九三	二四	一一七	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二
江 原 道	六四	八五	一四九	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二







道名	種別	人別	合格者				計數
			未任用者數	警部補助務者	警部勤務者	警視勤務者	
京畿道	朝鮮地人	朝鮮地人	三三	六五	四六		三三
忠清北道	朝鮮地人	朝鮮地人		三三	一〇		三三
忠清南道	朝鮮地人	朝鮮地人		九六	二五		三三
全羅北道	朝鮮地人	朝鮮地人		七九	二七		三三
全羅南道	朝鮮地人	朝鮮地人		七九	二七		三三
慶尙北道	朝鮮地人	朝鮮地人		七〇	二二		三三
慶尙南道	朝鮮地人	朝鮮地人		七〇	二二		三三
黃海道	朝鮮地人	朝鮮地人		二〇	三七		三三
平安南道	朝鮮地人	朝鮮地人		七三	三二		三三
平安北道	朝鮮地人	朝鮮地人		七三	三二		三三

警部警部補助務者試驗合格者調

(昭和元年十二月末日現在)

道名	種別	人別	合格者				計數
			未任用者數	警部補助務者	警部勤務者	警視勤務者	
忠清北道	朝鮮地人	朝鮮地人	三九	一〇	三六		三九
忠清南道	朝鮮地人	朝鮮地人		三六	一〇		三九
全羅北道	朝鮮地人	朝鮮地人		二八	三六		三九
全羅南道	朝鮮地人	朝鮮地人		二八	三六		三九
慶尙北道	朝鮮地人	朝鮮地人		二八	三六		三九
慶尙南道	朝鮮地人	朝鮮地人		二八	三六		三九
黃海道	朝鮮地人	朝鮮地人		二五	三三		三九
平安南道	朝鮮地人	朝鮮地人		二五	三三		三九
平安北道	朝鮮地人	朝鮮地人		二五	三三		三九
江原道	朝鮮地人	朝鮮地人		二五	三三		三九
咸鏡南道	朝鮮地人	朝鮮地人		二五	三三		三九
咸鏡北道	朝鮮地人	朝鮮地人		二五	三三		三九
總計	朝鮮地人	朝鮮地人	三〇七	七六	二八		三〇七



種別	江原道				咸鏡南道				咸鏡北道				總計			
	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人		
依願免官																
依事務の都合に																
休職及																
死亡總計																
昇進																

警察官進退及死亡

(大正十五年中)

種別	警部		警部補		巡査		總計	
	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人
依願免官								
依事務の都合に								
休職及								
死亡總計								
昇進								

備考 ×印は朝鮮外へ出向、○印は他官に轉出を示す

二 職務上の死傷

警察官の職務に因る死傷は常に内地人は朝鮮人に比して其の數多く、即ち大正十五年中の死者内地人六人、朝鮮人四人、傷痍者内地人百七十七人、朝鮮人七十八人にして之れ内地人の行動勇敢なるを顯證せり。

之等殉職者に對しては夫々其の效を厚くし、警察賞與及特別賞與を授くるは勿論永遠に表彰の途を講し又其の遺族に對しても救恤の方法を設け、業に大正十年以降京城に於て盛大なる殉職警察官の招魂祭を執行し以て遺靈の慰藉に努め又負傷者に對しては治療費を給し、其の他の適宜の待遇策を講しつゝあり。

警察上死傷人員

(大正十五年中)

種別	内 地 人		朝鮮人	
	死亡	負傷	死亡	負傷
犯罪捜査に際し	11	11		
水災消防に因り	11	11		
傳染病に因り	11	11		
演武に因り	11	11		
暴行者及押取に因り	11	11		
人命救助に因り	11	11		
匪賊討伐の爲め	11	11		
その他	11	11		







成信失墜	八	四	三〇・一七	九	六二	三	三〇・九	三	一〇五
監督不行届	一	一	九・四〇	二	一	一	一	一	一
義務違反	一	三	一五・三五	一	三	一	一	一	一
其の他	一	一	一三・三〇	一	七	三	一	二	二
總計	一一	一〇	三三・三八	三	四三	二	二、〇五九・三	六	六三

四賞與

警察賞與 警察上の勤務は常に不眠不休の努力を要求し殊に朝鮮に於ては氣候風土を異にし、或は五寒水上に或は灼熱砂上に連日連夜の活動を續け、而も銃火の中に立つことすらありて其の勞苦洵に尠らざるものあり、故に警察官に對しては匪賊討伐、犯人逮捕、人命救助、水火災、惡疫流行其の他天災地變に對する防禦救濟又は猛獸ヌクラー等の捕獲等にして其の功特に顯著なる場合道知事より警察賞與を與ふることなしあり、而して警察賞與は(イ)賞狀、(ロ)五十圓以下の賞與、(ハ)五十圓以上五百圓以下の特別賞與の三種にして、之か受賞者逐年増加し大正十五年中七千五百七十七人あり、その金額二萬八千四百六十九圓餘にして之を更に其の事由別に見るときは犯人逮捕最も多く賞與人員の約七割三分を占め人命救助之につくの狀況にあり。

功勞賞 警察官中其の行動勇敢功勞拔群にして一般警察官の模範たるべき者に對しては嚴密周到なる審査を遂げ功勞賞を附與して之を表彰す功勞賞に對しては月額五圓の加俸を給與しつゝあり、而して之か最初は大正八年七月にして爾後大正十年五名、大正十一年九名、大正十二、三年各三名、大正十四年二名、大正十五年三名、計二十五名あり、之を官職別に區別すれば警部五名、警部補三名、巡查十七名なり。

其の他の恩賞

- (イ) 職務の爲傷痍を受け又は職務上疾病に罹りたる者に對しては療治料として一日二圓以内(若し二圓を超過する時は實費)を支給す。
- (ロ) 在職中死亡したる者に對しては弔祭料を支給す、弔祭料は死亡當時に於ける月俸一箇月分とし之に勤續一箇年以上九年に至る迄一年を加ふる毎に死亡當時に於ける月俸額の三分の二を増加するものなるか、以上の外前記療治料を受くる原因に依り死亡したる者に對しては月俸六箇月分を増加して支給す。
- (ハ) 國境警備に従事する警察官には一箇年の勤務に對し一箇年半の恩給期間を加算するの特典を設く
- (ニ) 國境警備に従事する警察職員にして職務の爲傷痍を受け死亡又は不具疾病となりたる者に對しては二千圓以内の一時金を支給す。



種別	警部		警部補		巡査		人		民		計	
	人員	賞金額	人員	賞金額	人員	賞金額	人員	賞金額	人員	賞金額	人員	賞金額
犯人逮捕又は檢舉	5	4,060.00	1	1,480.00	3	5,160.35	1	1,000.00	1	1,000.00	11	19,600.35
人命救助	1	1,000.00	1	800.00	1	1,000.00	1	1,000.00	1	1,000.00	5	5,000.00
火災豫防	1	1,000.00	1	500.00	1	650.00	1	1,000.00	1	1,000.00	5	5,150.00
害獣捕殺及捕獲	1	1,000.00	1	1,000.00	1	600.00	1	1,000.00	1	1,000.00	5	5,600.00
犯人逮捕を容易ならしめ又は助力	1	1,000.00	1	1,000.00	1	600.00	1	1,000.00	1	1,000.00	5	5,600.00
匪賊討伐	1	4,500.00	1	1,500.00	1	550.00	1	600.00	1	1,000.00	5	9,150.00
水災豫防	1	1,000.00	1	1,000.00	1	600.00	1	1,000.00	1	1,000.00	5	5,600.00
傳染病早期発見及救治	1	1,700.00	1	1,300.00	1	600.00	1	1,000.00	1	1,000.00	5	6,300.00
其他	1	300.00	1	1,300.00	1	1,100.00	1	1,000.00	1	1,000.00	5	5,700.00
總計	6	16,300.00	6	16,300.00	9	22,210.35	6	16,300.00	6	16,300.00	33	72,410.35

五 精 勤 者

巡查にして品行方正職務に勉勵し事務及語學に熟達し滿三箇年間勤続したる巡查に對しては道知事

より精勤證書を授與す、本證書授與者に對しては精勤加俸支給の制ありて内地に於ては既に實施中なるか朝鮮に於ては單に其の計畫ありて未だ實施の運に至らず、而して巡查中之か受有者は五千二百二十人あり。

巡查精勤證書授與者

(昭和元年十二月末日現在)

道名	種別	授與者		授與者の内		年末現在
		前年	本年	計	計	
京畿道	道	6	18	24	24	71
忠清北道	道	1	7	8	8	15
忠清南道	道	2	11	13	13	20
全羅北道	道	3	10	13	13	22
全羅南道	道	5	13	18	18	24
慶尙北道	道	2	11	13	13	20
慶尙南道	道	3	10	13	13	22
黄海道	道	3	10	13	13	22
平安南道	道	3	10	13	13	22
平安北道	道	2	7	9	9	14
江原道	道	4	12	16	16	24
總計		33	100	133	133	201



比 較 増 減	大正十四年		大正十四年 五年昭和元年		増 減	増 減	増 減	増 減	増 減	増 減	増 減
	増	減	増	減							
	三六四	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	四〇六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	四八九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	三、九五〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	九〇九	減	一、三六	減	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	減	〇	減	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	二、七	増	二、〇	増	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	増	〇	増	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	六、〇	増	五、三	増	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	四、九	増	六、〇	増	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	三、六	増	五、五	増	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	増	九	増	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	三、六	増	五、四	増	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	増	〇	増	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	三、九	増	四、八	増	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

備考 ×印は朝鮮外よりの輸入を示す

## 第十二章 警察官の服務狀態

### 一 服務の概況

朝鮮に於ては教育未だ普及の域に達せず、従つて全く時代の推移を解せず徒らに古來の因習に囚はれ舊韓國時代を追懷して何等是非を識別するの能力なく附和雷同する者尠からず、時に所謂過激なる思想を妄信せるの徒輩之を弄せんとする等ありて施政の方針、當局の指導保護等往々にして誤解せらるゝことあり、殊に警察官は朝鮮統治の第一線にある關係上統治の眞意を各方面に徹底せしむる爲其の當然の任務遂行上細心の注意を拂ふは勿論一般行政に就ても相當援助を與へつゝあり、加之警察官の過半数は内地人なる爲、朝鮮事情の不明、言語不通に依る執行務の不徹底並通信機關の不完全、擔

當區域の廣表、而も駐在所と本署との距離往々にして數十里に上るものある等特種の事情存在し、爲に服務上の困難支障を痛感するあり、殊に僻陬地に在りては生活上幾多の不便苦痛と無聊寂寞とを伴ふあり、服務上過勞困難は到底内地のそれと同日の比にあらず、尙國境地方勤務者に在りては更に格段の逕庭あり、之か詳細は別章述ふるか如し。

### 二 特種勤務

援助事務 朝鮮に於ては内地と事情を異にする關係上警務機關に於て警察本然の事務以外に助長行政其の他の事務に對し援助を爲しつゝある事項甚だ多し蓋し最下級機關たる面長の職務執行は尙未だ幼稚の域を脱せず、到底内地に於ける町村長の比に非ざるか故に自然助長行政事業に關する依頼多く警務官憲も亦進んで之に應じ來りたる慣習に因るものなり、而して之等援助事務に關し地方人民の警務機關に對する信頼は頗る深甚にして一般に警察官憲の指示命令は確實に遵守し其の効果を收むる上に於て多大の便宜を得るの實情にあるを以て可成之か助長援助を爲すの方針に出つゝあり。援助事務として主なる事項は道路修築、林野保護、國境地方關稅事務取扱、徵稅、害蟲驅除、産業獎勵、副業及貯金の獎勵、不就學兒童の教養、青年會等の指導、漁業取締等なり、左に重なるもの二三項に付き其の狀況を述べむとす。



其關稅は主として豆滿江及鴨綠江流域に沿へる國境地帯に於ける關稅事務を警察機關（警察署、駐在所）に於て警務の傍取扱ひつゝあり。森林に關する事務中盜伐火災等警察の任務上當然警防すべき事項は勿論、援助事業として害蟲の驅除を獎勵し森林の育成に關する事項に付道廳郡廳等と氣脈を通し援助に當るの外山林監視を補助するの任に當れり。

農耕上に關する援助としては道廳郡廳の施設趣旨に依り之と連絡を保ち種子の精選苗代の設置及手入堆肥の製造施肥の方法、害蟲驅除、收穫時の乾燥方法等に至る迄之か普及と獎勵とに勤め特に害蟲驅除に付重きを措き其の勵行を援助せり。

不就學兒童の教養は駐在所に於て些少の設備を爲し其の經費は概ね警察官に於て負擔し職務の餘暇（夜間）之に當り居れるか一般に教育熱勃興せる今日無上の歡迎を受けつゝあり。

檢察事務 地方法院支廳中檢察の配置なき支廳に於ける檢察事務は朝鮮總督府訓令第十三號に依り所轄地方法院檢察正の要求に基き警視又は警部をして該事務を取扱はしむ、檢察事務取扱の箇所は現在十三箇所にして事件の取調法廷の立會等の爲、さなきたに本務の忙殺に加ふるに一層の繁劇を以てし職務執行に至大の影響を及ぼしつゝあるを以て逐年專任檢察配置箇所を増しつゝあり。

民事争訟調停事務 明治四十三年制令第十一號を以て民事争訟調停に關する件公布せられ裁判所所在

地外の警察署長は二百圓を超過せざる金額の債權又は價格に拘らす住家其の他の建物者は物品の引渡又は不動産疆界等に關する紛争事件に付之か調停を爲すことゝなれり。

本制度は手續簡略取扱敏速にして多くの費用を要せざるか故に正式に裁判所に出訴するの煩に堪へざるか如き少額の債權者其の他の争訟者にとりては頗る便宜なりとし歡迎せられつゝあり、而して之か運用に付ては調停に際し強制を避け當事者の自由意思に任すべきは勿論當事者雙方の主張の内容地方の習慣其の他事體の真相を知るに努め以て雙方の主張を尊重し専ら圓滿なる調停を遂ぐるの方針を採らしめつゝあり、其の結果として事件調停後に於ては之か履行に關し強制執行の手段に依るか如きこと殆んど稀にして多くは債務者に於て調停成立後進んで義務を遂行するの狀況なり。

執達更事務 朝鮮に於ては交通不便又は其の他の事情に由り内地に於けるか如く專務執達吏を置く能はざるを以て京城始め都市各所に於ける特例を除き殆んど警察官吏に於て之か事務を取扱ひつゝあり然るに本制度實施の初めに於ては法令の普及せざると一般に其の手續に通曉せざりし爲申請件數極めて少く之か執行に當りても往々被執行者の誤解を招き妨害を受くる等の事ありしと雖法令其の他の手續周知せらるゝに従ひ執達吏は債權者の權利の實行保全等に必要なる機關たることを漸次感知するに至り執行官吏も能く事の事務に習熟し執行上支障を醸す等の事例少きに至れり。

其の他 右の如く特種事務を擔當する外民智の開發、思想の善導に努力を要するのみならず、地方特



殊の事情に顧み人事相談事務、法令の傳達周知、談話會、講話會の開催、無料宿泊所、托兒所の監理、共同浴湯の施設、融和會、夜學會の開設、駐在所に救急藥品を備付け需に應ずる施設、保健衛生組合等の施設等幾多の事項を擔當處理しつゝあり。

巡査特種勤務人員

(大正十五年 中)  
(昭和元年 中)

道名	種別	人内別		法廷取締	監獄事務	執達事務	郵便保護	税關事務	專賣事務	遊藝處置	森林取締	計	平均
		朝鮮人	内地人										
京畿道	朝鮮人	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
忠清北道	朝鮮人	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
忠清南道	朝鮮人	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
全羅北道	朝鮮人	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
全羅南道	朝鮮人	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
慶尙北道	朝鮮人	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
慶尙南道	朝鮮人	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
黄海道	朝鮮人	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
計													

道名	種別	人内別		法廷取締	監獄事務	執達事務	郵便保護	税關事務	專賣事務	遊藝處置	森林取締	計	平均
		朝鮮人	内地人										
平安南道	朝鮮人	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
平安北道	朝鮮人	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
江原道	朝鮮人	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
咸鏡南道	朝鮮人	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
咸鏡北道	朝鮮人	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
總計													

三 巡査の休暇

巡査の執務は内勤巡査に在りては一般官廳の例に依るを本則とするも外勤巡査は警察署に在りては隔日勤務、駐在所は日曜、祭日を休日とせず七日間に一日の休日を與ふることを得るも犯罪捜査、警戒査察等の爲非番日の執務甚だ多く休日を得ること極めて尠く時に數十日に亘り連日不眠不休の勤務に従事することあり、殊に國境警察官の如きは全然休日無く晝夜武装を解くの遑なき過重の勤務を繼續する状態にあり。

従來巡査の休暇に關しては六箇月間皆勤者に對して七日間、一箇年皆勤者に對して二十一日間を恩



與せられつゝ、ありしか巡査たるの故を以て一定期間の皆勤事實の發生を要件とするは聊か偏狹の嫌ありたるを以て大正十五年六月巡査休暇規程を改正して一箇年を通して二十日以内を與ふることとし、又巡査は其の勤務の性質上一般に過勤を強ふる場合多く特に外勤刑事の如きは一般休日（一年間日曜五十二日、祭日十二日、年末年始六日、計七十日）の外土曜日半休（五十二日）の特典なく晝夜を分たす勤務し激烈なること一般官吏の比にあらず、又國境警備地域に於ける内勤特務は匪賊搜討等に從事すること激しきを以て是等巡査に對し三箇年恪勤精勵したる者に前述休暇以外に三箇年を通し三十日以内の休暇を與ふることとせり。

巡査休暇及缺勤

(大正十五年 中)  
昭和元年 中

道名	種別	現員	休 暇			缺 勤			合 計			均人員	一人に對する休暇及缺勤平均日數
			病氣	其他	病氣其他	病氣	其他	病氣其他	他				
忠 畿 道		1,056	6,310	3,915	3,338	6,211	9,838	4,556	4,333	1,510	4.33	1.51	
忠 清 北 道		2,233	1,047	1,394	592	76	1,669	1,353	83	1,436	0.64	1.15	
忠 清 南 道		4,114	2,100	1,868	443	107	2,454	1,975	443	2,418	0.58	1.18	

道名	種別	現員	休 暇			缺 勤			合 計			均人員	一人に對する休暇及缺勤平均日數
			病氣	其他	病氣其他	病氣	其他	病氣其他	他				
全 羅 北 道		483	3,268	2,908	2,908	2,043	5,311	2,868	3,443	2,568	1.93		
全 羅 南 道		678	3,368	3,915	3,915	1,373	4,748	3,430	3,310	2,418	1.31		
慶 尙 北 道		767	3,433	3,915	3,915	96	4,448	4,116	4,116	2,658	1.33		
慶 尙 南 道		711	3,281	3,515	3,515	79	4,288	4,288	4,288	2,658	1.33		
黃 海 道		559	2,591	2,591	2,591	40	3,331	3,331	3,331	1,810	1.18		
平 安 南 道		554	3,777	3,331	3,331	217	4,211	4,211	4,211	3,018	1.96		
平 安 北 道		1,898	9,333	4,647	4,647	747	5,511	6,258	6,258	3,518	1.37		
江 原 道		426	2,460	2,581	2,581	1,069	3,521	3,521	3,521	1,919	1.46		
咸 鏡 南 道		810	3,809	4,003	4,003	1,260	5,069	5,069	5,069	3,788	1.34		
咸 鏡 北 道		711	2,391	2,739	2,739	1,568	5,997	5,997	5,997	3,333	1.01		
總 計		9,433	47,033	47,033	47,033	6,100	53,133	53,133	53,133	34,716	1.34		

(口) 朝鮮人巡査  
備考 各欄中×印は父母の祭日、公務傷疾又は病氣の缺勤並休暇なり



道名	現員	休		缺		勤		合計		均勤人員	均及勤平
		病	氣	病	氣	其	他	病	氣		
京畿道	八四〇	×	五、一八二	×	二、二四八		四、三三	×	七、三三〇	二、八四四	八七二
忠清北道	三三三		一、〇一七		三、三三		一九	×	一、二八九	九八三	六二二
忠清南道	三六二	×	一、〇九五	×	一、〇九五		四三	×	一、六五三	一、二四七	八三
全羅北道	三八二	×	二、〇三三	×	二、二八四		一四八	×	二、四九八	二、三三三	一三・八
全羅南道	五〇七	×	二、四六六	×	二、六三四		三五二	×	三、二五三	二、八八五	一三・二
慶尙北道	五九〇	×	二、五八八	×	二、一五〇		一三九	×	三、三八	二、三六九	一六・四
慶尙南道	五五五	×	二、二八五	×	二、〇三三		二〇八	×	二、五九	二、三三三	一三・〇
黃海道	四三三	×	一、二〇〇	×	一、一〇七		二二	×	二、三〇六	一、一三二	九・九
平安南道	四六四	×	二、四八七	×	一、五三六		四九三	×	二、九八〇	一、六三三	一〇・九
平安北道	七五〇	×	三、四八四	×	一、四三九		一四六	×	五、四三三	二、〇二五	一三・九
江原道	四〇五	×	一、八六六	×	一、五五九		五四	×	二、四七	一、七二六	二〇・三
咸鏡南道	五二八	×	一、八六六	×	二、四八		七五	×	二、四六九	一、八九〇	一三・四
總計	六、五三四	×	二、七七七	×	二、七三三		一、七六八	×	三、九、五〇一	二、四二六	一、八四・二
咸鏡北道	四八五		一、七六六	×	一、二五四		一九六	×	二、四二六	一、四五〇	二・四

備考 各欄中×印は父母の祭日、公務傷疾又は病氣の缺勤並休暇なり

### 第十三章 警察官の給與

巡査には俸給の外加俸、手當、宿舍料、旅費、被服を支給す。

俸給 内地人巡査には初任給本俸三十六圓及本俸の十分の六に相當する加俸を支給し朝鮮人巡査には初任給二十六圓を支給し加俸を支給せず、尤も教習中成績優等の者に對しては初任給に二圓を増給し巡査採用規則第一條に依り筆記試験を省略せられ且つ特種の技能を有する者にして巡査に採用せらるゝ場合には規定の範圍に於て適當の額を定め之を支給し得るの例外を設け學術獎勵人材登用に付優遇の方法を講しあり、尙僻陬地勤務者には土地の區別に依り本俸の十分の一又は十分の二に相當する金額を加給す、斯くて内地人は本俸最低三十六圓最高七十八圓にして加俸を含むときは其の平均額六十八圓三十七錢朝鮮人は最低二十六圓最高五十六圓にして其の平均額三十六圓七十一錢なり。

尙現在に於ては功勞加俸は月額五圓を支給し居れども精勤加俸を豫算の關係上之を支給せず。



手當 陸接國境地方に在勤する巡査に對しては土地の區別に従ひ五圓、七圓、十一圓の臨時特別手當を支給し刑事、通譯、會計其の他特種の技能を有し其の勤務に服する者には三圓乃至五十圓の範圍にて手當を支給す、然れども豫算の關係上實際の支給平均額は三圓六十六錢餘に過ぎず、非番勤務手當は其の勤務時間に應し三十錢、五十錢、七十錢を支給し得ることの制あるも實際に於ては豫算の關係上殆ど支給せざる現況なり。

旅費 實費支辨を原則として支給するの規定を定む而して警察官駐在所勤務者には俸給額の區別に従ひ月額旅費として四圓乃至十三圓を支給し其の擔當區域内の出張に對しては旅費を支給せざること、せり。

宿舎料 内地人巡査には土地の等級に應し五圓乃至十圓の宿舎料を支給し鮮人巡査には支給せず。

被服帶具 巡査には使用期限を附し帽、冬服、夏服、外套、日覆、下襟、冬手套、夏手套、冬肌着、夏肌着、靴下、長靴、短靴等を支給す但し内地人巡査に對しては短靴、長靴、下襟、冬手套、夏手套、冬肌着、夏肌着及靴下は現品を支給せず毎月額一圓三十錢の代料を支給す其の他防寒具たる帽、外套襪、袴下、手套、靴下、覆面、肌着を貸與せり其の材料及製作方法別表の如し。

朝鮮其の他各地方 警察官給與比較

(昭和元年十二月末現在)

地方	警部算				補人				巡査					
	俸給	手當	旅費	宿舎料	被服料	計	俸給	手當	旅費	宿舎料	被服料	計	最高	最低
朝鮮	六三〇・〇〇	三七八・〇〇	七〇・〇〇	一三六・〇〇	八八・〇〇	一、三三六・〇〇	五〇〇・〇〇	三三二・〇〇	七〇・〇〇	八六・〇〇	四八・〇〇	一、〇六八・〇〇	一、〇六八・〇〇	六〇・〇〇
内地	六四八・〇〇	—	?	四二・〇〇	?	?	五五〇・〇〇	—	?	三三・〇〇	?	?	?	?
臺灣	六六〇・〇〇	三五六・〇〇	—	六〇・〇〇	六〇・〇〇	一、〇六六・〇〇	五〇〇・〇〇	三三〇・〇〇	一〇〇・〇〇	官舎	四三・〇〇	一、〇六六・〇〇	一、〇六六・〇〇	?
關東廳	六〇〇・〇〇	三三八・〇〇	—	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇	五〇〇・〇〇	四三〇・〇〇	六〇・〇〇	官舎	四三・〇〇	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇	三三・〇〇
樺太廳	六〇〇・〇〇	四三〇・〇〇	—	三〇〇・〇〇	三〇〇・〇〇	一、三三〇・〇〇	五〇〇・〇〇	三三〇・〇〇	三三・〇〇	官舎	五〇・〇〇	一、四三〇・〇〇	一、四三〇・〇〇	三三・〇〇
南洋廳	七〇〇・〇〇	四六四・〇〇	—	官舎	一五八・〇〇	一、一六二・〇〇	七〇〇・〇〇	—	?	官舎	一八・〇〇	一、三四四・〇〇	一、三四四・〇〇	八〇・〇〇
警視廳	七七〇・〇〇	—	—	官舎	一五八・〇〇	一、〇六六・〇〇	六六六・〇〇	—	?	官舎	三三・〇〇	一、一〇〇・〇〇	一、一〇〇・〇〇	五八・〇〇
北海道廳	六四〇・〇〇	—	—	官舎	一五八・〇〇	八九一・二六	六六六・〇〇	—	?	官舎	三三・〇〇	九二四・二六	九二四・二六	五八・〇〇

備考 一 手當欄には加俸の外一般に支給せざる加給其の他の手當を含みます  
 一 巡査の給與欄には右の外旅費を含まず尙臺灣、關東廳、南洋廳には宿舎料を含みます

警察官現員現給

(昭和元年十二月末日現在)

道名	内鮮			警部			補			巡査		
	人別	定員	現員	定員	現員	平均額	定員	現員	平均額	定員	現員	平均額
京畿道	内地人	二〇	四三	二六	二七	八二	二六	二七	八二	二六	二七	八二
道	朝鮮人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平均額	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—







防寒帽	表は青茶褐雲舞こし帽體にけ綿を内容したる裏、垂布及前庇裏に編羊皮を用ひ尙鼻繩を附着す	六五匁
防寒覆面	羊毛絨を原料としたる「メリヤス」製にして密針及「手カガリ」を以て所定の形状に縫合す	二五匁
防寒手套	前項と同し	三〇匁
防寒靴下	同	四〇匁
防寒襪袴	同	一九〇匁
防寒袴下	同	一八〇匁
防寒靴	表は塗製黒皮裏は「フェルト」を附着しゴム底とす	—
防寒附著	表は茶褐雲舞裏は山羊毛皮を使用す 開着型にして肩は釦、脇下は紐にて結合す	四〇〇匁

### 第十四章 警察官の生活状態

民情風俗言語等は内地と異なるも京城、釜山、大邱、平壤は勿論道廳所在地及開港地には内地人の居住多く物資の供給豊富にして其の生活状態は内地の都市に於けると殆んど論る所なく、殊に近年交通機關著しく發達し各警察署所在地には殆ど定期自動車開通し、沿海各道には朝鮮郵船會社の定期航

路あり、而も輕便鐵道定期自動車は一般産業の發展と共に地方開發を促進助長する所少からずして各主要地及自動車沿線にありては物資の供給も比較的充分にして生活上威脅を感じるか如きこと無きの状況となれり、然れども今尙徒歩するに危険を感じ或は内地人に接し談話を交換するか如きは勿論其の通行者すら數箇月に亘り皆無の状態にある土地も亦珍しからず、之等の地方に在りては物資の供給充分ならずして數里乃至十數里を距つる警察署所在地より又は内地より直接取寄せつゝあるの状態にして其の困苦想像たに及はざるものあり、殊に西、北鮮地方に於ては冬季は寒氣凜烈正に零下三十餘度に達し、又駐在所より所屬警察署に達するに數日を要する等未開の地多く、従つて生活上の不便勞苦は蓋し想像の外にあり其の寂寥味更に深刻なり。

斯かる氣候險惡僻陬の地に職を奉する警察官に對し日常の勞苦を慰し且つ精神上的の慰安を與ふる所のものは一に家族團聚の家庭の樂に俟つの外なしと雖家族に對する慰安の資なく、又夫れ等子弟の教育其の他の都合上妻子を郷里に残し獨身の生活を爲しつゝある者尠からざる状態にあり、されは當局に於ても之か慰安方法に付て婚姻を勧め花卉の種子を配布し或は蓄音機の備付を爲して趣味性の渴に供へ又は本府より職員を派遣して慰問せしめ或は愛國婦人會其の他の團體より慰問品の寄贈を享くる等一般の同情理解を蒐むることに斡旋するの外凡ゆる施設に不斷の努力を拂ひつゝあり、而して近年交通及産業の發達に伴ひ妻帯して家庭生活を營む者漸次増加の傾向にあり。

警察官の中内地人は氣候風土に馴れざると食物の變化等の爲に感冒、呼吸器病、胃腸病等に侵さる



ゝもの比較的多きは半は不可抗的の不祥事なるか、各自攝生を重んじ保健に深甚の注意を拂へるを以て大體に於て鮮人警察官に比し遜色なき保健状態を呈し良好の成績を示しつゝあり、然れども曩に陳述せる如く僻陬の地多く醫師の在住せざる箇所尠からず且つ交通の便悪しきに因り一旦罹病せむか、之か往診を求むるに一回數十圓乃至數百圓を要し時には醫療を受くるの途なく重態に陥る等の慘狀を呈する事例罕なりとせず、されは此等不便の地には救急藥品を備付くる等は彼考慮施設しつゝあるも未だ到らざる點多きは遺憾とする所なり。

日常生活費は市部在勤者は郡部在勤者に比し又内地人は朝鮮人に比し孰れも多額を要しつゝありと雖家族の數及住所の如何に依り一様ならず、されと特殊の事情生ぜざる限り一般に生計餘裕を示し相當の貯蓄を爲しつゝあるの狀況にあり。

巡査家族調

(昭和元年十二月末現在)

道名	種別	現員	同居者		獨身者	學齡兒童あるもの
			一人のもの	二人のもの		
京畿道		1,066	388	255	91	2,100
忠清北道		265	101	63	14	52
忠清南道		244	82	101	26	93

(1) 内地人巡査

道名	種別	現員	同居者		獨身者	學齡兒童あるもの
			一人のもの	二人のもの		
全羅北道		483	84	133	3	95
全羅南道		676	133	168	65	126
慶尙北道		766	111	193	57	148
慶尙南道		741	124	190	79	166
黄海道		559	111	145	33	93
平安南道		574	128	167	19	82
平安北道		1,879	397	383	19	42
江原道		496	85	226	35	89
咸鏡南道		80	194	166	30	132
咸鏡北道		72	184	181	22	62
總計		9,463	1,916	2,277	533	1,497

(2) 朝鮮人巡査

道名	種別	現員	同居者		獨身者	學齡兒童あるもの
			一人のもの	二人のもの		
京畿道		840	110	166	123	267
忠清北道		333	110	141	77	28
忠清南道		361	70	111	6	67
全羅北道		383	45	88	45	73



平均	成鏡北道	成鏡南道	江原道	平安北道	平安南道	黃海道	慶尙南道	慶尙北道	全羅南道	全羅北道	忠清南道
署所在地	署所在地	署所在地	署所在地	署所在地	署所在地	署所在地	署所在地	署所在地	署所在地	署所在地	署所在地
七〇・七〇	八〇・〇二	八〇・九二	七〇・〇三	八六・〇〇	七〇・〇三	七〇・〇三	七〇・〇三	七〇・〇三	七〇・〇三	七〇・〇三	七〇・〇三
四六・二八	四八・三三	四八・六〇	四七・六六	四八・三〇	四八・三三	四八・三三	四八・三三	四八・三三	四八・三三	四八・三三	四八・三三
五九・二六	五九・九二	五九・九二	五九・七〇	六〇・八〇	六〇・三三	六〇・三三	六〇・三三	六〇・三三	六〇・三三	六〇・三三	六〇・三三
五九・六九	六〇・〇七	六〇・〇七	六〇・〇七	六〇・〇七	六〇・〇七	六〇・〇七	六〇・〇七	六〇・〇七	六〇・〇七	六〇・〇七	六〇・〇七
五九・八八	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三
六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三
六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三
六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三	六〇・〇三

道名別	署所別	収入額	單身者	二人の以上	三人の以上	四人の以上	五人以上の	以上平均
忠清北道	署所在地	七〇・〇三	三六・〇〇	五八・〇〇	五八・〇〇	六〇・〇〇	七〇・〇〇	六〇・〇〇
京畿道	署所在地	七〇・〇三	三八・〇〇	五八・〇〇	五八・〇〇	六〇・〇〇	七〇・〇〇	六〇・〇〇
忠清北道	署所在地	七〇・〇三	三八・〇〇	五八・〇〇	五八・〇〇	六〇・〇〇	七〇・〇〇	六〇・〇〇

(4) 内地人 巡査

巡査生活状態

(昭和元年十二月末現在)

道名別	署所別	収入額	單身者	二人の以上	三人の以上	四人の以上	五人以上の	以上平均
總計	署所在地	六三・四〇	四九・二七	八八・九二	一、四九七	一、九二八	八七九	四〇〇
成鏡北道	署所在地	四八・五五	二七	七四	一〇八	一八八	七九	二五
成鏡南道	署所在地	五三・八	四七	八二	一〇三	一六九	六四	四七
江原道	署所在地	四〇・〇	三三	三〇	九	二七	二七	二〇
平安北道	署所在地	七五・〇	二〇	一三	一六	一九	七	七
平安南道	署所在地	四六・四	三〇	五二	一〇八	一七	六	一六
黃海道	署所在地	四三・五	三二	八	二四	一三	七	一六
慶尙南道	署所在地	五九・〇	一〇六	八三	二四	一三	七	三
慶尙北道	署所在地	五九・〇	一三	七	一八	一三	七	三
全羅南道	署所在地	五〇・七	三	八	二七	一三	七	三



道名別	署所別	収入額	生					以上平均
			單身者	二人の以上	四人の者	五人の者以上	以上平均	
京畿道	署所在地	三三・三〇	二五・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	四一・〇〇	三三・〇〇	
忠清北道	署所在地	三三・七三	二二・八七	三二・八五	三三・九三	四〇・九〇	三三・二四	
忠清南道	署所在地	三三・三三	三三・三三	三三・四九	三三・七三	三六・六三	三三・三三	
全羅北道	署所在地	三三・四八	二二・三三	三二・六五	三三・五三	四〇・六〇	三三・七三	
全羅南道	署所在地	三三・九三	二二・三三	三二・八五	三三・五三	三三・五三	三三・七三	
慶尙北道	署所在地	三三・三〇	二二・九四	三二・七〇	三三・九三	三三・九三	三三・三三	
慶尙南道	署所在地	三三・三三	二二・六六	三二・四〇	三三・六六	三三・六六	三三・三三	
黄海道	署所在地	三三・〇二	二二・三三	三二・五三	三三・三三	三三・三三	三三・三三	
平安南道	署所在地	三三・二二	二二・三三	三二・一〇	三三・九三	三三・二二	三三・〇〇	
平安北道	署所在地	三三・三三	二二・〇〇	三二・〇〇	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・七三	

道名別	署所別	収入額	生					以上平均
			單身者	二人の以上	四人の者	五人の者以上	以上平均	
江原道	署所在地	三三・三三	二二・三三	三二・三三	三三・三三	三三・三三	三三・三三	
咸鏡南道	署所在地	三三・三三	二二・三三	三二・三三	三三・三三	三三・三三	三三・三三	
咸鏡北道	署所在地	三三・三三	二二・三三	三二・三三	三三・三三	三三・三三	三三・三三	
平均	署所在地	三三・三三	二二・三三	三二・三三	三三・三三	三三・三三	三三・三三	

### 第十五章 犯罪状況

#### 一 概況

朝鮮に於ける犯罪は往時強盗又は殺人等の如き残忍なるもの多く其の他の犯罪は比較的尠かりしか併合後諸制度の確立と警察機關の整備とに伴ひ前叙の犯罪は逐年遞減しつつあり、唯一時義烈團事件の突發あり、次に關東地方の大震災に際し鮮人虐殺の不祥事の衝動に基因して民心の趨向を杞憂せられたるものなきに非らざりしか一般民衆の自覺に依り今や概して平靜の状態に歸し所謂時局標榜の犯罪漸く跡を絶ち、唯國境方面特に平安北道管下に在りては對岸奥地に潜在する不逞の徒機會の乘すへきわれは鮮内侵入を企て今尙慘虐なる被害なきにあらす、尤も最近特異の事象とも認むべきは純然たる政治犯罪は漸く其の影を潜め渠等の所謂獨立を云爲したる各種の不逞團體も漸次強盗の色採濃厚な







道		年 比 較			
		昭和大正十五年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
京畿道	發生	五八〇	五八三	五八八	五八七
忠清北道	發生	三三三	四六六	四三三	四三六
忠清南道	發生	三三三	四一八	四三三	四三六
全羅北道	發生	三三三	三三三	三三三	三三三
全羅南道	發生	三三三	三三三	三三三	三三三
慶尙北道	發生	三三三	三三三	三三三	三三三
慶尙南道	發生	三三三	三三三	三三三	三三三
黃海道	發生	三三三	三三三	三三三	三三三
平安南道	發生	三三三	三三三	三三三	三三三

別		年 比 較			
		昭和大正十五年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
平安北道	發生	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七
江原道	發生	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
咸鏡南道	發生	三三三	三三三	三三三	三三三
咸鏡北道	發生	三三三	三三三	三三三	三三三

二 犯罪即決

犯罪即決事件は大正八年以降頓に其の数を減少し大正九年には極度の減少を見處分人員五萬八千八百八十四人に過ぎざりしか大正八年以降又逐年増加の趨勢を顯したり、是れ大正八年騷擾事件の勃發に依り人心動搖し専ら治安の保持に全力を傾かし普通警察事務に庸る餘力乏しかりし爲自然即決事件の減少を來せるものにして其の後一般民情漸次平穩に復歸すると共に諸般の取締に任するを得たる結果とす。

大正十五年中に於ける即決事件は七萬五千八百八十五件、處斷人員九萬六千五百五十八人にして大正十四年中の即決事件八萬三千二百十四件、處斷人員九萬六千五百五十八人に對比して件數に於て二千六百六人を減少せり、而して之等犯罪即決の主なるものは刑法犯に在りては賭博犯その首位を占め特別法犯に在りては警察犯處罰規則違反最も多數を占め、荷車取締規則違反、道路取締規則違反、料理屋飲食



店營業取締規則違反、墓地火葬場取締規則違反、自轉車取締規則違反、屠場規則違反及森林令違反を其の重なるものとし、其の他阿片、モルヒネ、コカインに關する犯罪等も亦注目すべきものとす、就中賭博は娛樂機關の不備なる爲趣味低級なる地方民間に於ける一種の民族的習癖をなし容易に改善の效果顯はれざるの状態にあり。

犯 罪 即 決 (道 別)

(大正十五年 中)

道 名	既 済 件 數		既 済 人 員		未 済		正 式 裁 判 結 果 件 數		未 済
	有 罪	其 他	有 罪	其 他	件 數	人 員	有 罪	無 罪	
京 畿 道	七、八四	六、八四	二、四七	七、〇〇	九	九	一	一	七
忠 清 北 道	一、三六	二	二、五九	二、六三	五	五	一	一	一
忠 清 南 道	三、三三	五〇	四、七四	四、八八	一	一	一	一	一
全 羅 北 道	四、三三	一四	五、六〇	五、七五	三	三	一	一	一
全 羅 南 道	三、五九	七四	四、九六	五、三三	八	一〇	一	一	三
慶 尙 北 道	六、八六	二、三九	一四、二六	一六、七四	一六	三三	一	一	一
慶 尙 南 道	六、九三	三六	八、七五	九、二八	六	一六	一	一	一
黃 海 道	五、四〇	三	一〇、一四	一〇、一五	二	二	一	一	一
平 安 南 道	五、八八	一	八、八九	八、八九	五	五	一	一	一
平 安 北 道	二、一五	一八	四、九八	五、二〇	九	九	一	一	一

道 名	既 済 件 數	既 済 人 員	未 済 件 數	未 済 人 員	正 式 裁 判 結 果 件 數	未 済
江 原 道	二、二九	三、八四	七	七	三	三
咸 鏡 南 道	三、一六	五、一三	一	一	一	一
咸 鏡 北 道	一、七九	三、〇七	一	三、八九	一	一
總 計	三、九三	八、九三	三	三	三	三

第十六章 治安狀況

一 併合前の狀況

警察力の未だ充分ならざりし往時に在りては地方の民擾連年絶ゆることなく、就中江原慶北の境上附近一帯には火賊と稱する匪賊の巢窟あり、明治二十七年東學黨の亂起りしより地方の秩序漸く壊敗し各地無頼の徒亦集團を成して良民を劫掠するもの往々にして之あり、中央の政變亦頻繁にして其の地方の安寧に影響を及ぼす所大なりき。

明治四十年七月再び日韓協約の成立を見、次て各地舊韓國軍隊の解散せらるゝや京城に於ける兵士暴動の餘響殆んど全土に波及して暴徒の集團所在に横行し口に義兵を唱稱し、其の實掠奪殺傷を恣にし往々地方官廳を襲ひ官吏に危害を加ふるものあり、郷曲不良の輩、火賊小匪の類亦之に乗して跋扈し、就中慶北、江原、京畿、黃海の諸道並に全羅南北道方面最も甚しく暴徒の過ぐる所邑里蕭條の觀



を呈し事態容易ならざるものあり、茲に於て統監は韓國皇帝の委任に依り駐劄守備隊及韓國警察をして協力鎮定に従事せしめ一方歸順者宥免の恩典を以て賊徒の歸順を勸奨し道路工事を起して歸順者に生業を興へ明治四十二年末に至り略鎮定の效を奏したるも餘孽尙慶北、江原、黄海、京畿各道の山地に出沒し草賊蕪賊無賴漢亦諸方面に點在し未だ警戒を緩するを得ざる状態なりき。

## 二 併合後の状況

併合後治安の確立すると共に新政の惠澤漸を追ふて都鄙を光波し庶民其の所を得て生を聊するに臻りたりと雖、政事上に社會上に内心不平を懷くの徒輩尙尠からざるへきは數の免れざる所なり、然れども彼等は復事を擧ぐるの力なく、纔に國外に於て國權恢復を云爲するに止まり疆内一般は人心平靜にして産業文物年と共に興隆に向ひ民福の増進顯著なるものあるに臻れり。

歐洲戰亂勃發當初朝鮮内に於て往々獨逸の優勢を妄斷して國權回復の時機到來せるもの、如くに流説するものあり、殊に大正七年露國第二革命後獨逸勢力の東漸並帝國及諸外國の西伯利出兵に際し荒唐無稽の風評を傳ふる者尠からざりしも未だ民心の動搖を見るに至らず一部在外鮮人等は此の間類りに獨立運動に奔走し其の誤解せる民族自決の主義に依りて朝鮮の獨立を實現せむには先づ民族を糾合し内外相應して其の意志を世界に表明せざるへからずとなし同八年一月下旬密に人を東京及朝鮮に派

し主として學生及基督教徒中の不平者流に宣傳を試みたり、是より先事大雷同の痼疾は流言蜚語の頻發に前し殊に大戰終局の前後より世界思潮の變動に刺戟せられて一部朝鮮人間に在りては世界の氣勢を辨せず、結局獨立の不可能なるを洞見するを得ずして一縷の望を之に繫かむとするの情なきにあらざりしを以て茲に人心動搖の端を啓き、之と同時に天道教徒中又人心の機微を看取して獨立の非望を企つる者あり、人を介して基、佛兩教徒中の同志と協同し遂に同年三月一日の獨立騒擾を惹起するに至れり。

## 三 騒擾事件後の状況

獨立運動は一時全鮮所在に起りたりと雖約二箇月にして騒擾漸くにして鎮定し集團的示威運動に至りては殆んど全く其の跡を絶ちしか當時に於ける民心は騒擾の餘波を受け痛く平靜を缺き、不安の情勢上下一般に漲り、爲に個々の煽動脅迫等一時尙頻發し、其の極度に達せし際には依然として或は獨立を實現するに非らざるやを信する者あり、其の然らざる者と雖脅迫其の他の危害を虞れ曖昧なる態度を示し在萬經過し居りしか同年八月警察制度の一大改革行はれ警察力の充實と人民の覺醒とに伴ひ不逞企畫は事毎に未然に摘發せられ又施すに術なきの情勢に臻りしかは彼等不逞者等は濫に良民を脅迫し獨立資金と稱して金品を強奪し而も之を私利に費消して徒に民怨を招致し、加之時日の經過と共に



に智識階級に屬する者より漸次獨立運動の無謀にして絶對不可能事たるを悟り、曩日不逞運動に附和雷同せし無智の鮮人も殆んど悔悟し或は生業に復し、或は進んで前非を官憲に陳謝し再び妄舉に出てざるを誓ふ等の者續出するに至れり、而も其の不逞計畫及之に關係する各種犯罪事件の多くは其の根源を在外不逞者自らの潛入に依り敢行せらるゝものなりしに、上海假政府を初め其の他の不逞團も僅に餘喘を保つのみにて信望内外に失墜し民心離反したるに依り大正九年及同十年に於ては咸鏡北道、咸鏡南道、平安北道を通し多少の被害ありたるも同十一年度に入り著しく減少し咸鏡北道には侵入殆んど絶え平安北道江岸地方に於て草木繁茂期を待ち三々伍々侵入して官憲の目を忍ひて強盜行爲をなすものありしのみなり。

#### 四 最近の状況

朝鮮人最後の望を囑したる大正十年の華盛頓會議か豫期に反し何等の効果を齎すことなくして終了せしより從來外國の援助又は國際會議を利用し獨立の目的を達せむとしたる野望は全く水泡に歸し民心茲に一轉機の機運に際會し無謀空虚なる運動は所期の成果を收むること能はざるのみならず却て民族的地位を進展せしむる所以に非らざることを漸次自覺したるもの、如く爾來操觚界、宗教方面關係者及青年學徒等の有識階級は從來の運動より轉して教育の振興と産業の發達に全力を傾倒し物心兩用

の充實に依りて民族文化の向上を促進せしめ思想の統一を圖ると共に歩々實力を養成し以て民族自立の基礎的發展を遂げむとする所謂實力養成論擡頭するに至れり今左に民族運動を分類して略述せんに  
 暴力的直接行動に依る獨立運動に至りては殆んど其の跡を絶ち之か機關と認むべきものなし、現に昨年六月故李王殿下の國葬時に一部少數の不良學生か獨立萬歳を高唱し獨立精神の喚起に努めたるも之に唱和して妄動する者無かりしは此の間の消息を雄辯に語るものと謂ふべく唯僅に在外鮮人の獨立運動として米國本土、布哇、露領、上海及西北間島等に亘り微弱ながら尙餘喘を保ちて蠢動しつゝあるに過ぎず、之等は鮮内に何等の影響を與へざるも別項在外不逞鮮人の章に詳説する如く在上海の所謂假政府、義烈團、丙寅義勇隊等の暴力團體及北滿若くは鴨綠江對岸に蟠居する新民府、大韓正義府、駐滿參議部等の不逞團は時々國境地帯に出沒し或は深く鮮内に潛入して漸く沈滯せむとする民族感情を刺戟せむか爲時に不逞の行動に出づるものあり即ち昨年七月以降十月に亘り京畿道内四箇所に發生せる拳銃事件は駐滿參議部員たる李壽興の所爲なりしか、斯の如き無謀兇惡なる妄動は鮮内の民心を左右すること能はざるのみならず却て一般は其の愚を鑒する實況にして大勢に影響する處なかりしなり。

日本の統治を認めず鮮人の實力の充實に依り其の獨自の力にて獨立の目的を達成せむとする所謂非妥協的民族運動は海外に於ける不逞運動と其の手段方法を異にするも同しく隱密の間に鮮内の獨立思想を醸生するものにして一般青年學生有識青年等は多く之に屬し諺文新聞及演說會等に於て散見する



獨立論は皆此種に屬するものにして大部分の鮮人の腦裡を往來する思想と云ふへし。

近時權利思想發達し又世界の氣勢に通するに及び非妥協的運動のみに依りて彼岸に達せむとするは到底其の不可能なるの所以を覺り漸次總督府政治と或程度の妥協點を得て此の種運動に一進展を計らむとする傾向著しきものあり即ち日本の勢力を是認して共存共榮を本旨とする妥協的民族運動には參政權獲得、自治又は同化を目的とする運動團體等あれども近時一部有識階級は一時妥協的民族運動の形式を採り運動の進展を策せむとする者あるは前述の如し殊に最近に於ける著しき傾向は從來の實力論は唯物的に傾き更に本元に遡りて民族文化の跡を温ね其の傳統の因て來る所以を究め以て民族精神の作興に努め頽廢し行く民心の趨勢を挽回せむとするの運動到る處に行はれ數年前の實力養成論に一歩を進めたるものと云ふへく、これか進展の状況につきては相當留意を要すへく、總して人心一般に着實に向ひ足を現實に印し過去を顧みつゝ其の向ふ所に進まむとする傾向あり。

翻て社會運動の方面を見るに獨立運動の挫折に依り自暴自棄に陥れる者、無頼浮浪の青年若くは施政又は社會に不平反感を懷ける徒輩は國際共產黨より赤化宣傳費を其の手に收め以て失望と反感の餘焰を慰すへく過激思想に投合せむとする傾向を生じ、大正十一年に入りて朝鮮勞農總同盟、朝鮮青年總同盟の全鮮的統一機關組織せられ細胞團體亦各地に簇生し、大正十四年中には朝鮮共產黨及高麗共產青年會の如き秘密結社の組織を見たる等主義運動は漸次進みて正に高潮に達せるの觀あり。

大正十五年に入りては前年檢舉せられたる第一次共產黨の後繼機關たる第二次共產黨の組織及國葬時に於ける國際共產黨の指示に基く第二次共產黨關係者の不穩計畫ありたる外朝鮮に於ける思想團體の二大黨派の一たる一月會派は四箇團體合同して正友會を組織し之か反對派たるソウニ青年會派は之に對し朝鮮社會團體中央協議會開催の計畫を發表し居れるか第一次共產黨檢舉以來共產主義的色彩の濃厚なる團體に對しては其の集會を禁止し來れるを以て特記すへき運動なかりしも國葬後殊に第二次共產黨事件檢舉後主義運動の方向著しく轉換し從來民族運動との提携を排し來れるに反し今後の運動は民族主義者と提携して併行するにあらざれば到底所期の目的を達すること能はずとなし既に之か宣言書を發表したるものあるのみならず一般亦之に倣はんとする傾向あるも之等運動者は革命勃發の機に乗して鬱積せる憤懣の情を霽さむとし又は露國共產黨より宣傳費を獲得せむとする野望を充さむか爲主義を標榜するものにして時に露國共產黨と連繫策動を企つる者ありと雖何れも共產黨の傀儡となる者多く眞の主義者とは認め難きも近時入露して共產黨に投せむとし又は共產大學に入らむとする者次第に多からむとする情勢ある外運動方向轉換策に依る一傾向として普通選舉に依る所謂無產政黨と連絡を保ちて民族的の政治革命を促進し然る後經濟革命の目的を達成せむとする氣運にあり。

斯の如く鮮内の民心は今や民族及社會主義の二大潮流に依りて支配せられつゝあるか民族主義運動に於ても共產主義運動に於ても均しく強者の羈絆より脱せむとする點及排日の點に於ては相互に共通



し得べきを以て經濟的解放と民族的解放との二潮流は常に明確なる對立を爲すにあらすして時に合流交錯し従て兩者の一致點を見出したるときは打て一九となり共同戰線に立たむとする氣運なきを保し難し、然りと雖之等兩運動團體は幾多の小流に分裂對抗各自説を固執して譲らざるのみならず、相互反目排擠し或は他流の事業を妨害破壊し或は運動費を自派に收めむとして常に暗闘を反覆し内訌紛争絶へざる狀況なるを以て實力養成の旗幟も大同團結の理想も幾度か空しく消へて殆んど大成したるものあるを見す徒に運動に對する熾烈なる希望を抱き焦燥の情を高めつゝ僅に一味の間に於て蠢動を繰返しつゝあるの狀況なり。

## 第十七章 國境警備

### 一 國境地方の地勢

朝鮮に於ける國境は鴨綠江及豆滿江の兩江を以て露支兩國に相接し其の延長八百十三哩に達し、國境警備區域は地勢其の他の關係に依り一定せざるも幅員江岸より概ね五里乃至十里に亘る地域を指すものにして其の面積千八百餘方里に及ぶ廣漠たるものなり、之等の地域は中央に高嶺蟠居し其の支脈四方に趁り山嶽重疊險路峻坂縱横し殊に白頭山麓國境約二十里の間は密林地帯に屬し電線も架設する

能はず交通殆ど絶えたる幽邃境にして纔に兩流域の下流に於て辛うして車を通し得るの外其上流は人肩馬背に倚りて漸く物資を運搬するを得るに過ぎず、然れども冬季は江上水結し牛馬車の交通自在なり。尙豆滿江は舟楫の利用に欠陥多きも鴨綠江は高瀬船の利用盛にして而も最近は發動機船上下するを以て利便少からず、而して夏季は到る處に渡船あり又江口より十數里の外は水淺く湧水時には到る處渡渉し得るを以て對岸との交通容易なり、又對岸には廣表たる平野横はり其の地味一般に豊饒なるを以て賊は概ね對岸各地に根據を構へ居れり。

### 二 匪徒の狀況

大正八年三月の騷擾事件勃發前に於ては國境地方に在りては時に支那馬賊の侵入を見るの外鮮人匪賊に關し大なる事故なかりしも騷擾事件勃發後に於ては同事件に關係せる者の一部其の檢舉を畏れて支那地に通入し同地に在住せる無頼不逞の徒と合して匪賊と化し各種の不穩團體を組織して各地に根據を構へ上海潛稱假政府等と連繫して武力侵襲を敢行せむと常に我か警備力を覬覦し巧みに國境沿岸の警戒網を潜りて鮮内に侵入し獨立運動の目的達成に供する資金を得ると稱し所在民家を襲ひて掠奪、放火、殺傷等總ゆる兇暴を擅にし時には駐在所、面事務所其の他の官公署を襲撃せり、即ち大正九年に於ては兇暴の度最も甚しく總件數一千六百五十一件、匪賊人員四千六百四十三人、其の被害殺



傷五十九人、放火三十六戸、損害一萬七千三百八圓、被害金品十一萬四千八百八十九圓、警察署駐在所の襲撃四十四箇所、警察官の殉職八人、同負傷者二十人に及びたりしか、爾後警備力の充實と嚴密なる取締警戒とに依り漸次減少し咸鏡北道及咸鏡南道に屬する國境延長線約二百里に亘る一帶の地に於ては十二年以降部隊侵入の如きは全然跡を絶つに至れり、平安北道方面に於ても、大正十三年五月十三日齋藤總督國境巡視に際し、馬嘶洞附近航行中大韓統義府第一中隊長白柱雲の部下數名總督一行に對し小銃射撃を行ひたる事件ありたる後、時に時局を標榜し強盜殺人の不行動に出づるものなきに非らざるも、之れ彼等か對岸に於て掠奪し來れる朝鮮人の財貨既に枯渴し加之同志の離散及交際により漸く其の退勢を覺りて自暴自棄的に掉尾の狂暴を敢てするに過ぎず、而も其の數逐年著しく遞減し殊に最近彼等の中には前非を悔ひ武装を解きて歸順を希ふもの陸續として現はるゝに至れり。

從來匪賊は根據を支那に置き精巧なるコールト式又はモーゼル式連發銃を所持し晝間は人跡未到の山中又は密林地帯に潜伏し日没を俟つて横行するを常とす、其の目的とする處概ね金品を強奪に在りて殆んど支那馬賊と異なる所なきも政治的意義を有し我か官憲を攻撃して、鮮内の民心を動搖せんとし或は殘忍暴虐の行動に出づるものなきにあらす之か警戒取締に付いては不斷の努力を拂ひつゝあるも、一は國境一帶の地勢たる長白山及白頭山の支脈四方に趁り加ふるに密林地帯あり鮮内の交通極めて不便なるに對岸の交通易々たるか爲に匪賊の潜伏對岸への遁走に頗る地の利あり、一は鮮人被害者

は匪賊の脅迫に依り後難を虞れ被害事實を官憲に申告せざること多く甚しきに至りては却て我か官憲の行動を密告し又は犯行を隠蔽する等渠等を庇護し匪賊の脱梁を助成する者等ありて今尙根絶の域に達せざるは寔に遺憾とする所なり。

斯かる状態にあるを以て警察官の警備及捜査の苦心は寧ろ想像の外にあり、之か對策に付ては常時遊動捜査隊を編成し晝夜を分たす隨時出動匪賊の慮を衝き以て之か撲滅に全力を傾注すると同時に一方部民との連絡を密にしたまた自警團、自衛團等の活動を促して警察取締の周密を期しつゝあり。

國境匪賊狀況

(昭和元年十二月末日現在)

年別	種別		被		害		損		害		檢	
	件數	人員	殺害	負傷	拉去	金品	射殺	負傷	件數	人員	殺害	負傷
大正九年	平北	九〇八	二、六〇一	三	一七、三六〇	八、八六三	一	一	三	一、七三三	一	一
	咸北	二二七	五、四四四	三	二、二六四	五、五五九	一	一	三	四、四九一	一	一
合計	一一三五	八、〇四五	六	五、五二四	一九、〇二〇	一四、四二二	二	二	六	六、二二四	二	二
大正十年	平北	一、一七五	二、一七五	一	一、一七五	一、一七五	一	一	一	一、一七五	一	一
	咸北	一、一七五	一、一七五	一	一、一七五	一、一七五	一	一	一	一、一七五	一	一
合計	二、三五〇	三、三五〇	二	二、三五〇	二、三五〇	二、三五〇	二	二	二	二、三五〇	二	二
大正十一年	平北	一、一七五	一、一七五	一	一、一七五	一、一七五	一	一	一	一、一七五	一	一
	咸北	一、一七五	一、一七五	一	一、一七五	一、一七五	一	一	一	一、一七五	一	一
合計	二、三五〇	二、三五〇	二	二、三五〇	二、三五〇	二、三五〇	二	二	二	二、三五〇	二	二







- (ニ) 江岸樞要地點には所々に塹壕を掘鑿し或は掩壕を設け或は渡航地點を制限指定して匪賊の侵入を監視しつゝあり。
- (ホ) 警備電話を江岸駐在所出張所の大部分に架設す。
- (ヘ) 武器は三八式騎銃を一人に對し一挺外に拳銃を三人に對し約二挺の割合を以て配備せり、劍は國境警備勤務に従事する者には短劍を佩せしむ。
- (ト) 被服 服裝は一般給與の被服の外冬期には茶褐毛布地毛皮付の防寒外套及毛皮付の防寒胴着、防寒帽、防寒シャツ、防寒袴下、防寒手袋、防寒覆面を貸與して防寒の設備を完全にし更に時期に拘らず捜査討伐用として茶褐衣袴、茶褐又は草色の外被を貸與せり。

國境警察機關

(昭和元年十二月末日現在)

道別	署別	種別	署所數	警部		警部補		巡査		計	
				内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人
平北	本署	本署	一三					二二〇	五	二二五	一〇四
		派出所	七				一〇	一六	二六	二二	一〇六
		駐在所	六				七	一六	二二	二〇	一〇八
		出張所	六				三	七	一〇	一〇	五
合計			二六				三三	四八	五八	一三六	二二二
成南	本署	本署	四					二五	五	三〇	一四
		派出所	四				七	一五	二二	二〇	一〇
		駐在所	二				一〇	一七	二七	二六	一七
		出張所	二				三	七	一〇	一〇	五
合計			一二				二〇	四八	六二	二六	一六
成北	本署	本署	二					一三	二	一五	八
		派出所	一				二	七	八	二	二
		駐在所	一				三	二	五	二	二
		出張所	一				一	二	三	二	二
合計			五				六	二二	二二	一六	二
合計			六				三	三九	三五	四三	二九

四 警察官の服務狀況

國境に配置の警察官は主として匪賊に對する警戒防備に當るものなるを以て元氣潑刺たる壯年者を以て配置し従つて軍籍にあるもの比較的多數を占む而して平素の勤務は晝夜の別なく寧ろ夜間の活動に重きを置き全く不眠不休の努力を以てせり匪賊は我が官憲に遭遇せむか直に發砲するのみならず常に我が警備線を覬覦するを以て寸刻の油斷を許さず故に警察官は就寢に際しても不時に備ふる爲武装の儘銃器を枕に假眠するに過ぎざる状態にして全く休養安息するの暇なき狀況なり。



日常の勤務は江岸巡察、要地の張込、検問所に於ける見張、遊動捜査、一齊戸口調査、其の他一般警察事務を執行するの外税關事務、執達吏事務、專賣事務、林野保護取締、郵便護衛等殆ど枚擧に遑なき特殊の勤務に當り規程に依る時間勤務の如きは到底爲し能はず従つて休日如きは絶無なりと言ふも過言にあらず、勤務に際しては其の種別を問はず又制服私服の別なく必ず銃器を携帯せしめ制服の場合は必ず巻脚絆を着用せしむ其の巡察の如き或は山岳重疊又は斷崖絶壁の地を晝夜を分たす巡行するものなるか殊に匪賊の捜査及逮捕に當りては晝尙ほ暗き密林地帯に分け入り又は積雪の爲通路さへ判明せざる山中を辿り或は粟を食みて野に臥し峻坂幽谷を歩き時追跡數旬に亘ることある等其の劇烈なる勤務状態は恰も戦時に相譲らず其の辛酸勞苦具に名狀すべからざるものあり。

國境一帯は概ね僻遠地にして交通不便なる爲物資に乏しく甚しきは白米を小包郵便にて取寄せる状態にして時に缺乏し不測の苦を嘗むる事例少からず、而も凜烈なる寒威と戦ひ其の間何等慰安の途なく荒寥たる生活を爲し殊に醫療機關に乏しき爲一旦病魔に冒されむか數里若くは數十里を隔つる警察署所在地に到り治療を受け又は醫師を迎へざる可からず故に不慮の災害に當り急遽治療を加ふるか如きは望むべからざる場合多き關係等より止むなく家族と別居し又は獨身生活を繼續するもの少からず斯の如く生活上種々の困苦相伴ふは實に同情に餘りあり。

然れども警察官は孰れも身體壯健にして志氣旺盛其の行動勇敢機敏能く規律節制を守り困苦缺乏に

耐へ職責を重し一意國家の爲に奉仕せり、從て其の家族あるものは妻子に至る迄志氣緊張し常に射撃の演習を爲し非常事に衝りては夫と共に拳銃を執りて交戦し又は通報連絡の任に當る等實に惰夫をして起たしむるの概あり。以上の外國境地方に於ける警察官は警察本務の傍地方民の爲に各種の指導誘掖に努力し或は不就學兒童の爲夜學校を興し或は道路を改修し或は貧民を救済する等其の事例は寧ろ國境地方の警察官に於て其の多きを見る状態なり。

國境警察官に對する給與の狀況 (昭和元年末現在)

官内職別	官内職種別	本俸		加俸(本俸の六割)		加給(本俸の二割)		臨時特別手當		計
		一級	二級	一級	二級	一級	二級	一級	二級	
警部	内地人	70	70	42	42	14	14	18	18	144
	朝鮮人	70	70	42	42	14	14	18	18	144
警部補	内地人	50	50	30	30	10	10	15	15	105
	朝鮮人	50	50	30	30	10	10	15	15	105
巡查	内地人	40	40	24	24	8	8	12	12	84
	朝鮮人	40	40	24	24	8	8	12	12	84
合計		270	270	168	168	56	56	84	84	1,812

備考 一、本俸は國境勤務者と通常勤務者(國境以外の勤務者の意)との比較對照上假定したるものとす



- 二、加給は普通加俸の外邊陲地に在勤する者に支給す
- 三、臨時特別手當は陸接國境地方に在勤する者に支給す
- 四、道警視の加俸は本俸の十分の四(四割)にして國境在勤者には加俸の外本俸の十分の一の加給あり臨時手當なし

## 第十八章 在外鮮人の狀況

### 一 分布の狀況

帝國外に在住する朝鮮人の數は確實に之を知る能はざるも情報其他に依り調査するに其の大部分は滿洲及西伯利に在住し其他は主として支那本部各地(主として上海)、北米各地、布哇及墨西哥地方に分布し、之を總括するも全數の約百分の二を出てす、滿洲及西伯利在住者は概して農業者にして北米及布哇、墨西哥地方の在住者の多くは往年(東洋移民自由時代に)勞働者として移住又は轉航したる者及其の子孫なり。

### 二 移住の沿革

朝鮮人は由來生活に容易なる地を求めて轉々する習癖あり其の海外移住は往々政治的失意者若は不平より出てたるものなきに非すと雖其の大部分は専ら生活上の必要に因由せるものなり、殊に露領沿

海州及滿洲間島地方は朝鮮と接壤せるのみならず、膏腴未墾の地多きか故に是等地方に於ける朝鮮人の移住は其の沿革最も古く其の農業の有利なるを聞き先着移入者の跡を追ふて是等地方に移住せんとする者今尙少からず、就中豆滿江の對岸なる北間島方面の移住は數百年前に淵源し其の集團最も濃密にして現在數約四十萬人に及び朝鮮人の在住者常に土着支那人に數倍せり、而して此の地方の農業は朝鮮人の獨占と云ふも過言に非ざる狀況にあり。

### 三 最近の狀況

輒近に於ける朝鮮人の滿洲移住は物價騰貴に依る生活難に基因するもの多く、毎年外國に渡航する者の大半は實に滿洲に移住して生計の途を講せむとするものなり、是等の移住民中には往々不良者混入し特に大正八年以來朝鮮の獨立を唱へて良民を煽動脅迫し、或は浦鹽上海方面の獨立運動者と氣脈を通して妄動を爲すものあり、而も我が警察權の及はざる外國領土内に在るを奇貨とし所在跳梁して良民を困惑せしめ、甚しきに至りては隊伍を組み武器を携へ平安北道、咸鏡南北道の國境を越えて侵入し警備機關を襲ひ人畜を殺傷し家屋を毀ち財貨を奪ひ、良民を拉去し、官公吏を暗殺せんと企つる等暴虐を敢てしたるか、偶大正九年九、十月の交是等不良者は支那馬賊及過激派露人の一部と團合し其の總員四百名の一團突如琿春に襲來して我が領事館及在留邦人の家屋を燒毀し財物を掠奪し、内鮮



人及支那人の之に殺傷せらるゝ者數十名に上るの慘劇を演じたるのみならず、之を動機として北間島各地の不逞鮮人團は頻に妄動を開始し内地人及朝鮮良民の脅威尠からざるを以て我國は遂に一時軍隊を出動せしめ是等賊團を掃蕩し之を北方に驅逐したるか當時賊徒の歸順する者五千餘名に上り間島各地の秩序全く回復したり、爾來北境方面は漸次平穩に歸したりと雖、西間島地方の鮮人鼠賊は時に我平安北道境内に侵入し金員を強奪し人命を害ふ等兇行を爲すを以て内は國境地帯に於ける警備を充實し外は支那側の誠意ある取締を要求したる結果、大正十四年秋期以來不逞者の侵入回数激減し大正十五年に至りては殆んど平靜の状態となり更に昭和二年三月末迄は未だ一回の侵入なく民心漸く安堵の狀あり、然れ共同地方面には正義府、參議部等の鮮匪團ありて今尙蠢動しつゝあるを以て引續き警戒を嚴施すると共に之か對策を講しつゝあり。

西伯利、浦潮、上海、布哇、米國等に於ける在住朝鮮人の中には併合前後自己の失意又は政治的不平を懷きて遁竄せし者も尠からず、此等の徒輩は獨立資金と稱して良民より金品を強奪し之を以て自己生活の資料に供するを常とし最近一般朝鮮人の自覺と共に今や其の甘言に惑はざるゝ者なく、彼等亦漸く其の空想より覺めて實力養成の急務を説く者あるに至れり、大正八年春彼等は上海に於て所謂假政府を組織したるか、其の後間も無く彼等の間に於ける軋轢と資金の缺乏とに因り屢々自滅の姿となり、次て同十年華府會議を機とし其の頹勢を挽回すべく企畫する所ありしも之亦水泡に歸したるよ

り局面轉回の方策として同十二年一月以降國民代表會を開催したるか黨争依然として熾烈を極め統一毫も行はれず、六月に至り遂に決裂し爾來假政所は有名無實の狀態となり、大正十三年夏季に至りて大統領李承晩の曠職問題、臨時憲法改正問題等幾多の難關に遭遇し、更らに帝國總領事館の閔廷植奪還に成功するや閣員の引責辭職となり同年十二月組織に係る後繼内閣は所謂西鮮派に屬するを以て畿湖派の元兇大統領李承晩に對し事毎に反抗の態度を執り、大正十四年三月に入りて遂に李承晩の免職及憲法の改正を斷行し、國務總理朴殷植大統領に昇格したるか同年七月臨時憲法の施行期に於て辭職し、後任者として元西路軍政署總裁李相龍なる者選舉せられたるも黨争の爲め未だ閣員の選定を爲すに至らずして北京に走り其の職責を放棄したるを以て議政院は梁起鐸を其の後任に推薦したるも同人は就職を肯せざるに依り、更に大正十五年五月安昌浩を選定したるも就職に至らず同年七月元法務總長たりし洪鎮就任したるか之亦永續せず同年十二月金九之に代り局面展開の爲め再び憲法を改正し大同團結を唱道しつゝあるも目下の處實現甚だ困難の狀態にあり。

豫て世人の注目を惹きたる義烈團は大正十三年四月同志間の内訌に依り團員離散し、別に青年同盟會を組織したるより同團の氣勢頓に沈衰し一時は其の存在を疑はれたるも最近支那國民軍の勢力増大に伴ひ同團亦廣東方面に根據して異名同體の革命青年會を組織し團勢の挽回に努めつゝありと云ふ、又日本官憲のすへての施設を破壊するの目的を以て大正十五年一月組織したる丙寅義勇隊は二月以來



親日朝鮮人を殺害し或は總領事館に爆弾を投し、警察官の暗殺を企つ等兇暴を敢てし、更に六月には李王殿下國葬時に際し鮮内に騷擾を惹起せしむるの目的を以て李英善外三名をして爆弾拳銃を携帯せしめて派遣したるか偶船中に於て發見檢舉せられ其の後九月には再び同地總領事館裏門に於て爆弾を炸裂せしめたる事件あり一時多大の脅威を感せしめたるか、其の後義烈團の復活と共に稍其の鋒芒を收めたるの觀あるも尙注意を要する團體なりとす。

而して露領に在りては大正十一年十月勞農政權下に統一せらるゝ所となりてより不良鮮人等は獨立の目的を達せむか爲進んで共產主義に共鳴し巧に露國共產黨の援助を得て不良計畫を企て上海、滿洲地方の不良者と聯絡して日本内地及朝鮮に對して共產主義の宣傳を行はむとする傾向ありたるも大正十四年一月日露協定成立以來其の取締嚴重となりたるを以て彼等は共產主義に依るの外同國內に潜在の餘地なく隨つて露領内に於ける獨立運動は表面之を行ふ能はざるに至れり。

以上の如く民族運動の衰退に伴ひ一方社會主義運動は深刻味を加へ滿洲に於ける南北青年總同盟及韓族勞働黨、間島に於ける東滿青年總同盟を基幹として諸種の團體は雨後の筍の如く簇生し加ふるに上海及北京方面に於ては公然團體名を標榜せずと雖隱然として勞農官憲と聯絡し一方朝鮮内に於ける思想團體と相呼應し主義の宣傳、機關の密設に努め特に最近民族運動と社會主義運動とは互に相提携して所期の目的を達せんとするの傾向を生し國外各地に於て唱道せられつゝある大同團結の如きは全

く右提携運動を基調とするものにして之か趨勢に對しては深甚の注意を要するものと思料せらる。殊に此等在外各種の團體は多く機關紙を發行して國外に於ける朝鮮人間に宣傳すると共に鮮内に對しても密送しつゝあるが近來此の種不穩印刷物は一層増加の傾向あるを以て國外往來者に對する査察、不穩出版物並通信の檢索に努め鮮内各思想團體に對する取締と相俟ちて外來惡思想の防止禁遏に努力しつゝあり。

國外移住朝鮮人調

(昭和元年十二月末現在)

年次	道名		京畿	忠北	忠南	全北	全南	慶北	慶南	黄海	平南	平北	江原	咸南	咸北	計
	北	西														
自明治四十三年九月至大正五年十二月	北	西	1,611	3,000	2,000	2	9	2,099	2,698	3,377	4,088	1,532	633	3,510	1,100	47,164
	其他	計	2,533	3,077	2,000	1	18,709	4,556	3,377	9,500	2,375	2,199	1,285	9,137	4,110	42,000
大正六年	北	西	1,031	1,031	1	1	280	787	194	674	5,492	1,455	1,610	9,259	18,921	
	其他	計	1,031	1,031	1	1	280	787	194	674	5,492	1,455	1,610	9,259	18,921	



計	大正十五年 (昭和元年)			大正十四年			大正十三年			大正十二年		
	其他	西	北	其他	西	北	其他	西	北	其他	西	北
六、九四三	二、一八七	五七	四、二八八	一、九八九	六五〇	三三	一、八三	二二	三九	三三	三	三三
二、〇四一	三〇	五八二	一、〇九〇	一〇七	八	六	六〇	五	五二	五	二	五
七〇	三三	三	一六五	七	八	一	六	六	一	七	六	一
五三	四三	四	二六	三	〇	一	〇	〇	一	五	五	一
一、〇八三	六九	四〇	三三	一八	三	一	一〇	三	七	六	一	三
八、八二二	二、三三	四〇	二、〇九	五	四	二	三	二	四	三	〇	七
三、〇一〇	一、〇六	七〇	一、八七	九	六	二	三	二	三	七	三	八
一〇、一三	二、〇	一七九	六、二	二	三	一	四	四	五	一	七	二
四、八	一三七	三	一、八	八	二	二	九	二	二	一	五	二
九三	三三七	二〇	七五	四	八	一	二	九	七	一	一	二
二〇	一六	四	一、七	七	三	三	九	七	七	三	〇	五
一、一〇	一六	四	二、〇	三	八	八	二	二	三	二	二	三
一、五九	八七	四	九	六	一	一	八	一	九	一	一	二
四、〇	八六	二	三、八	二	四	六	二	二	八	三	三	四
一〇、〇	三、二	一	二、一	九	七	五	九	六	〇	七	五	〇

計	大正十一年			大正十年			大正九年			大正八年			大正七年		
	其他	西	北	其他	西	北	其他	西	北	其他	西	北	其他	西	北
六、九四三	三三	一	三〇	四九	二四	二	一七	一	二	一六	一	二	二八	二	六
四	三	一	八	六	一	二	〇	六	七	四	一	二	九	七	三
八	三	一	三	二	八	二	三	一	七	二	一	三	一	三	一
二八	五	一	三	二	一	四	〇	〇	一	七	四	二	六	四	二
五九	六	一	三	一	八	二	三	一	六	七	五	一	一	四	一
一、〇三	三三	六〇	三三	三三	三	三	七	三	二	九	九	〇	五	八	〇
三〇	一五	二〇	四	二	七	三	一	二	二	三	八	一	三	二	八
四	一三七	三	二〇	一六	三	二	二	三	七	一	二	一	一	一	三
九三	三三七	二〇	五九	六	二	六	二	八	一	二	二	一	二	二	四
二〇	一六	四	一、七	七	三	三	九	七	七	一	一	一	六	六	〇
一、一〇	一六	四	二、〇	三	八	八	二	二	三	二	二	二	二	二	三
一、五九	八七	四	九	六	一	一	八	一	九	一	一	一	八	八	〇
四、〇	八六	二	三、八	二	四	六	二	二	二	二	二	二	二	二	三
一〇、〇	三、二	一	二、一	九	七	五	九	六	〇	七	五	〇	九	六	〇



考		備										
一、本表中北〔は北間島〕西〔は西間島〕其他〔は西北間島以外の地を示す〕												
一、移住後鮮内に歸還したる者左表の如し但し大正元年以前を省く												
大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	大正十五年	大正十六年	大正十七年	大正十八年
六、一六九	五、五七六	四、二四二	二、〇二五	八、二〇八	七、六三〇	六、八四四	六、七五五	七、二七七	九、〇二九	七、一六四	七、一六四	九、五九四
											合	計
											大正十五年	大正元年
											(昭和元年)	以來累計

### 第十九章 保安狀況

#### 一 労働爭議

朝鮮に於ける労働爭議は大正元年より同六年迄六箇年間に於ては通計三十六件にして一箇年平均六件に過ぎざる状態なりしか大正七年以降俄然擡頭し大正八年同九年には一躍八十件臺に上り將に労働運動史上に一新紀元を劃したり。蓋し是れ世界大戰の當時及戰後に於ける内地事業界空前の殷盛は異常なる物價の昂騰を招來し次て其の反動景況來るや國民生活の不安は愈深刻の度を加へつゝ來りたると一面世界的に瀰漫したる「デモクラシー」より更に社會主義的時代思想の浸透を蒙り内地に於ける労働爭議の頻發に伴ひ労働運動の漸次有利なる解決を見るに臻りて一部野心家又は浮浪者の煽動使徒に依り比較的低率なりし労働賃銀と生活困難を好餌として半は模倣的に流行的に決行せらるゝに臻りたるものなり。然れども産業の發達未だ幼稚なる朝鮮に在りては固より其の内容も亦内地の夫れと趣

を異にし多くは諸人夫、仲仕及粗摺工場人夫其他雜工場職工の類大部分を占め其の業體も殆ど營利事業方面に限られ、物價騰貴に基く生活難を原因とせる小規模なる爭議にして勞資の關係未だ内地のそれの如く切迫したるものにあらざるなり、而して大正十年に至り財界の不況及事業主の溫情的施設改善により其の數著しく減少し而も爭議の内容たるや寧ろ消極的にして賃金値下反對等多く且つ其の結果も結局罷業者の要求撤回に終りたるもの多し。

然れども労働問題の高唱さるゝにつれ労働團體の發達機運の促進は今や世界の大勢にして隨つて比較的無事なりし朝鮮に於ける該運動も漸く組織的となり思想界の動搖と相俟つて階級的反目觀念漸次昂調し來れるものあるは到底否むへからざる状態にして最も注意を要する現象なりとす。

之を要するに罷業の原因は待遇問題特に賃銀の協定に在るか朝鮮に於ける特異性とも認むべきは其の參加人員は内鮮支三民族より成れる爲、反面より見れば時として民族的感情の齟齬に胚胎せる場合ありとも認めらる、即ち事實は内地人及支那人労働者は朝鮮人労働者よりも優遇せらるゝ向多く、爲に之れに對し朝鮮人労働者より待遇改善か唱へられ又罷業の企に出つること尠からざるなり。而して斯る民族的關係の絡まる朝鮮労働問題の將來に就きては相當考慮を要するもの有りと謂ふへし。

#### 同盟罷業

(昭和元年十二月末現在)



道名	年次		大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	大正十五年 (昭和元年)	計
	件数	人員							
京畿道	72	11	72	55	20	19	23	18	187
忠清北道	11	11	11	11	11	11	11	11	90
忠清南道	152	11	152	11	11	11	11	11	188
全羅北道	51	11	51	11	11	11	11	11	125
全羅南道	201	11	201	11	11	11	11	11	246
慶尙北道	24	11	24	11	11	11	11	11	117
慶尙南道	109	11	109	11	11	11	11	11	127
黄海道	51	11	51	11	11	11	11	11	116
平安南道	101	11	101	11	11	11	11	11	123
平安北道	30	11	30	11	11	11	11	11	110
江原道	11	11	11	11	11	11	11	11	115
總計	1,097	11	1,097	11	11	11	11	11	1,268

道名	年次		大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	大正十五年 (昭和元年)	計
	件数	人員							
咸鏡南道	100	11	100	11	11	11	11	11	122
咸鏡北道	23	11	23	11	11	11	11	11	117
總計	123	11	123	11	11	11	11	11	139

二 小作争議

朝鮮に於ける小作慣行、小作制度は不備不條理の點多き爲、小作生産の五割以上は地主の收得となり、加之小作地の地稅公課等も小作人側に於て負擔するもの多く且小作年限にも何等の保障なき爲、小作地は地主又は土地管理人たる含音又は農監の爲に任意に處分せられ小作人の不安窮乏甚しきものあり、然れども土地を中心として久しきに亘る地主對小作人間の關係は傳統的に情誼厚きものありて小作争議の如き不祥の紛争は其の數極めて少く大正十一年迄は毎年全鮮を通して三十八件に満たざりしか歐洲大戰後經濟界の動搖に伴ひ内地各地に於て農村争議頻發するや遽に各種小作團體の簇生を見るに至りて鬭争的雰圍氣を醸成し大正十二年には百七十六件を數へ此の參加人員九千六十人を算し、同十三年には百六十四件六千九百二十九人となり、同十四年には十一件二千六百四十六人に激減し、同十五年には十六件二千五十三人となれり。



右の如く大正十四年の減少を見たるは大正十三年夏季の旱害及大正十四年七、八月の大水害に當り當局は鋭意救済施設を爲し、地主亦小作料を減免して同情的態度に出たると一面社會運動者等は農民の人心を收攬し將來の運動に資せむ目的を以て争議を煽動するか如き行動に出てす同情金の募集救済に當りたる外治安維持法の施行に依り妄動を差控へたるに依るものにして要之朝鮮に於ける小作争議は未だ深刻化せりと云ひ難きも住民の分割は農民にして未だ農業經濟時代を脱せざる現下の状態に於ては之か成行につきては深甚の注意を要すると共に一方出來得る限り舊來の陋習を矯正し分配の公平を期せしむるの要あり、殊に近時内地人地主數の増加に伴ひ内地人地主に對する争議は民族的反感等の加はるありて事態を紛叫せしむる虞あり特に之か豫防制遏に留意を要するものあり。

最近基督教は教勢擴張の手段として多額の費用を投して農村の振興農民の教養に手を染め、又天道教に於ても同様の事業に着手せるのみならず、思想團體たる朝鮮勞農總同盟にありても朝鮮農民總同盟の創立を計畫しつゝあり。斯の如き状態にあるを以て今後に於ける農村問題は是等外部の刺戟と農民の自覺とに依り朝鮮に於ける重大問題たるに至るべく將來一層の注意を要するものあり。

小作争議

(昭和元年十二月末現在)

道名	年	件數及人員	次
道名	大正十年		
	大正十一年		
	大正十二年		
	大正十三年		
	大正十四年		
	大正十五年		
	計		

道名	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	大正十五年	計
京畿道	52	52	33	151	31	569	569
忠清北道	11	11	10	9	11	48	48
忠清南道	2	2	2	2	2	10	10
全羅北道	2	2	2	2	2	10	10
全羅南道	2	2	2	2	2	10	10
慶尙北道	14	14	14	14	14	70	70
慶尙南道	23	23	23	23	23	115	115
黃海道	3	3	3	3	3	15	15
平安南道	3	3	3	3	3	15	15
平安北道	3	3	3	3	3	15	15
江原道	9	9	9	9	9	45	45
咸鏡南道	3	3	3	3	3	15	15
咸鏡北道	3	3	3	3	3	15	15
計	111	111	111	111	111	555	555



總計	人員數	二、六七	二、三五	九、〇〇〇	六、九元	二、六四六	二、〇〇〇	二、六一九
----	-----	------	------	-------	------	-------	-------	-------

### 三 衡平運動

朝鮮には古來白丁と稱する賤民階級あり、之れか沿革として正史に據るべきものなきも、水草を逐ひて毗獵を事とせる韃靼族の大陸中部より南下移住し來りたるもの、子孫なりとの説を爲すものあり、其の名稱は既に高麗時代より稱へられしと謂ふ。白丁は居を都邑の外圍に設けて其の職とせる所は普通民の忌みて爲さるる屠殺、獸肉販賣、柳器製造等の所謂賤業に従事し、一般社會よりは常に非人道的待遇を以てせられ、苟くも曾て人格を認められず屈辱の筈下に永き忍従の歩みを續け來れる悶むべき同胞なりしか、李朝末世殊に日韓併合後法令上常民と淪るなき平等の權利義務を認めらるゝに至り一般社會も時勢の進運に伴ひ舊き因習の殻を脱して謬想に目覺めつゝありと雖も傳統の久しき未だ直に一視同仁視するに至らず、而して白丁も亦強ひて之を求めさりしか大正十二年内地に於ける水平運動に刺戟され同年四月慶尙南道晋州に白丁の解放運動を目的とする衡平社を組織したり、而して創立以來階級打破、侮蔑的稱呼の廢止を高唱して一般民の反感的沮止運動の中に處して銳意支社分社の機關設置に全力を傾倒し先づ三南地方より漸次中央部に擴大し來れり。

然るに屠殺、獸肉販賣、野犬撲殺等の業は自らの矜を傷つける所なりとし之か廢止を唱へて一般民に對して示威的態度を見せ、更に過去の虐待に對する多年の反感を露はに表示して態度遽に硬化し、動もすれば徒に事を構へて普通民に拮抗する者ありて普通民の反感を誘致するに臻り遂に相互間に紛争を惹起せしめ、而して一度紛争を生せむか本社、支社、分社に飛徹して來援を求め多數の力を藉りて事を決せんとし事態を更に紛糾せしめつゝありしか、資金の缺乏と共に幹部間に軋轢を醸し一氣呵成的の進展を見せたる該運動も大正十三年に入り南北に分裂して一頓挫を來し、爲に特に認むべき運動も起らざりしか大正十四年四月此の内訌治まり相互に氷解するの機を得、再び南北の統一を見るに臻りて之か運動を持續する事となりしも、茲に注意すべき現象は統一後の勢力擴張の方策として從來標榜し來れる穩健主義を捨て、新に思想團體と提携して相圖らむとする徴を呈し來れる一事なり、即ち資性慍悍にして團結性に富む白丁を運動第一線の闘士に起用すべく從來屢々各種思想團體の會合に於て衡平社に對する援助を決議し、衡平社を運動の渦中に誘引せむと計りたるも當初衡平社幹部に於ては思想團體との提携は當局の注意を惹くのみならず。衡平運動のみに對しても好感を持たざる一般社會に更に悪影響を及ぼすの結果を招致し、却つて運動の進行を沮害する所となるへしとの意向にて提携の機運に臻らざりしか、大正十四年四月京城に於て開催の筈なりし全鮮民衆運動大會（事前に會合を禁止す）に衡平社の名に於て加盟し、茲に兩者間の提携を觀るに臻れり、爾來衡平社の態



度は漸く悪化の傾向を示し、是か會合には左傾分子の参加を見ざることもなく將來の成行は大いに注目すべきものあり。

尙衡平運動開始以來の紛争事件は大正十二年二十七件、同十三年十件、同十四年（九月末日迄）十件にして大正十二年中は衡平運動創始の初年なりしを以て一般の理解も少なく紛争事件も多かりしか同十三年は衡平社内部の紛擾に由り積極的運動に出づる機會無かりしと一面幹部に於て前年の如く徒に事を構へて普通民に挑戦的態度を執ることの不利を覺りたる結果著しく減少したるも、同十四年には内部の紛争解決したるのみならず思想團體との提携なりて勢力を伸暢せるを以て積極的に運動方針を樹つることを得たる結果前年に比し幾何の増加を見せたるものと解すべし。

#### 四 集會結社取締

集會結社に對しては光武十一年法律第九號保安法に依り一般的に取締つゝありたるか、獨り京城に在りては明治四十三年勅令第百三號集會取締に關する件に依り政治的集會は内鮮外人の別なく之を禁止せり、而して從來は集會結社に對し著しく制限し來りたるも大正八年制度改正後此の制度を大いに緩和し秩序公安を妨害せざる限り其の自由を認容すると共に政治的集會を禁止する從來の規程を廢し文化的取締方針を採りたり、隨て爾來各種團體結社の組織年々簇生し最近に於て其の現在數五

千有餘に達し、政治的結社の如きも現に數種を存するに至れり。

#### 五 新聞雜誌取締

從來朝鮮に於ては新聞紙の發行は著しく之を制限し殊に朝鮮人の發行するものは殆んど之を認めざる方針なりしも、斯の如きは民意の伸暢上遺憾尠なからざるのみならず、時代の趨勢は長く此の消極的方針を許さざるを以て大正八年制度改正以降徐々に言論に對する態度を緩和し、從來朝鮮人發行の新聞紙としては日刊毎日申報、月刊天道教會月報、中外醫藥申報の三種（天道教會月報及び中外醫藥申報は政治記事を掲載せず）のみなりしか大正九年中に於て日刊新聞朝鮮日報、東亞日報、時事新聞（時事新聞は時事評論と改題し現月刊雜誌となる）月刊雜誌開闢を許可し爾後逐次許可したるものを合し目下朝鮮人發行の新聞紙は十二種の多きに達せり、而して又内地人發行の新聞紙に至りても大正八年以降發行の認可を與へたるものは新聞雜誌を合して二十四種にて現在に於ては新聞紙三十種、通信八種、雜誌十一種に達し其の他外國人に發行を認可せるもの一種あり、當局は新聞紙の發行に關し其の分布狀況、發行經營の内容其の他諸般の事情を考究し内鮮人の區別なく一様に之か發行を認め以て朝鮮文化の向上に資し併せて民心の緩和に努めしむるの方針を執りつゝあり。



度は漸く悪化の傾向を示し、是か會合には左傾分子の参加を見ることがなく將來の成行は大いに注目すべきものあり。

尙衡平運動開始以來の紛争事件は大正十二年二十七件、同十三年十件、同十四年（九月末日迄）十四件にして大正十二年中は衡平運動創始の初年なりしを以て一般の理解も少なく紛争事件も多かりしか同十三年は衡平社内部の紛擾に由り積極的運動に出づる機會無かりしと一面幹部に於て前年の如く徒に事を構へて普通民に挑戦的態度を執ることの不利を覺りたる結果著しく減少したるも、同十四年には内部の紛争解決したるのみならず思想團體との提携なりて勢力を伸暢せるを以て積極的に運動方針を樹つることを得たる結果前年に比し幾何の増加を見せたるものと解すべし。

#### 四 集會結社取締

集會結社に對しては光武二年（一九一一年）津第九號保安法に依り一般的に取締つゝありたるか、獨り京城に在りては明治四十二年（一九〇九年）勅令第三號集會取締に關する件に依り政治的集會は内鮮外人の別なく之を禁止せり、而して從來は集會結社に對し著しく制限し來りたるも大正八年制度改正後此の制度を大いに緩和し秩序公安を妨害せざる限り其の自由を認容すると共に政治的集會を禁止する從來の規程を廢し文化的取締方針を探りたり、隨て爾來各種團體結社の組織年々簇生し最近に於て其の現在數五

千有餘に達し、政治的結社の如きも現に數種を存するに至れり。

#### 五 新聞雜誌取締

從來朝鮮に於ては新聞紙の發行は著しく之を制限し殊に朝鮮人の發行するものは殆んど之を認めざる方針なりしも、斯の如きは民意の伸暢上遺憾尠なからざるのみならず、時代の趨勢は長く此の消極的方針を許さざるを以て大正八年制度改正以降徐々に言論に對する態度を緩和し、從來朝鮮人發行の新聞紙としては日刊毎日申報、月刊天道教會月報、中外醫藥申報の三種（天道教會月報及び中外醫藥申報は政治記事を掲載せず）のみなりしか大正九年中に於て日刊新聞朝鮮日報、東亞日報、時事新聞（時事新聞は時事評論と改題し現月刊雜誌となる）月刊雜誌開闢を許可し爾後逐次許可したるものを合し目下朝鮮人發行の新聞紙は十二種の多きに達せり、而して又内地人發行の新聞紙に至りても大正八年以降發行の認可を與へたるものは新聞雜誌を合して二十四種にて現在に於ては新聞紙三十種、通信八種、雜誌十一種に達し其の他外國人に發行を認可せるもの一種あり、當局は新聞紙の發行に關し其の分布狀況、發行經營の内容其の他諸般の事情を考究し内鮮人の區別なく一様に之か發行を認め以て朝鮮文化の向上に資し併せて民心の緩和に努めしむるの方針を執りつゝあり。



新聞紙出版物の取締に就ては統監府令に依る新聞紙規則及出版規則（内地人のみに適用せらる）並  
 舊韓國法律に依る新聞紙法及出版法（朝鮮人のみに適用せらる）ありて、目下之により取締つゝある  
 も内鮮人間に法の適用を異にし取締上不便なるのみならず、其の規定する處の事項亦世運の進歩に適  
 應せざるものあり、制度改正以來之か運用に關しては適當なる手心を加へつゝありと雖施行上不便不  
 備の點尠からざるを以て近く朝鮮出版物令を制定公布し以て時勢の要求に應ずる處あらむとす。

朝鮮内發行出版物

年 別	邦 文		出 版 物		邦 文		出 版 物		計	總 計
	内地人發行	朝鮮人發行	内地人發行	朝鮮人發行	内地人發行	朝鮮人發行	内地人發行	朝鮮人發行		
大正十年	六七	三〇九	—	九	三三	四三	三三	三三	九六	一、八九二
大正十一年	八三	一七三	—	五七	三三	六〇	三三	三三	一、一三五	二、二九
大正十二年	八五	三五四	—	六	四	九二	四〇	一〇	一、四二	二、六八
大正十三年	二、六七	五七〇	—	三	三	三三	七二	一八	一、六〇	四、八八
大正十四年	四、〇六	四七	—	一八	五	八二	一〇七	一六	一、四四	六、九〇
大正十五年	五、四〇	五七	—	一	二六	三三	一、一七〇	三三	二、七三	八、六三
昭和元年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

六 活動寫眞「フィルム」檢閲

従來朝鮮に於ける活動寫眞の檢閲取締は各道に於て興行として取締を爲し「フィルム」檢閲に就ては  
 何等規定なかりし處大正十三年九月「フィルム」檢閲を京畿道、慶尙南道及平安北道の三道に於て行ひ  
 其の效力は全鮮に及ぶことの規定を設け實施し來りたり、然るに此の檢閲は實際問題として各道の檢  
 閲往々所見を異にし取締區々に亘り不統一の嫌ひあるのみならず被檢閲者の不利不便も亦尠からざる  
 ものありしを以て、地方檢閲制度を改めて本府に統一して檢閲を行ふ必要を認め大正十五年七月五日  
 朝鮮總督府令第五十九號を以て同年八月一日より本府に於て檢閲施行の旨發布せられ、檢閲従事職員  
 として事務官一名、屬三名、技手一名、雇員四名の配置を見八月一日より檢閲を開始せり。

檢閲開始後昭和二年三月三十一日に至る八月間の實績は申請件數千六百五十六件、檢閲卷數六千二  
 百八十四卷、米數百五十五萬二千四百五十米、手数料二萬二千六十二圓九十三錢にして内手数料免除  
 の分は件數五百二十一件、卷數九百十四卷、米數二十萬二千九百七米なり而して拒否制限は、拒否に  
 在りては一件二卷五百三十七米手数料八圓九十五錢、制限に在りては切除個所五百八十九個所此の延  
 米數千九百五米九十一なり。







### 一 銃砲火藥類取締

銃砲火藥類の取締に關しては大正元年制令第三號銃砲火藥類取締令の發布と同時に同年府令第二十五號を以て同施行細則を制定し嚴重なる取締を勵行し來れるも大正八年制度改正に伴ひ自然之か改正を要するものあり、且時勢の推移と取扱乃至取締上の便宜に鑑み從來複雑なる法規の統一整理を要するものあるを認め爾來之か改正を企圖し攻究研鑽を遂げ大正十四年八月二十八日府令第四十六號を以て銃砲火藥類取締令施行規則を發布し次て關係法規を整理し十月一日より之を實施せり、蓋し朝鮮に於ける銃砲火藥類取締に關しては保安上最も嚴密なる取締を要するものあるを以て、此の種物件の授受運搬、使用及貯藏等に對しては鐵道運輸規程及火藥類船舶輸送及貯藏規則並開港取締規則改正と相俟て一層周到なる取締の勵行を期せり。

火藥類に關する犯罪は主として南鮮地方に於ける不正漁業に使用する爆藥類の密輸入及密賣買等多數を占め事局に關係したる事犯なきも過激奇矯の思想を抱持する所謂不逞徒輩にして巧に拳銃、爆彈を携帶潛入するものなきにあらす、或は強盜其の他の不正行爲に使用若くは供給の目的を以て銃器彈藥を窃取せむとするものあり、又鮮内及内地方面より鮮地經由滿洲方面に兵器彈藥の密輸出を企圖する者、殊に支那動亂に際しては之に乘し事犯敢行の奸商續出の傾向あり、又爆發物使用不正漁業は盛

漁期に於て依然其の跡を絶たざるのみならず其の方法手段益巧妙を極め逐年此の種犯罪増加の趨勢を見せたるを以て特に之か取締を嚴重にし一方水産組合又は漁業組合を利用し、其の他關稅官署及内地關係各縣とも連絡して之か制遏撲滅に努めしを以て逐年檢舉率の向上を見其の成績良好なるを認むるも、近時發動機船の發達に伴ひ盛漁期に於ける不正漁業は根絶の域に至らず嚴に取締を勵行しつゝある所以なり。

### 銃砲火藥營業者調

(昭和元年十二月末日現在)

種別	道別											計			
	京畿	忠北	忠南	全北	全南	慶北	慶南	黄海	平南	平北	江原		咸南	咸北	
銃砲商	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
火藥商	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
火藥倉庫	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
火藥貯藏所	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
銃砲修繕業	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
銃砲製造業	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
計	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

備考 X印は兼業を示す

### 火藥類の輸移出入

(昭和元年十二月末日現在)



年別	有煙火藥		爆藥		工業用雷管		銃用雷管		銃用實包		導火線	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
大正十年	三三三、七四〇	三三三、七四〇	九四〇	五七、七〇〇	二四、〇〇〇	一八、八五〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三三、九三〇	一、〇〇〇	五、八三八、三三〇	
大正十一年	三六三、八〇二	三六三、八〇二	五、五〇〇	五、〇一六	四、五〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	四、五〇〇、八八〇	
大正十二年	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇	七、一〇〇	六、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	
大正十三年	二、三九二、三三三	二、三九二、三三三	二、一七五、三三三	七、一〇〇	八、五〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	
大正十四年	六、九二八、三三三	六、九二八、三三三	九、五〇〇	六、二〇〇	七、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	
大正十五年	七、九二八、三三三	七、九二八、三三三	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	
昭和元年	七、九二八、三三三	七、九二八、三三三	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	
大正十四年 昭和元年 昭和十五年 昭和十六年 昭和十七年 昭和十八年 昭和十九年 昭和二十年	七、九二八、三三三	七、九二八、三三三	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	

備考 ○印は増、×印は減を示す

### 二 煙火、引火質物貯藏所其の他危険物取締

煙火は大正元年十二月府令第四十七號を以て煙火取締規則を制定し煙火の製造、販賣、貯藏、打揚等に關し取締概して良好の成績を挙げ來れるも其の十年間に於ける實施の概況と現下の狀勢とに鑑み尙將來の進展を慎重審議の結果昭和二年一月府令第四號を以て全文に亘る大改正を行ひ取締の完璧を期せんとしつゝあり。

引火質物貯藏所は明治四十四年六月府令第六十六號を以て取締規則を發布し石油、酒精、揮發油、

構寸に之を適用したり、然るに該規則は貯藏所の位置、構造、設備及貯藏數量等に關する事項の規定を缺き此等は該規則取扱手續を以て之を補ひ居りしも取締上支障なきにあらざるを以て大正八年府令第十二號を以て該事項を本則に規定すると同時に構寸は引火質物より之を削除し尙ほ危害豫防上緊要なる事項を除くの外幾分其の制限を緩和し且つ許可取消、法人處罰に關する條項其の他二三の條項を改正又は追加したるか實施の狀況概ね良好なり。

前項の外鹽素酸加里、鹽素酸曹達其の他爆發性危険物品に付ては朝鮮に於ては未だ其の需要多からず、従つて取引及貯藏數量僅少なるを以て特に取締規則を制定するの時機に達せず當分從來の如く警察犯處罰規則等の一部規定に依り取締を爲すも支障なしと認む。

### 煙火及引火質物營業者調

(昭和元年十二月末日現在)

種別	道別		計
	京畿	忠北	
煙火製造業	一	一	二
煙火販賣業	三	三	六
引火質物貯藏所	三	三	六

備考 ×印は營業を示す



### 三 狩獵取締

一四二

從來朝鮮に於ては狩獵に關する法規なく其の保護を要すると否とを問はず之か捕獲は各自の自由たりしか將來に鑑る所あり遂に明治四十四年四月狩獵規則を制定し之を發布せり、其の後大正四年及大正九年に一部改正行はれたり、本規定の要旨は野生鳥獸の捕獲、野生鳥の巢、卵及雛の採取、狩獵の場所、方法及時季、學術研究又は有害鳥獸驅除其の他特別の事由に由る保護鳥及狩獵期間外の特別捕獲、狩獵免狀、免許手数料等の事項を規定したりしか大正十四年九月更に之を改正し狩獵期間を九月十五日より翌年四月三十日迄とし、但し虎、豹、熊、熊、山猫、狼（ヌクテを含む）、猪、獐以外の獸類及雉の捕獲は十一月一日より翌年二月末日迄杜鹿の捕獲は二月一日より四月三十日迄とし免許手数料は甲、乙、特別の三種にして甲種（張網又は鷹を以て鳥類を捕獲するもの）は七圓、乙種（銃器を以て鳥獸を捕獲するもの）は二十圓、特別（藥用材料の銃器を以て鹿、熊其の他一定の野生獸類を捕獲するもの）にして免許有効期間一箇年但し杜鹿の捕獲は二月一日より八月末日までの免許を得むとするもの）は七十圓に値上げ濫獲の防止に努めたる結果免狀受有者の例年に比し三分の二に減少せり、而して取締の狀況概して良好なり。

### 四 電氣事業取締

電氣事業に關しては明治三十二年創りて京城に於て韓美電氣會社なるもの、創立を見るに至りたり従つて舊韓國政府時代には之か取締に關する法規の制定なかりしか日露戰後邦人の渡鮮するもの増加

すると共に該事業は勃興し爲に明治四十四年三月現行取締法規の發布施行を觀るに至りたり。本令の主たる規定事項は事業經營の出願、工事施行の認可、料金其の他電氣供給條件の認可、検査及使用の認可、主任技術者の資格、工事に關する規程、事業の監査、器具物品の試験又は危険の虞あるときは改修、撤去、使用停止を命する等必要な事項を規定せしか施行後最も良好なる効果を收めつゝあり。因に昭和二年十二月末現在に於ける電氣事業者の總數は百五十四、内營業用七十一（未開業のもの七を含む）自家用及官應用八十三にして、之か總發電力は三十萬四千五百五十九「キロワット」、内營業用開始のもの三萬六千六百三十三「キロワット」、同未開業のもの二十四萬九千二百一十一「キロワット」、自家用及官應用一萬九千二百八十五「キロワット」にして之か需用狀態は電燈需要家十五萬一千九百八戸電燈數五十六萬五千八百四燈にして電力需用家一千六百五戸電動機二千六十八臺に及び漸次發達を見つゝあり。

### 五 原動機取締

原動機の取締は各道共奮理事廳令を以て之を取締つゝありしか、理事廳令は朝鮮人に適用されず不便尠かりしを以て大正四年八月總督府令を以て汽鐘汽機發動機取締規則を發布し同年九月之を施行したりしも時勢の進運に伴ひ各種工業の勃發上嶄新なる高級機關を使用するに至り、從來の規定にて



は取締上適宜を期し難きに依り大正十四年九月之か改正をなし原動機取締規則として發布の日より施行したり、而して本令の主たる規定事項は汽鐘汽機發動機据付の出願及使用認可申請の手續、定期又は特別検査の標準及其の時期又は汽鐘及發動機に異状を生し若くは危険の虞ある場合の届方並適當の設備を命し、使用を停止し、取扱主任者の變更を命する等取締上必要なる事項を規程せしか施行後最も良好の効果を挙げつゝあり。

因に昭和元年十二月末日現在に於ける原動機の總數は二千二百十三基にして之か總馬力數六萬二千百五馬力に及び五箇年前に比すれば事業界の不振に不拘總數に於て約一・三倍の増加を示し將來益々増加せんとするの狀勢にあり。

## 六 交通取締

朝鮮に於ける交通状態は各道の地勢に依り差異あるを免れずと雖年と共に繁激を加へ交通機關も漸を趁ふて發達し山間僻陬の地又は山岳重疊の地にわらざる限り道路開整せられ警察署所在地にして自動車の便なき所今は僅かに數箇所過ぎす。鐵道は國有と私有とありて國有は明治三十三年七月京城仁川間に京仁線布設せられたるを濫觴とし爾來京釜、京義、湖南、京元及咸鏡の各線並其の支線開通し大正十五年末に於ける總延長一千三百〇九哩を算し之に私設鐵道四百六十四哩を加算すれば其の發

達運々たりと雖二十箇年間に一千七百七十三哩の布設を見せたり。

鐵道の普及未だ充分と言はれざる今日に於ては高速度の交通機關としては自動車に依るの外なきを以て各地共自動車の營業を爲すもの著しく増加し今や之か延長三千六百四十五里、既成一、二、三等道路總延長の八倍三分に達し各地に於て遞信當局との郵便物遞送の請負、或は鐵道船舶との連絡輸送に活用せられ方に地方交通機關の樞軸たるの觀を呈せむとつゝあり。然れども貨物運搬用としては稍や之れか曙光を認むるに至りたりと雖も依然牛馬車の領域を凌駕するに臻らず、電車に在りては僅かに京城、釜山、平壤の三都市に施設を見るのみにして延長四十哩に過ぎずして發達の見るべきものなし。

以上の如く朝鮮に於ける交通は鐵道、自動車を中軸として漸次逐年發達を爲しつゝあり、從て之に基く事故も亦多きを加へ爲に之か取締に關しては常に細心の注意を用ゐる道路、鐵道の保全につきては各關係當局と聯絡を保ち一方一般民の注意を喚起し事故發生を未然に防く事に努めつゝあり。

自動車の取締に付きては大正十年七月自動車取締規則を改正し同年七月十五日より之を實施し構造速力、検査及運轉手に關する事項等取締上及一般の利害に關する事項に就きては特に適切を期しつゝあり。殊に京城等の交通繁劇なる市街地に於ては交通取締專任の巡查を樞要地點に配置し交通の整理に専従せしむ、其の他人力車取締規則、馬車取締規則、荷車取締規則等の各關係法規と相俟つて交通



の取締は好成绩を挙げつゝあり、尙ほ朝鮮に於ては従来右側通行なりしも種々なる取締上の不便と電車等の交通機關に對する關係に於て著しき危険を感せし爲大正十年十月二十五日道路取締規則を改正し左側通行制を採用し同年十二月一日より之を實施し、實施前後は特に之を民衆に周知せしむるに努め爾來機會ある毎に之か宣傳に努めたる結果其の成績頗る良好なり。

尙ほ近時異常の發達に伴ひ漸次實用化されつゝある航空機に對する取締に付ては未だ成案を見ずと雖中央政府の方針決定と相俟つて施設並取締上の完璧を期せむとす。

鐵道及電車事故

(大正十五年中)  
(昭和元年中)

道名	國有鐵道		私設鐵道		電車		累計	
	件數	死傷	件數	死傷	件數	死傷	件數	死傷
京畿道	八	二	一	一	二六	一九	二四	九
忠清北道	九	七	一	一	一	一	一〇	七
忠清南道	三	三	一	一	一	一	五	七
全羅北道	三	七	一	一	一	一	三	一〇
全羅南道	七	七	一	一	一	一	九	一〇
慶尙北道	九	四	一	一	一	一	一〇	一〇
慶尙南道	一	一	一	一	一	一	二	二
畿甸南道	二	一	一	一	一	一	三	三
總計	三〇	二〇	七	五	三〇	二六	六〇	三三

道名	道路不完全に依るもの		運轉手の過失		被害者の注意		車輛又は樹木障		其他		計
	件數	死傷	件數	死傷	件數	死傷	件數	死傷	件數	死傷	
黃海道	二	三	一	一	一	一	一	一	一	一	二
平安南道	九	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一三
平安北道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	五
江原道	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三
咸鏡南道	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	六
咸鏡北道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二
總計	二〇	一六	六	五	三	三	三	三	三	三	三〇

備考 本表中には自殺等は計上せず

自動車事故

(大正十五年中)  
(昭和元年中)

道名	場所	道路不完全に依るもの		運轉手の過失		被害者の注意		車輛又は樹木障		其他		計
		件數	死傷	件數	死傷	件數	死傷	件數	死傷	件數	死傷	
京畿道	市街地	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
忠清北道	市街地	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
忠清南道	市街地	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
全羅北道	市外	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
總計		四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四











酌婦	藝妓	藝妓	藝妓	貸座敷
× 二四二	× 九三	× 九二	二五	三三
三	一	三	一	一
四	三	三	× 四	一〇
三	一六	三三	九	二四
一八	二〇	× 一〇七	× 一三六	一三
三	三	二六	一六	一六
三	八七	× 二〇	× 一三	× 一〇
× 九	一八	一五〇	× 一四	一三
× 一八	三八	× 二九二	一〇	八
三六	一	二二	一	一
四	一	八	一	一
× 二〇	一七	一四九	一	三〇
一〇	三三	二	六	四
× 三三	三、一七	× 三、一三	× 三、一八	× 三、一〇

備考 X印は兼業を示す

一五二

### 九 私娼取締

従来朝鮮に在りては賣笑婦に對する何等取締を行ふ所なく隨所に私娼出沒し風俗衛生上看過すへからざるものありしか併合以來先づ明治四十五年發布の警察犯處罰規則中に私娼處罰の規定を設け越えて大正五年料理屋、飲食店、藝妓、酌婦、貸座敷、娼妓等の取締規則を發布し法制の劃一を計り取締に任したる爲舊來の面目を革むるところ少からざりしと雖因習の久しき一朝にして之等の弊風の掃滅を期し難く生活難其の他種々なる社會上の缺陷は數に於て多少の差こそあれ依然彼等の踪影を止め巧みに取締官憲の視線を避け賣春行爲の密行せらるゝものあるは誠に遺憾とす、近時公娼問題の高調と

併て私娼の取締は極めて喫緊事と認め在來の取締方法たる營業監査、戸口調査、巡察其の他の機會に於て臨檢を行ふの外私娼の弊に陥り易き前記の接客業者に對し必要に依りては雇女の數を制限し或は雇入當初の實情を調査し苟も雇傭後賣淫行爲に依り前借金を支拂はしむるか如き又は多額の前借金を契約の内容とするもの、如きは絶対に許可せざる等の方針に依り徹底的取締を期しつゝあるも尙ほ大正十三年七月の調査に依れば全鮮に散在せる私娼及其の疑ひあの方内鮮人を通して實に七千六百五十一人の多きを算するの狀況に在るを以て一段の革正的取締を要するものあり。

### 十 質屋取締

質屋の取締に關し朝鮮人に適用すべき法規としては光武二年十一月法律第一號典當舖規則及農商工部令第三十一號典當舖細則ありしか爲取締上甚しき不便なかりしも内地人に就ては領事館令又は理事廳令を以て取締法規の定めありしのみ、其の規定事項甚しく區々に亘り從て取締上の緩嚴其の宜しきを得ざるのみならず、尙取締法規なき地方に於て支障尠からず、殊に併合以來内地人の朝鮮内に移住する者逐年増加し來り開港地は勿論其の他の地方にも内地人の質屋營業を爲す者多きを加へ全朝鮮内に施行すへき共通法規の必要を感ずるに至りたるのみならず、内地人と朝鮮人との取締上權衡亦甚しき差違あり不都合尠からざるを以て明治四十五年三月制令を以て質屋取締法に依らしめ内鮮人を同一